

阪大 —地域に生き世界に伸びる— NOW



OSAKA UNIVERSITY

6

2012/No.132

www.osaka-u.ac.jp

トピックス

大阪大学未来戦略 (2012—2015) — 22世紀に輝く —

【クローズアップ】

生体統御ネットワーク医学教育プログラム

— グローバルに活躍する生命科学サイエンティストを生み出す! —



2012 6月号
No. 132

目次

トピックス	2
クローズアップ	16
役員室だより	20
ナウススペシャル	26
キャンパスニュース	28
記念講義	37
表彰等	44
人事	52
インフォメーション	63
職員インタビュー	65
阪大の組織 A to Z	66
海外拠点だより	68
交流協定大学	70
クラブ&サークル	71
トピックス	72

大阪大学未来

大阪大学未来戦略(2012-2015)の公表にあたって



「大阪大学未来戦略(2012-2015)ー22世紀に輝くー」は、100年後の22世紀において大阪大学の学術・研究がひとときわ輝き、世界屈指の総合大学となることを目指し、その目標を実現するため、総長としての私の任期中に取り組むべきこと、そのための基盤づくりとして実行すべき項目を掲げたものです。

私は昨年8月に大阪大学総長に就任して以来、大学は「教育と学問の府」であり、学問や研究の「本質を究める」ことの重要性、普遍性を一貫して学内外に発信し続けてきました。もとより大学の使命は、社会に役立つ人材を教育・育成するとともに、人類と社会に貢献する科学や技術を発展させることです。大学は未来の源泉であり、未来を切り拓く力そのものです。大阪大学は81年前に創設され、これまであまたの学術・研究業績を挙げ、多くの有為な学生を社会に送り出してきました。欧米の数百年、一千年続く大学とは比べようありませんが、企業でも100年存続させることは並大抵のことではありません。

大阪大学が22世紀においても輝き続けるためには、いまの私たちは何をなすべきか、そして後世の人たちのために何を残すべきかを真剣に考え、議論し、策定した「未来のための戦略シナリオ」です。過去～現在～未来へと大阪大学をつないでいくため、全力を挙げて一つひとつを実行に移し、未来における大阪大学の基盤を確固たるものにしていく決意です。

引き続き、学内外に積極的に情報発信をしていきますので、大阪大学ホームページ(www.osaka-u.ac.jp)にご注目ください。

2012年5月

大阪大学総長

平野俊夫

表紙写真：8面体アンビル

基礎工学部の川井直人教授(1979年没)によって1960年代半ばより開発され、今では「KAWAI型」として世界的に知られている高圧装置の心臓部、超硬合金製の多面体アンビル。初期型では組み合わせたアンビルを油の中につけて加圧する方式がとられており、実験室の床が油まみれになるのを近松の世話物をもじって「男殺し油の地獄」と著書で紹介されていることから開発黎明期の壮絶な実験の様子がうかがえる。

表紙デザイン：クリエイティブユニット



アンビルは高圧装置の心臓部に組み込んで使用される

戦略 (2012—2015)



— 22世紀に輝く —

はじめに

国立大学法人大阪大学は、「物事の本質を究める学問と教育が大学の使命であり、この使命を果たすことで大学は社会に貢献していく」という理念のもと、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、大阪大学を学問と教育の世界的拠点とするとともに、高い倫理観を保持した優秀なグローバル人材を育成するという志を有している。

「国家100年の計は教育にあり」と言われているように、わが国の将来は、ひとえに人材育成にある。大阪大学は、何が物事の本質であるかを見極める能力を有し、各方面で指導的立場に立てるグローバル人材を世に送り出すという使命を担っている。また、社会に適切な変革をもたらすイノベーションの推進や心豊かで平和な社会の実現は、物事の本質を究める基礎研究の振興なくしてはありえない。社会が大学に求めているのは、このような知的創造活動としての基礎研究の推進であり、それに基づいた産学連携・社学連携である。大学でしかできない基礎研究や学問に基づいた教育を推進していくことにより、社会の発展と福祉に貢献するとともに、教育・研究のあり方について積極的に提言・実践していく。

個々の構成員が澆刺と自由に活動でき、多様性を有するすべての教育研究組織が協力し、かつ独自性を発揮することが大学発展の根本である。そのうえで、総長のリーダーシップのもと、執行部、事務機構、教育研究組織、それぞれの構成員全員が社会の期待に応えることができるように、積極的に大学改革を推進していく。これらを踏まえ、大阪大学は原点である適塾や精神的源流となっている懐徳堂の精神を後世に引き継ぎながら、世界屈指のグローバル大学として22世紀においても輝き続ける基盤を、以下の8つの方針に基づき、構成員全員の英知と力を合わせて構築していく。

未来戦略8箇条

- 1: 科学政策や国際戦略の策定、分野横断的な研究領域の開拓、深い専門性と多様性を有するグローバル人材の輩出、基礎研究の推進、若手研究者の育成など、大学全体が取り組むべき戦略的課題に柔軟かつ機動的に対応するために「大阪大学未来戦略機構」を設置する。総長のリーダーシップが発揮できるように、機構長を総長とし、本機構を大阪大学における大学改革の柱と位置づける。
- 2: 全学教育推進機構を核に、教育のグローバル化を強く推進する。学生の海外派遣・留学を支援する施策を充実させるとともに、地球規模での多様な人材により構成されるグローバルキャンパスの早期実現を目指す。
- 3: グローバルキャンパス実現のための国際戦略を策定する。この過程で海外拠点のあり方を見直すとともに、より実質的な大学間交流を目指す。
- 4: 個人の観点と組織の観点を共に活かし、中長期的な視点に立って全体像を見据えつつ、さらに総長や各部局長の考えに基づき、大阪大学の将来の発展につながるような基礎研究の推進や人材育成などに、限られた財源の有効活用が図れるよう、大学内の財源配分を再検討する。
- 5: 施設の維持管理を将来にわたって計画的かつ持続的に大学の責任で実行していく。このために必要となる財源確保の方策を策定し実行する。また、大学が保有する施設や土地等を中長期的展望に立ち、処分を含めてより有効活用するための施策を策定する。
- 6: 大阪大学の未来戦略に基づいて、同窓会組織とより緊密な連携を図るとともに、未来基金の恒常的な基金増加方策を計画し実行する。
- 7: 大阪大学の基本姿勢を広く社会や国に発信し、社会により開かれた大学を目指す。この目的に沿った広報・社会学連携活動を国内外の区別なく、さらに強化する。
- 8: 健康でより快適なグローバルキャンパスを目指し、施設の充実のみならず、学びがいや働きがいを感じ、安全で平穏に学習や研究に没頭できる、心身ともに健康で快適な環境の維持に資する施策を立案し実行する。

未来戦略8箇条等を実現するための具体案を以下に記載する。

大阪大学未来戦略機構の創設

◆ 大阪大学未来戦略機構の立ち上げ

- 未来戦略機構 [Institute for Academic Initiatives(IAI)] のグランドデザインを策定し、国内外の研究動向の調査・解析と、それに基づいた企画・提言を行える体制を構築する。

◆ 戦略企画室の設置

- 横断的な教育戦略ならびに教育改革についての企画立案、グローバル化推進プログラムの策定を行う教育改革チームを組織する。
- 国内外の研究動向・研究支援動向を把握し、本学として特徴ある研究や将来性のある研究者・研究分野の発展に資する未来戦略・企画を提案する研究企画チームを組織する。
- 大学の有する教育・研究資源を的確に把握し、戦略的大学経営に資する様々なデータの収集、調査、分析、提供、提言を効率的・効果的に行うIR(機関研究) チームを組織する。

◆ 研究室部門の設置

- 専任教員を配置し、新しい学問領域の開拓を行うとともに、大阪大学の未来戦略に対する指針を示す。

◆ 博士課程教育リーディングプログラム等の大学院教育の実施

- 革新的大学院教育を推進し、国際的視野と独創力を持った博士人材を育成する。

◆ 最先端研究グループの育成支援

- 本学で育成された独創的研究を国際的最先端研究へと発展させるため、部局横断型研究体制の構築を支援し、国際的研究拠点の創出を目指す。

本質を究め未来を創造する研究

◆ 研究支援体制の充実による基礎研究の推進

- 相談員制度及びチャレンジ支援の体制を充実させる。
- 時代を切り拓く基礎研究を長期的視点から支援する寄附講座の設立を目指す。
- 在外研究やサバティカル制度を活用し、研究者に自己研鑽やリフレッシュの機会を提供する各部局の取り組みを支援する。

◆ 大阪大学の最先端研究に対する支援

- 学際的・融合領域の研究を集中的に支援するため、最先端ときめき研究推進事業を実施する。
- リサーチ・アドミニストレーターを充実させ、最先端研究プロジェクト推進のための大型資金の獲得や研究環境の整備等を支援する。

◆ 研究推進環境の改善

- 研究に専念する時間を確保するため、部局の意思決定プロセスの見直しを促す。
- データ管理体制の一層の一元化を図り、研究に投入できる時間の拡大・確保を目指す。

世界に通用する人を育む教育

◆ 教育目標の追求

- 分野別に明確な学習成果目標を設定し、質の高い専門教育を実施するための教育改革を行う。
- 学部から大学院まで一貫した全学横断教育を推進し、教養、国際性、デザイン力の3つの汎用的能力を涵養する。

◆ 教育の質の保証と教育改革の推進

- 対話型や課題発見型授業等の能動的学習法の調査・企画を行うとともに、厳格な達成度評価システムを構築し、全学と部局の教育改革を推進する。
- 学生相互の、また学生と教員のコミュニケーションをさらに活性化させる場を整備し、学生にとっての主体的な「学び」の環境を醸成する。

◆ グローバル人材の育成

- 外国語運用能力を高めるカリキュラムを充実させるとともに、英語コースの授業を日本人学生にも提供し、留学生と日本人学生が共に学ぶキャンパスを実現する。
- 学部における留学生の比率を、できるだけ早期に10%に引き上げる。留学生に対する日本語教育を充実させるとともに、単位互換制度やダブルディグリー制度を整備する。

◆ キャリア形成とインターンシップの推進

- 社会のニーズを先取りした人材の円滑な流れを実現する全学支援制度を整備し、キャリア開発支援やキャリア形成のための教育を充実させる。
- 国内外の各種インターンシップ等を通じた実践的教育を推進し、社会の現場を知り、ネットワークを広げる能力を持つ学生を養成する。

◆ 優秀な学生の獲得と学生支援の強化

- 入試制度改革や新たな教育プログラム開発などにより、国内外の優れた人材がより多く大阪大学に集まる工夫を行う。
- 就学支援や課外活動支援を強化し、教育条件の整備を図る。

世界が大阪大学を目指す国際戦略

◆ 学生・研究者の受入れと派遣の促進

- 学生・研究者の受入れと派遣のプログラムの新規開発と既存プログラムの充実を図る。
- 優秀な留学生獲得のため、より組織的かつ効率的な留学フェアを実施する。また、海外の高等学校を対象とした指定校制度の導入を検討する。

◆ 国内外の大学及びコンソーシアム等に関する連携戦略の実施

- 海外の大学等との学術交流協定締結に関する基本方針の見直しを進め、協定に基づく実質的かつ効果的な学術交流及び共同研究を推進する。
- 二国間交流、多国間交流ネットワークに基づく各種コンソーシアムへの参加と活動に関する明確な方針を定め、活動の実質化、効率化を図る。

◆ 海外同窓会組織の充実

- 海外における交流支援のネットワークを構築するため、海外同窓会組織をさらに充実・強化する。

◆ 海外拠点の再構築

- 地域の特性に応じたミッションを明確にし、海外拠点の設置形態について検討する。

豊かな社会を生み出す産学連携

◆ 産学官の連携の深化と拡充

- 企業等との協働研究所や共同研究講座を通じた「インダストリー・オン・キャンパス」を深化させるとともに、これらを利用して産学連携での人材育成や挑戦的な研究への取り組みを進める。
- 産と学、学と官の情報交換や人的交流を密にし、研究課題の発掘と設計を行い、新規プロジェクトなどの立ち上げを支援する。
- 文理の分野を超えた産学連携の立ち上げを試みる。

◆ 持続的・自立的な産学連携活動のための組織の見直し

- 契約及び知的財産の取り扱いや技術移転などに関わる事柄について、自立化を目指した戦略の検討を進める。
- テクノアライアンス棟に産学連携の運営機能を集中させるとともに、産学連携組織を見直す。また、事務系職員の資質の向上と育成のため、体系的なシステムの導入を検討する。

大学と人と地域が交流する社会学連携

◆ 大学知を軸にした相互市民教育の展開

- 研究者の研究成果公開活動（アウトリーチ活動）を支援し、その推進を通じて、大学知と大学の人的資産を広く社会に浸透させるよう継続的に取り組む。
- 総合学術博物館、適塾記念センター、21世紀懐徳堂、同窓会組織、各部局が相互に連携を強化して、各種の講座やセミナーなどの催事を効率的に行う。

◆ 地域社会や他大学等との連携強化

- 大学コンソーシアム等を核とした他大学との連携事業を企画・実行する。
- 近隣自治体との連携協定に基づき、社会人教育・生涯学習に関わる種々の共催事業などを一層強化するとともに、相互保有施設の積極的活用に取り組み、多様な社会学連携活動の場を提供する。

質と倫理を兼ね備えた大学病院

◆ 豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 高度専門職業人として、高い見識と技術、リサーチマインドを持った医療人を育成するための循環型医師キャリア形成システムの構築を推進する。
- 看護・医療技術領域の医療専門職の育成を図るとともに、医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を行う。

◆ 未来医療の開発・実践と地域医療への貢献

- 未来医療センターと臨床試験部を発展的に統合・改組し、先端医療開発部（仮称）を設置して、創薬基盤を形成する拠点としての臨床研究体制の充実を図る。
- 『『口の難病』から挑むライフ・イノベーション』事業を推進し、近未来歯科医療センターにおける先進歯科医療及び再生歯科医療の充実と臨床研究の拡大を図る。
- 地域におけるがん診療体制の一層の連携強化を図るため、オンコロジーセンター棟を新設し、がん診療の機能を集約化する。

◆ 病院運営のための基盤強化

- 院内の診療・運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 患者サービスに資する体制の見直しを進め、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 防災対策及び災害医療についての検討を行い、院内外における連携体制の強化を図る。

教育と研究の基盤を支える大学運営

【 未来を見据えた財務運営 】

◆ 財源配分の見直し

- 基礎研究の促進を目指して、研究者への配分を含めた間接経費配分の見直しを行う。
- 病院の経営努力や産学連携の推進により大学の収入を確保するとともに、未来を見据えた競争力の維持・向上のために大学内の財源配分を見直し、大阪大学未来戦略の実現に充てる仕組みを構築する。
- 大学の未来戦略を具現化するために、総長裁量経費を基礎研究の推進、グローバル人材及び若手研究者の育成に重点的に配分する。

◆ 財務基盤の強化

- 国の財政事情による運営費交付金の削減などに対応しうる財務体質を強化するため、固定的経費の見直しを含む財務基盤の検証作業を徹底する。
- 未来基金への寄附の拡大を目指し、個人・法人向け活動に積極的に取り組む。

◆ 効率的な資産運用・活用

- より詳細な資金計画に基づく効率的な資金運用を進めるとともに、中長期的なビジョンに立った計画的な保有資産の有効活用を図る。

◆ 業務改革等の推進による経費節減

- ルーチン業務をアウトソースするなど、業務改革を推進する。
- 光熱水費などの契約や仕様を見直すとともに、新たな契約方式の試行など、経費節減のための積極的な取り組みを行う。

【柔軟な組織・体制の整備】

◆ 機動的な運営体制の構築

- 既存の室体制を廃止し、各理事は、総長のリーダーシップのもと理事補佐と共に、関係部署との更なる連携強化を図り、諸課題への対応策の企画立案能力と実行力を強化する。
- 執行部と部局長との間の意思疎通を定期的に図り、開かれた透明な大学運営を進める。

◆ 教育研究組織の見直し

- 部局が果たすべき役割や機能の必要性を戦略的に判断し、教育研究組織の改組、統廃合、新設（基本的にスクラップ・アンド・ビルド方式）等に柔軟に取り組む。
- 未来戦略機構を活用し、中長期的視野のもと本学独自の部局横断的な活動計画を策定するとともに、その実現に必要な組織整備を進める。

【柔軟な人事制度の構築】

◆ 人事雇用制度の柔軟化による優秀な若手教員・外国人数員・研究者・医療技術者の確保

- 任期付教職員に係る雇用制度の弾力化や特例教員制度の創設等、人事雇用制度の一層の弾力化を図る。
- 退職金割増制度の改善を図ることなどにより、人事の活性化及び退職後の人生設計の選択肢の多様化をより一層推進する。
- テニユアトラック制度の充実や大学留保ポストの活用等により、優秀な若手教員や女性教員の登用を促進する。
- 医療従事者の勤務の特殊性に対応する柔軟な人事給与制度の構築を引き続き推進する。

◆ 大学経営に必要な高い専門的能力を持つ職員の採用・育成

- 職員採用試験の多様化やスタッフ職等の活用により、多様な能力・個性を有する人材の雇用や高度の専門性を有する人材の登用をより一層促進する。
- 階層別研修の体系化や専門研修の充実、メンター等の育成・配置によるオン・ザ・ジョブトレーニングの充実等を推進し、職員全体の専門性の向上を図る。
- 勤務評価をより明確なものとするなど評価制度を充実させ、それに基づく昇任、昇給等を実施する。

◆ 多様な人材の活用

- 「大阪大学男女共同参画推進基本計画」を策定し、男女が共に働きやすく、学びやすい環境を整備する。
- 新たな障害者雇用促進の方策を実施し、能力を十分に発揮して働くことのできる環境の整備を積極的に推進する。

【 事務改革・業務改善の推進 】

◆ 柔軟かつ活力に満ちた組織の構築

- 教育・研究のサポートの強化、さらには社会の要請に適切に対応できるよう、柔軟で活力を持った事務体制を構築する。
- プロジェクトマネジメント・チーム（PMT）や未来戦略機構等において、将来を見据えて計画的に若手事務職員の育成を行う。
- 全教職員の協力、相互扶助による快適な職場を構築するため、意識改革、構成員間のコミュニケーションの向上及び情報共有の強化を図る。

◆ 業務運営の効率化の推進

- 本部事務機構と部局の構成員が一体となって、会議を含む不要業務の削減や効率化できる業務の徹底的な洗い出しを行う。
- これまでの事務改革などによって導入された制度やシステムを検証し、それらの改善や見直しを行う。

【 次期中期計画に向けた計画・評価 】

◆ 計画的な中期計画等の達成及び戦略的な次期中期計画等の策定

- 中期計画等の確実な達成を目指した年度計画を策定するとともに、中期計画等の進捗管理を強化し、効率的な評価の実現を目指す。
- 評価結果に基づく分析を踏まえ、本学の活動を戦略的かつ積極的にアピールすることのできる次期中期目標・中期計画の策定を行う。

◆ 適正かつ効率的な評価体制の推進

- 自己点検・評価、外部評価など各種評価の質の向上を支援するとともに、評価の結果を法人運営に活用する。
- 大学基礎データの充実、活用を図るとともに、大学基礎データの分析を行う体制を強化・再編する。

【社会と大学をつなぐ双方向の広報】

◆ 大学知の情報収集と国内外に向けた広報活動の推進

- 大阪大学の全構成員が共有できる「広報ポリシー」と「広報年間計画表」を作成し、効果的な広報の手続きについて分析・企画するとともに、社会に向けた大学知の集積・発信と提供（プレスリリース）を積極的に推進する。
- 公式WEB ページ、ツイッター、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの活用などウェブコンテンツを充実させるとともに、紙媒体等の全ての広報手段との連携を強化する。
- 国内外の優れた研究者・学生を獲得するため、大阪大学の研究者検索システムの改善を行う。
- 広報・社会学連携オフィスやクリエイティブユニットなど、広報強化のため適切な支援体制を構築する。

【情報環境の高度化】

◆ 情報基盤の充実と効率化

- 学内の情報システムを共通基盤プラットフォームへ集約化することを推進し、セキュリティの向上やシステムの効率化を図ることにより維持管理経費の削減を行う。
- 大阪大学総合情報通信システム（ODINS）、全学IT 認証基盤システム、学務情報システム、教員基礎データシステムなどの有効活用に関して事務改革とも連動して効率的な環境整備を行う。
- 電子ジャーナルをはじめとする学術情報基盤を整備し、より一層の効率的な活用を図る。

【安全・快適なキャンパス環境の整備】

◆ 学問と教育の世界的拠点にふさわしいキャンパスの整備

- 未来戦略機構の活動拠点を、吹田キャンパス及び豊中キャンパスに設置する。
- 最先端医療融合イノベーションセンター、生命動態システム科学研究拠点施設、文理融合型総合研究拠点施設などの整備を実施する。
- 建物の耐震化やライフラインの改善を図るとともに、災害時における地域住民の応急避難場所、地域の拠点病院としての観点からも必要な対策を講じ、安全・安心の確保に努める。

◆ 全学的な施設・環境マネジメントの推進

- 全学的な視点による既存施設の効率的な利用を促進するとともに、施設老朽化対策の制度化を図る。
- キャンパス低炭素化推進計画に基づき、省エネルギー及び温室効果ガスの削減に向けた取り組みを推進する。

【リスク管理の維持と向上】**◆ 快適で危機管理意識の高い教育研究・職場環境の確立**

- 保健センター、学生支援ステーションを中心とするメンタルヘルスケア体制及びハラスメント防止体制の連携を強化し、全学的なセーフティネットを構築する。
- 安全衛生管理、危機管理に関する研修や体験型机上訓練等をFD（ファカルティ・ディベロップメント）、SD（スタッフ・ディベロップメント）等へ積極的に組み込む。

【学生と教職員が健康で快適に過ごせるキャンパスの形成】**◆ 学生及び教職員のフィジカルヘルスとメンタルヘルスの向上**

- フィジカルヘルス及びメンタルヘルスのリテラシー型健康教育を推進することにより、疾病や体調不良、メンタルヘルスの不調などに対して一次予防可能な対処能力の向上を図るとともに、教員へのFDを推進する。
- 学生及び教職員の健康診断受診率の向上を図り、フィジカルヘルス及びメンタルヘルスのサポートシステムを確立する。
- 青少年を含む学生及び教職員への受動喫煙防止を徹底するとともに、敷地内禁煙を目指す。



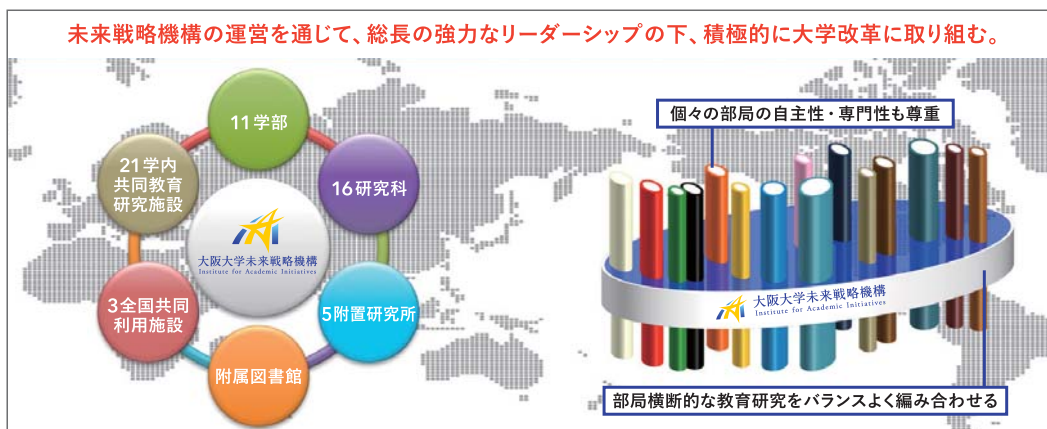
大阪大学未来戦略機構

Institute for Academic Initiatives

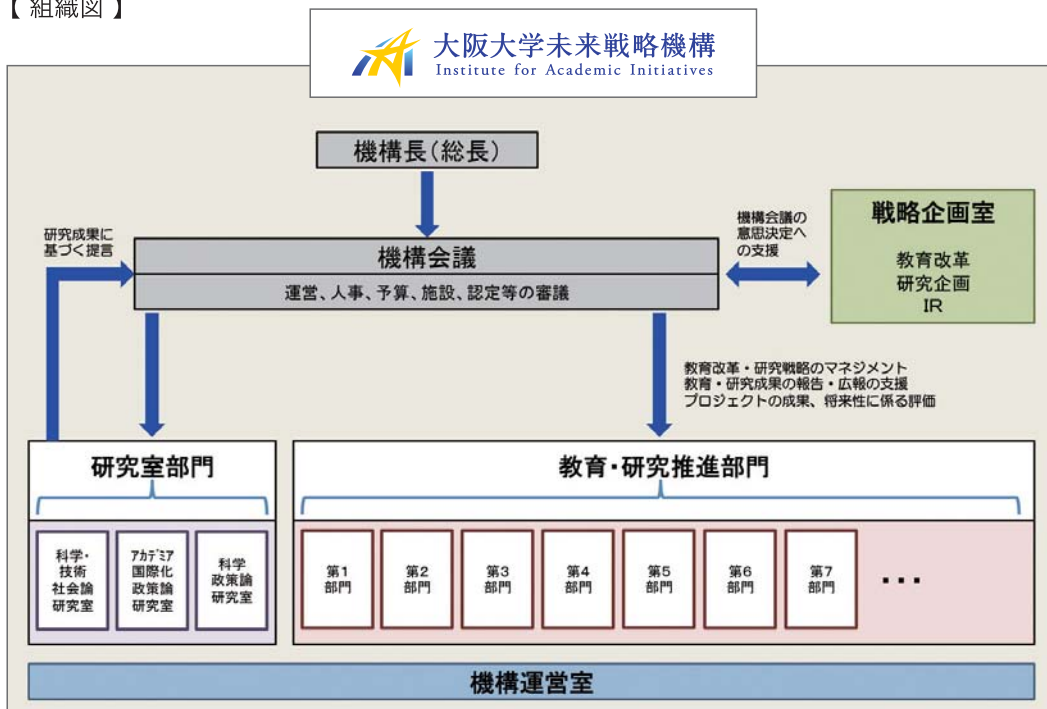
大学の中の大学

参考

【イメージ図】



【組織図】





大阪大学未来基金

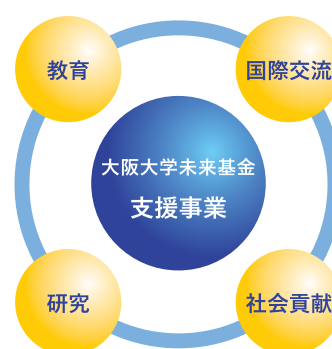
—— 未来の大阪大学のための

教育・研究環境の充実、人材育成への活用 ——

「学問と教育の府」として100年先を見据え、基礎的な学問や学術研究の探求、人材の育成に取り組む大阪大学。大阪大学未来基金は、これらを支える持続的な財政的基盤としての役割を担っています。

大阪大学未来基金は、高い専門性とともなひ広い視野と豊かな教養を持つ人材育成のため、皆さまからいただいたご寄付を、「教育」「研究」「国際交流」「社会貢献」を軸とした学生支援事業に還元しています。さらに基金として運用し、将来の「阪大生」や大阪大学の研究、さらには社会貢献にも活かしていきます。

大阪大学未来基金は、基金の受入目標を100億円に設定し、大阪大学の研究拠点として国際的なプレゼンス向上や、学生や研究者への充実したサポートの実現に貢献していきたいと考えています。



大阪大学 基金事務室

TEL: 06-6879-8327 FAX: 06-6879-4337

email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

www.miraikikin.osaka-u.ac.jp

編集・発行：大阪大学総務企画部 企画推進課
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
TEL 06-6879-4471
www.osaka-u.ac.jp

デザイン：大阪大学クリエイティブユニット

生体統御ネットワーク医学教育プログラム グローバルに活躍する生命科学サイエンティストを生み出す！

本プログラムは、文部科学省が平成 23 年度から開始した「博士課程教育リーディングプログラム」のうち「複合領域型（生命健康）」の一つとして採択されたものです。生命科学研究を展開する大阪大学の 6 研究科（理学研究科、医学系研究科、歯学研究科、薬学研究科、工学研究科、生命機能研究科）が結集し、平成 24 年度に開設しました。



第一期生 12 名とプログラム教員（5 月 10 日履修説明会にて）

「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」Interdisciplinary Program for Biomedical Sciences (IPBS) は、新しい博士課程教育プログラムです。分野を融合した先端的生命科学研究を展開することのできる、国際性豊かな研究者を育成します。平野俊夫総長が機構長である大阪大学未来戦略機構に属します。

日本の生命科学では、免疫・神経・再生などの分野が高度に専門化した一方、生体システムを統合的に理解し、難治性疾患を克服するまでには至っていません。そこで、私たちは俯瞰的視野を持ち、疾患の原因究明や創薬に繋がる「生体統御ネットワーク」の研究者の育成を目指します。

5 月 10 日に履修説明会が吹田キャンパスで開催され、書類審査、選抜試験（小論文、面接）の審査により選抜された 12 名の学生が第一期生として顔をそろえました。



平成 24 年度 履修説明会の様子（5 月 10 日）

研究科	専攻	履修学生数
理学	生物科学	3
医学系	医科学	1
薬学	創成薬学	3
工学	応用化学	1
生命機能	生命機能	4

履修生 12 名の内訳

◆プログラムの特徴

【図】にあるように、5年間（6年制大学出身者は4年）のプログラムです。生命科学の分野で最先端の研究を行っている研究者、産官の研究者が教員として集結し、リーダーシップを備え、国際性豊かで分野知識を融合した最先端研究を行うことのできる若手研究者を育成します。2年目からの講義、研究発表などはすべて英語で行われます。

プログラムには、分野横断型の英語講義、英語力強化コース、異分野領域の研究室ローテーション、協定を結んでいる大学への海外インターンシップ、学生による国際シンポジウム開催、企業インターンシップ、などが含まれています。

◆プログラム開始から修了まで

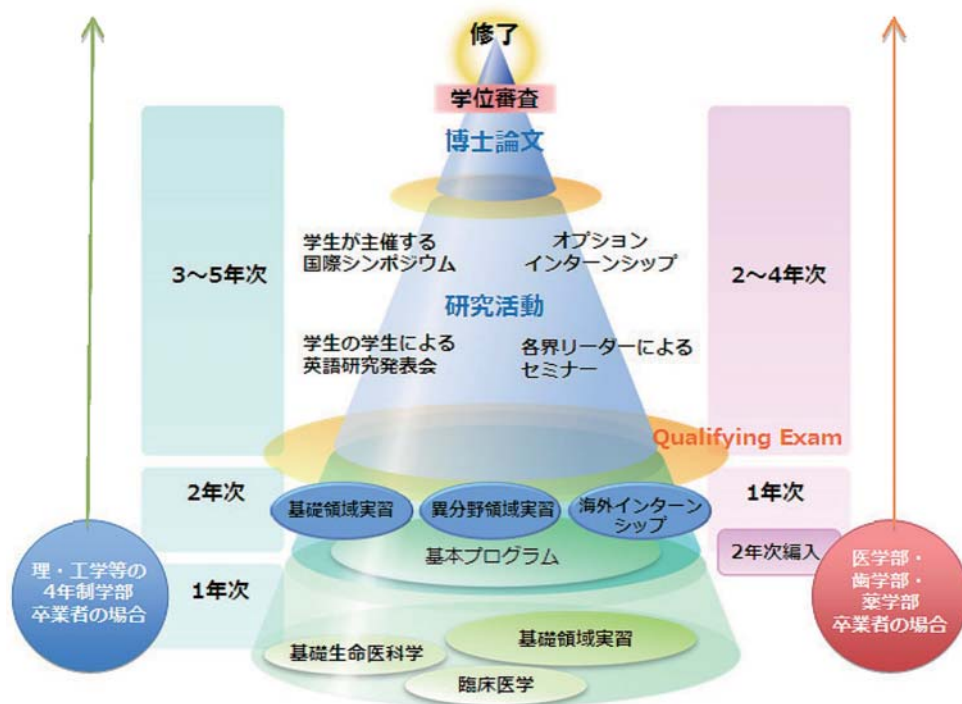
1年目で、主に、基礎・臨床医科学の講義を行います。さらに、生命科学研究に不可欠な英会話教育を重点的にを行います。2年次終了時に行う Qualifying Examination において、本プログラム学生は、これまでの研究内容を英語で発表するとともに、今後の具体的な研究計画を提案し、審査されます。この審査に合格した学生が本プログラムの3年次に進級します。

最終学年での学位審査では、評価チーム（専門分野および異分野の教員から成る）による発表論文の審査および研究発表の審査を行います。また、外国人評価員により英語のインタビューを受けます。これらのプロセスにより、質の高い研究であるかを専門的な立場から厳格に評価するとともに、専門外やアカデミア以外の分野へ発信できる力を総合的に評価します。

◆学位

「生体統御ネットワーク医学教育プログラムにより、本学大学院〇〇研究科△△専攻の博士課程を修了したので博士（□□）の学位を授与する」と記載された学位記が授与されます。

（ただし、〇〇は研究科名、△△は専攻名、□□は学位の分野名）



【図】学位プログラムの内容

～プログラム担当教授への interview ～



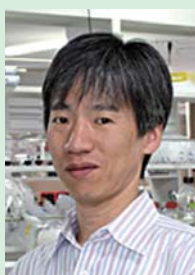
米田 悦啓 教授

医学系研究科長 医学部長
医学系研究科生化学・分子生物学教授
1985 年大阪大学大学院医学系研究科修了

Q. 生体統御ネットワークプログラムでは、どういう人材を育てるのが目的ですか？

一点目は日本の殻にはまらず、広く深く国際的に物事を見据えることができる人。本プログラムの海外インターンシップなどを十分に生かし、将来的にもどんどん外にいて、活躍してくれることを期待しています。あいつがガンバっているから、自分もがんばろうと周りの研究者が思うような人が育つと良いですね。チャレンジ精神を持って、失敗するのを恐れず殻の外に前進してほしいです。

二点目は、やはり、きちっと自分の研究ができる人。自分の研究がきちっとできていれば、留学する時の受け入れ先の選択も広がる。研究発表も積極的にできて、また研究内容も素晴らしいとなると、世界の中でもリーダー的存在に育っていくはずです。



竹田 潔 教授

医学系研究科免疫制御学教授
1998 年大阪大学大学院医学系研究科修了

Q. 生体統御ネットワークプログラムの必要性は何ですか？

生命科学という分野では、専門化している各分野をまとめることが必要だと言われていて、このプログラムでそれをやろうというわけです。大昔は、まず病気があり、病気をなおすためにはどうしたらいいのか、と考えた。それがだんだん、細胞がわかってきて、分子がわかってきて、遺伝子がわかってきた。細分化することによって研究は進んできました。一方で、細分化からいったん全体を統合する方向性に戻さなければ、病気がなおせない。今はそういう時代だと考えています。

Q. 先生が生体統御ネットワークプログラムに関わる「思い」とはどのようなものですか？

僕らは研究が非常に大事だと思っているので、学生にもそれを一番伝えたい。研究は分からないことだらけで、分かっていることはごく一部なんだ、無理難題もあるだろうけど、それは我々が解決していくべき一つの大事な方向なんだよ、と。本プログラムで謳っているように、分野の垣根を超えて、早くから広く全体を見ようとする姿勢が身につけば、きっと将来大きく成長するような人材が出ていくと期待します。

大学院の役目は、私たちでは解決できないような将来の問題に真っ向から取り組んでいける人材を輩出すること。我々を超えてもらわないと困りますし、超える人材がここから育ってくれと信じています。



岡村 康司 教授

医学系研究科統合生理学教授
1989 年東京大学大学院医学系研究科修了

◆出願資格（平成 25 年度募集分）※募集要項は後日ウェブページで公開予定

次のいずれかに該当する者で、かつ、他の博士課程教育リーディングプログラムを履修しない者。

1. 平成 25 年 4 月に本学大学院博士前期課程〔理学研究科（生物科学専攻）、医学系研究科（保健学専攻）、薬学研究科（創成薬学専攻）、工学研究科（生命先端工学専攻、応用化学専攻、環境・エネルギー工学専攻、ビジネスエンジニアリング専攻）〕に入学の者。
2. 平成 25 年 4 月に本学大学院 5 年一貫制博士課程（生命機能研究科）に入学の者。
3. 平成 25 年 4 月に本学大学院医学系研究科修士課程（医科学専攻）に入学の者。
4. 平成 25 年 4 月に本学大学院博士課程〔医学系研究科（医学専攻）、歯学研究科（口腔科学専攻）、薬学研究科（医療薬学専攻）〕（いずれも 6 年制大学出身者）に入学の者。



英語講義の様子（6 月 7 日）



Mini-retreat の様子（5 月 21 日）

本プログラムの成功、これからの発展、また学生の飛躍のため、皆様の温かいご支援とご協力を何卒よろしくお願いいたします。



大阪大学未来戦略機構
Institute for Academic Initiatives

本件に関する問い合わせ先

未来戦略機構 第二部門（生体統御ネットワーク医学教育プログラム）事務室

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2 医学部研究棟 2 階

Tel: 06-6879-2630 Fax: 06-6879-2631

Email: seitai @ stn.osaka-u.ac.jp

URL: <http://stn.osaka-u.ac.jp/>

役員室だより

2012.6 Vol.48

「大阪大学未来戦略（2012－2015） —22世紀に輝く—」の策定

平野俊夫総長のリーダーシップのもと、執行部で「大阪大学未来戦略（2012－2015） —22世紀に輝く—」を策定し、5月に公表しました。

100年後の22世紀において本学の学術・研究がひととき輝き、世界屈指の総合大学となることを目指し、その目標を実現するため、平野総長の任期中に取り組むべきこと、そのための基盤づくりとして実行すべき項目を掲げています。

本学が22世紀においても輝き続けるために、また世界トップ10の大学として大阪大学100周年を迎えるという夢のために、いまの私たちは何をなすべきか、後世の人たちのために何を残すべきかを真剣に考え、議論し、策定した大阪大学の「未来のための戦略シナリオ」です。

特に「未来戦略8箇条」は、大学改革の柱として位置付ける戦略施策です。この8箇条を教職員、学生の構成員の皆さんと共に取り組んでいくことを明記しています。

詳細は、本誌2ページから15ページに記載していますので、ぜひお読みください。



(大阪大学ホームページ)

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/president/president_message/future_strategy

間接経費等財源配分の見直しと施設老朽化対策

「大阪大学未来戦略（2012－2015） —22世紀に輝く—」において、改革の柱と位置付けた「未来戦略8箇条」を実現するための具体的な施策のひとつである「間接経費等財源配分の見直し」と「施設老朽化対策」について、去る4月18日(水)開催の部局長会議で運営方針を説明し、同日開催の役員会で決定後、翌19日付けで各部局長あてに通知するとともに、本学ホームページにも掲載いたしました。改めまして、構成員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

通知文の全文は以下のとおりです。

【基本的な方向性】

国立大学法人大阪大学は、「物事の本質を究める学問と教育が大学の使命であり、この使命を果たすことで大学は社会に貢献していく」という理念のもと、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、大阪大学を学問と教育の世界的拠点とするとともに、高い倫理観を保持した優秀なグローバル人材を育成するという志を有している。

社会に変革をもたらすイノベーションや心豊かで平和な社会の実現は、物事の本質を究める基礎研究の振興なくしてはありえない。社会が大学に求めているのは、このよう

な知的創造活動としての基礎研究の推進であり、それに基づいた産学連携・社学連携である。本学はこれらの使命を果たすことにより人類の発展と福祉に貢献していく。

大学の個々の構成員が澁刺と自由に活動でき、多様性を有するすべての教育研究組織が協力し、かつ独自性を発揮することが大学発展の根本である。そのうえで、総長のリーダーシップのもと、執行部、事務機構、教育研究組織、それぞれの構成員全員が、社会の期待に応えることができるように、積極的に大学改革を推進していく。そして大阪大学が世界屈指のグローバル大学として、22世紀に輝き続ける基盤を構築していく。

【運営方針】

1) 間接経費等財源配分見直し

個人の観点と組織の観点を共に活かすとともに、中長期的かつ全体像を見据え、総長や各部局長の考えに基づき、基礎研究推進や人材育成など、大阪大学の将来の発展により有効活用できるように、大学内の財源配分の方策を以下のように策定する。

◆間接経費は、現在本部50%、部局50%となっている

配分率を、本部 40%、部局 60%に変更する。部局配分は、研究者に部局配分の 3 分の 1、すなわち間接経費全体の 20%が配分されるような配慮を部局長に要請する。研究者の裁量権を強めることにより研究の推進を図るという観点に基づく。

◆寄附金は、本部に 5%、部局に 5% 留保する。寄附金の趣旨を実行するためには大阪大学の環境が必須であるという観点に基づく。

◆共同研究費は、本部に 5%、部局に 5% 留保する。なお、共同研究費は、現在直接経費の 10% 相当額を「産学官連携推進活動経費」として産学連携本部の活動費用として計上しているため、全体経費の 20%を留保することになる。共同研究の趣旨を実行するためには大阪大学の研究環境が必須であるという観点に基づく。

◆附属病院への予算配分については、前年度の附属病院収入の 1% 相当額を本部に留保する。医療行為は勿論のこと、医学／歯学教育と研究の推進及び高度先進医療機関としての附属病院の更なる発展のためには大阪大学の環境が必須であるという観点に基づく。

本部留保分は、全学的見地から執行部の裁量で、部局留

保分は各部局の立場で、それぞれ大阪大学の発展のために「未来への投資として」使用する。

2) 施設老朽化対策

施設の補修を将来にわたって計画的にかつ持続的に大学の責任で実行していく。このために必要となる財源確保の方策を以下のように策定する。

◆各部局から要望のある改修事業を計画的に実施するため、施設老朽化対策費として、学内の全ての建物について、保有面積に対し、1㎡あたり年間 500 円を留保する。

◆対象となる事業は、緊急性、必要性の高い建物の改修や建築設備の更新とし、文科省への概算要求事項となるような大規模改修や、各部局で実施するような軽微な修繕、維持保全工事は対象としない。

3) 実施時期

上記の 1) および 2) については、関係各所への周知など、準備期間を考慮して、平成 25 年 4 月 1 日より実施する。なお、1) の見直しはパッケージとして全ての変更を同時に実行する。

平成23年度業務実績報告書の作成

第 2 期中期目標期間の 2 年目である平成 23 年度の業務実績報告書については、各部局等の実績を踏まえ、評価担当の恵比須繁之理事のもと、川端亮理事補佐を中心に、中村春木理事補佐、三成賢次理事補佐及び評価・情報分析室の早田幸政室員、齊藤貴浩室員で作成作業を進めているところであり、とりまとめの上、6 月末に文部科学省へ提出

します。

本報告書のとりまとめに際しては、全学での多大のご協力に対し厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、着実な自己点検・評価の実施に向けて、ご協力方よろしく願っています。

教員基礎データシステム及び研究者総覧のリニューアル

本学における教育、研究、社会貢献及び業務運営に係るデータを管理する基礎データ収集システムについて、改修作業が終了し、5 月 14 日から新システムが本格稼働いたしました。

新システムでは、英語に対応したページを新設するとともに、これまで手入力で登録していた論文データを論文サイトから取り込むようにするなど、利用者の利便性を考えた機能強化を図りました。

また、大阪大学ホームページ掲載の研究者総覧につきましても、所属や専門分野を表示して検索しやすくするなど、

レイアウトをリニューアルいたしました。

皆様には、教員基礎データシステムの改修にご協力いただき、ありがとうございました。

引き続き、教員基礎データに最新の情報を更新いただくよう、お願いいたします。

また、全学基礎データシステム及び中期目標・中期計画・年度計画の進捗管理システム（新規開発）については、7～8 月頃に新システムが本格稼働する予定ですので、併せてご協力よろしくお願いいたします。

教員基礎データ…マイハンダイ (URL: <https://my.osaka-u.ac.jp/>) にログイン後、ショートカットで「教員基礎データ」を選択 (教員のみ)

研究者総覧…URL: <http://www.dma.jim.osaka-u.ac.jp/>



教員基礎データシステム



研究者総覧

大阪大学の教育理念の実現に向けて

「大阪大学未来戦略 (2012 - 2015) —22 世紀に輝く—」に述べられているように、「大阪大学は、何が物事の本質であるかを見極める能力を有し、各方面で指導的立場に立てるグローバル人材を世に送り出す」ことを教育理念としています。

この教育理念を実現するために、

- ◆分野別に明確な学習成果目標を設定し、質の高い専門教育を実施するための教育改革を行う
- ◆学部から大学院まで一貫した全学横断教育を推進し、教養、国際性、デザイン力の 3 つの汎用的能力を涵養することを重視しています。各分野でどうしても身に付けるべき基礎科目を選び、その科目については徹底的に学ぶとともに、教養、国際性、デザイン力を身に付けて欲しいと思っています。何よりも大切なのは主体的な学びにより学修の質を高め、常に物事の本質を見極める訓練をする事です。
- 大学では「習う」から「自ら学ぶ」へと学習態度を転換する必要があります。そのために、教員研修を通じて教員の意識改革をすすめると共に、授業や課外活動を通して主体的に学ぶ態度への学生の意識改革を促し、
- ◆対話型や課題発見型授業等の能動的学習法の調査・企画を行うとともに、厳格な達成度評価システムを構築し、全学と部局の教育改革を推進する
- ◆学生相互の、また学生と教員のコミュニケーションをさらに活性化させる場を整備し、学生にとっての主体的な「学び」の環境を醸成することが大切です。主体的な学びの場として、図書館も有効に活用して下さい

グローバル化の急速な進展により学生の流動性が高まり、世界中から長期・短期の留学生が大阪大学で学ぶためにやってくるようになりました。また、大阪大学に学ぶ皆さんも、海外の大学に留学することが多くなると思います。そのため、次の方針で望みます。

- ◆外国語運用能力を高めるカリキュラムを充実させるとともに、英語コースの授業を日本人学生にも提供し、留学生と日本人学生が共に学ぶキャンパスを実現する
- ◆学部における留学生の比率を、できるだけ早期に 10% に引き上げる。留学生に対する日本語教育を充実させるとともに、単位互換制度やダブルディグリー制度を整備する

国際的に 2 つ以上の大学で単位や学位を取得する場合、双方の大学の成績評価基準が揃っている必要があります。つまり、取得した単位は、学生が獲得した知識と能力を保証するものでなければなりません。1 単位は 15 時間の授業を受け、その前後に 30 時間の予習・復習をして試験に合格した証ですから、1 日に 2 コマ (4 時間) の授業を受けると 8 時間の自修をすることになります。日本の大学生は、1 日に 4 コマ取ったりしていますから、本来なら寝る間もないことになってしまいます。これでは国際的に通用しませんから、学修時間を本来あるべき姿に戻す必要があります。そのために、GPA 制度を導入して不必要な受講を減らすことを考えています。また、授業コードを見ただけで、授業のレベルが分かるようにする予定です。

主体的な学びをはじめの一つの方法は、自分の課題を見つけそれを自ら追究することです。自分の課題を見つけるには、多様な経験を通して自分の幅を広げることにも有効です。自分の専門知識・能力を現実世界にどうしたら活用できるかを考えるのも良いと思います。そのための機会を提供するプログラムを充実させたいと考えています。

- ◆社会のニーズを先取りした人材の円滑な流れを実現する
全学支援制度を整備し、キャリア開発支援やキャリア形成のための教育を充実させる
- ◆国内外の各種インターンシップ等を通じた実践的教育を推進し、社会の現場を知り、ネットワークを広げる能力を持つ学生を養成する

国内の優れた人材獲得に向け、進学ガイダンスへの参加を拡充

従前より、近畿の府県に加え、東京、仙台、広島等、全国各地で開催される進学ガイダンスに本学職員と学生が参加し、本学志望者やその親御さん方と直接お話しすることで、大阪大学の魅力を伝え多くの受験生・志望者を得てい

ます。今年度は、これまで参加する機会の少なかった四国地方、九州地方をはじめ、例年より多くの会場に参加する予定です。

大阪大学男女共同参画推進基本計画の策定

本学における男女共同参画推進については、平成 18 年度に「大阪大学における多様な人材活用推進に関する基本理念」を制定し、平成 21 年度には「男女共同参画に関する阪大プリンシプル」を宣言しました。これらのもとに、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」採択プログラム「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」を実施し、また、同プログラム終了後も引き続き、研究支援員制度を改善充実するなど、活発に諸施策に取り組んでいるところです。

平成 23 年度には、多様な人材活用推進本部から、男女共同参画のさらなる推進を目指し、実効性のある施策を体系的、計画的、総合的に実施していくため「大阪大学男女共同参画推進基本計画（仮称）」を策定することに関して、総長の直轄である男女共同参画推進委員会に提言をいたしました。

その提言に基づく、次の 6 本の柱からなる実施施策を盛り込んだ「大阪大学男女共同参画推進基本計画」の策定について、平成 24 年 4 月開催の男女共同参画推進委員会での審議の結果了承されました。

〈実施施策〉

1. 男女共同参画に関わる意識啓発の推進
2. 女性教職員、女子学生の参画促進
3. 仕事・学業と出産・育児・介護等との両立の推進
～ワーク・ライフ・バランスの実現のために～
4. 男女共同参画に関わる就業・修学環境の整備
5. 外部機関・セクターとの連携・交流
6. 推進体制の充実

今後、平成 24 年度から平成 27 年度の 4 年間にわたり、6 本の柱の個別施策を順次実施してまいります。

これからも多様な人材がいきいきと活躍できるキャンパスを目標に、本学の男女共同参画について現施策の充実と新たな取組みを推進していくこととしておりますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、「大阪大学男女共同参画推進基本計画」全文については、大阪大学ホームページに掲載しており、特設リンク「多様な人材の活用」からアクセスできます。

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/diversity/office/plan>

WEB広報の充実に向けて

お気づきの方もおられると思いますが、5月に大阪大学公式ウェブページを小改訂しました。研究型大学としての大阪大学ブランドを意識し、最新の研究紹介を写真とともにページ上部に表示し、「最新情報」カテゴリ内に研究成果リリースとして公開しました。現在、クリエイティブユニット（本誌66－67ページ参照）では、8月末を目指してウェブページの大幅改訂を検討しております。トップページでは、閲覧者が容易に情報を「検索」できるようメインに配

置し、さらに3カラム構成とし、中央カラムに新たに研究情報を掲載することで、大阪大学の特色ある最先端研究が活発に行われていることをアピールします。特に検索機能は受験生を意識し、知的好奇心にこたえるものとする予定です。皆様からのご意見も歓迎しておりますので、広報課（Email:ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp）へお知らせいただければ幸いです。



本学ウェブサイトの新しいトップバナーで最新の研究等を写真とともに紹介

中之島センターの活用計画

中之島センター活用計画策定ワーキングが発足して議論を開始しました。中之島センターを第4のキャンパスとして賑わいと活気あふれる空間にするための方策を鋭意検討しております。学内の皆様で中之島センターの利用計画をお持ちの方は、社学連携課（TEL：06-6444-2136）へご一報いただければ幸いです。9月末をめどに計画案を策定する予定です。

ワーキングメンバー

理事・副学長（座長）	江口 太郎（中之島センター長）
理事補佐	池 道彦（工学研究科教授）
	大竹 文雄（社会経済研究所教授）
	小川 哲生（理学研究科教授）
	正城 敏博（産学連携本部教授）
	三成 賢次（法学研究科教授）
総務企画部次長	松本 紀文（本部事務機構）

アウトリーチ支援メニューカタログを配布

本学では、研究の意義や成果を効果的に市民の方や社会へ発信したい学内の研究者、担当職員の方々のために、21世紀懐徳堂を窓口として学内の関係部署と連携し、アウトリーチ活動の支援をしております。

4月には学内向けに「アウトリーチ支援メニューカタログ」を作成・配布いたしました。

本学の研究者や部局等がアウトリーチ活動に取り組む際、企画段階から実施、終了後まで、どのような支援や相

談が受けられるのかを「利用者の声」とともにご紹介しております。

個別にご相談に応じますので、まずは21世紀懐徳堂までお問い合わせください。

カタログが必要な方には学内便でお送りしますので、21世紀懐徳堂までお問い合わせください。

「大阪大学アウトリーチ WEB」でもPDFファイルで公開されています。



大阪大学 21 世紀懐徳堂

[アウトリーチ支援窓口]

TEL.06-6850-5339

office@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

大阪大学アウトリーチ WEB

<http://outreach.21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>

大学名称等の商標登録

このたび、大学名称等の商標登録を行いました。これは、大学名称等を権利化することにより、日本国内において本学とは関係の無い第三者による利用を排除するとともに、大阪大学のブランド力の向上にも繋げることを目的にしたものです。

名称としては、「大阪大学」、「OSAKA UNIVERSITY」、

「阪大」、「21 世紀懐徳堂」、「ワニ博士」を、ロゴマークなどとしては、「」、「

このことにより、学内教職員・学生の皆さんが使用する際に新たな制限を行うことはありません。あくまでも外部の悪用を防ぐことを目的にしたものです。詳しくは、社会学連携課（TEL：06-6850-5339）へご連絡ください。

新国際戦略と海外拠点のあり方

現在、大阪大学がウェブページ等により公表している国際戦略は 2005 年 12 月に作成されたもので、すでに 6 年以上が経過しています。今回策定した、「大阪大学未来戦略（2012-2015）－22 世紀に輝く－」の中で未来戦略 8 箇条の一つとして「グローバルキャンパス実現のための国際戦略を策定する。この過程で海外拠点のあり方を見直すとともに、より実質的な大学間交流を目指す。」こととなりました。現在、これらの課題を念頭に入れた新たな国際戦略の策定に力を注いでいます。ちなみに、現行の国際戦略が目指す大学は、「世界に開かれた魅力ある大学」とされています。

これからは、将来にわたって学問と教育の世界標準としてのプレゼンスを示すとともに、グローバル化の進展する社会状況の中で、①総合的・創造的な知的活力と高度な専

門性、②ローカルアイデンティティに裏付けられた地球市民としての倫理性、③外国語を駆使した異文化コミュニケーション能力、これら 3 つの能力と資質を備えた新たなグローバル人材を育成し、「世界を目指し、世界を目指すグローバル大学」を築くことを新たな国際戦略目標としたいと考えています。

また、戦略策定に伴う海外拠点のあり方についても、2004 年に最初のサンフランシスコ教育研究センターが設置されてすでに 10 年近くが経過し、その間、大学と世界をめぐる状況は大きく変化しました。この新しい世界の中で、大阪大学が一層の海外展開を進めるための基本戦略とその具体化の方針についても鋭意検討を進めているところです。

運用力が実現できる英語教育を目指して ～最強の教授陣で教師力を鍛える！異文化空間で運用力を鍛える！～

大学院言語文化研究科教授 成田 一



小学入学から英語教員が本格的に教育する近隣諸国や母語が英語に近い欧州からの留学生は英語が堪能ですが、日本人は英語があまり話せません。やっと小学校で英語を教えるようになったと言っても、ゲームや歌など「英語活動ごっこ」でごまかす日本では、今も英語教育は実質的に中学になってからなのです。外国語を自然に習得できる（思春期前までの）言語獲得期を逃すと、日本語と全く異質な英語は「文法と発音の仕組み」を学ばないと使えません。その学びが危ういまコミュニケーションなどできないのです。教師が専門的造詣を深め運用技能を鍛えて、生徒の英語基盤能力を育むことが不可欠です。ことばの仕組み（英文法）を丁寧に教え、その知識を読解で鍛錬して定着させ、発音と聴解の訓練を行なうて、実際に運用する機会を用意すれば、『読み書く』能力だけでなく『聴き話す』能力も着実に育ちます。この言語習得研究の知見を踏まえた理念の下に、長年企画運営を担当してきた二つの活動を紹介します。

■ 公開講座

「教員のための英語リフレッシュ講座」

大学院言語文化研究科主催



昨年度の受講風景

公開講座「教員のための英語リフレッシュ講座」（定員100名）が今年も開催されます。11回目を迎える本講座は、例年、中・高のほか小学校の教員、教員志望の学生などが、近畿圏だけでなく中部、東海、北陸、中国、四国、関東、九州、さらに石垣島からも参加しています。言語文化研究科の教授陣はもとより近畿の英知を結集する講師陣態勢をとり、理論的な面での教員の研鑽だけでなく、運用力を磨くために、発音や音調の理論と実践、音読指導法などの講義を独立に設けるほか、6人のネイティブの講師によるコミュニケーションの授業を用意しています。このように総合的に教員の専門的な知見を深め運用力と指導力を伸ばす講座は全国的にも類を見ません。受講教員の直接指導だけでも累計二、三十万人の生徒の授業の質を向上させる効果

があっただけでなく、同僚教員に対する情報共有を通じて更に大きな影響を与え、教育面で社会に貢献しています。（本公開講座の目標と理念については下のパンフレット、講義内容と講師プロフィールは言語文化研究科HP参照。）

平成24年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座 「教員のための英語リフレッシュ講座」

日程：平成24年8月6日（月）、7日（火）、8日（水）、9日（木）、10日（金）
会場：大阪大学中之島センター

オールコミュニケーション重視の授業に飽きられて久しいが、中学、高校の（リスニング以外の）英語力は着実に低下している。また教員の態勢が整わない段階での小学校英語の導入や「授業は英語で」という新学習指導要領の方針にどう対応するかという問題も抱え、教育現場では戸惑いと混乱が広がっている。

本講座では、文科省の教育改革が無定見に揺れる中、（理論的な根拠もなく英語教育の失敗の元凶とされた）「文法と訳読」が外国語学習環境での英語力の基盤育成に不可欠であるとの認識の下に、教室でも応用可能な現代の文法・語法・辞書研究の成果を紹介するほか、関連研究領域（言語習得論や学習動機・方略研究、脳機能研究など）の最新の理論的な知見を踏まえ、英語力を着実に伸ばし運用能力の育成にもつながる授業のあり方を（ネットやCALLの活用を含め）総合的に考察するだけでなく、小学校英語にいかに対応するかについても論じる。教員それぞれの造詣・技量を適切に活かし、生徒も理解・納得のできる魅力的で効果的な教育の実践を期するものである。また「発音の動的な変化の仕組み」「リズムとイントネーション」「音読の技法」を分かりやすく解説・訓練するとともに、「ネイティブスピーカーによる体験授業」を通じて英語運用力の向上を図るほか、文学作品の意味・語用・文体論的分析も行ない授業にも生かす知見を深める。全体討議では、諸外国との比較や言語習得研究を踏まえ、日本の英語教育のあるべき姿を（教員養成をもめ）探るとともに、受講者の質問に答えて現場での疑問についても討議する。

講師および演題

8月6日（月）	
10:00～12:30 『日本人に相応しい英語教育—言語習得研究を踏まえて』（最初に講義オリエンテーション）	成田一教授
13:30～15:00 『英語らしい発音の科学—ダイナミックメカニズムと発音・聴解の解明』	成田一教授
15:10～17:00 『生徒の英語力を伸ばす音読指導—留意点と技法』	（京都外国語大学）鈴木寿一教授
8月7日（火）	
10:00～12:00 『認知の視点から見た英文法』	早瀬由子准教授
12:50～14:50 『コーパスと英語辞書と辞書指導』	（京都外国語大学）赤野一郎教授
* 15:00～17:00 『小学校英語活動における理論と授業実践』	西田理恵子講師
* 15:00～17:00 『英詩の世界を味わう』	小口一郎准教授
8月8日（水）	
10:00～12:00 『「国際英語」教育の理論と授業実践』	日野信行教授
* 12:50～14:50 『英文を読む楽しみ』	沖田知子教授
* 15:00～17:00 『英語の歴史を学ぶ意味』	尾崎久准教授
* 14:30～17:00 『コミュニケーション基礎』	ボブ・バーキンス特任准教授、デーヴィッド・マレー講師
* 14:30～17:00 『コミュニケーション中級』	サイモン・コム特任准教授、ステイヴ・ミラー講師
* 14:30～17:00 『コミュニケーション上級』	ジェリー・ヨコヤ教授、トレイン・デヴォア特任准教授
8月9日（木）	
10:00～12:00 『文脈を利用した文法構文の教え方』	（関西外国語大学）岡田伸夫教授
12:50～14:50 『ESPによる英語運用力の底上げ』	（神戸市看護大学）川越崇子准教授
15:00～17:00 『現代英語の語法を考える』	（関西学院大学）八木克正教授
8月10日（金）	
10:00～11:30 『EFLとアジアの英語教育に学ぶ』	（京都光華女子大学）河原俊昭教授
12:20～13:20 『リズムとイントネーションが運用の決め手』	（関西学院大学）有本純教授
13:30～15:00 『歴史に学ぶ英語教育の目的を問い直す』『協同学習の可能性』	（和歌山大学）江利川春雄教授
15:10～16:40 全体討論『英語で授業ができるのか？—運用に興し、ゆとり教育の軌を問う—』	講師陣
16:45～17:00 講座修了証授与式	大学院言語文化研究科長 木村茂雄教授
17:15～19:00 テーマ討論懇話会（講師陣のミニスピーチと意見交換）	

■異文化交流サロン

「イングリッシュ・カフェ」 全学教育推進機構主催

大阪大学には世界各国からの留学生がいますが、学内に日本の学生と交流する場がありません。グローバル化の中、せっかく国際的な人材が溢れるキャンパスのメリットを生かせないのは宝の持ち腐れでもったいない。そこで日本の学生が留学生と自然に交流する場として2006年秋に企画・実施したのがイングリッシュ・カフェです。この異文化交流を通じて英会話力も伸ばせるのが魅力です。国立大では唯一の活動です。(2011年から日本語も使える「朝鮮・中国語カフェ」を加え「多言語カフェ」に拡大されました。)

会話では脳中で言語形式と意味の分析・理解がリアルタイムで行われます。母語ならば意識下で自動処理しますが、日本人が英会話する場合、脳の思考領域(作業記憶)が言語処理に占有されます。どうにか理解できても反論の余裕がありません。阪大生は運用の基盤となる(文法・語彙・読解などの)英語力があるので、現実的なコミュニケーション状況であるカフェにおいて英語を使うことに慣れると、英文の解析・生成処理がある程度まで自動化する可能性があり、しっかり論点を考えて英語で話せるようになります。

4グループ体制のイングリッシュ・カフェのホスト役には英語に堪能な留学生を配置しますが、これまでの出身地は英米豪加国以外に欧州、南米、フィリピン、台湾、中国なども含まれます。参加者にはアジア、中東、アフリカからの留学生もいますが、旬な話題について多様な文化・習俗や社会を背景とした視点から日本人学生と意見交換します。留学生が日本でのカルチャーショック、日本人が海外での異文化体験を語り、盛り上がることもあります。

去年はスーダンからの留学生が「来週南スーダンが独立する」と言い、現地の民族対立や資源を巡る外国が絡む事情などを話しました。インドネシアの女学生は「女が顔を隠す」「断食月」「肉は鶏肉だけ」などイスラムの風習を語りました。福島事故の後「自国の原発への信頼が揺らがない」と述べ

イングリッシュ カフェへの誘い

楽しく国際交流しながら

英語のスキルを磨きませんか？

多文化圏の英語ネイティブ留学生を囲み、
多様な話題について語り合います(無料)

日時 火、木曜日の昼(12:10-12:50)

前期: 5月8日~7月26日

後期: 11月6日~1月24日

場所 ガイダンス室ほか(共通教育棟教務係の隣り)

対象 学部・院生、留学生、職員

たのは原発への就職が決まっていたフランス人でした。

カフェには「運用力を維持したい」という帰国生や「英語で国際交流を楽しみたい」「運用力を磨きたい」という教員や職員の方も参加しています。話すことに自信のない方はBasicグループからチャレンジできます。ぜひ眠れる英語力を開花させてください。皆さん大歓迎です。

【問い合わせ先】

「教員のための英語リフレッシュ講座」

大学院言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係

Email genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp

「イングリッシュ・カフェ」

全学教育推進機構ガイダンス室

Email guidanceroom@celas.osaka-u.ac.jp



世界各国の留学生が集うイングリッシュ・カフェ

なりた・はじめ

プロフィール

略歴: 英日対照構造論・機械翻訳・言語教育/計画専攻。編著書に『英語リフレッシュ講座』、『名詞』(現代の英文法6)、『パソコン翻訳の世界』、『こうすれば使える機械翻訳』ほか。大阪大学功績賞受賞。言語教育談話会代表。英語教育総合学会会長。教師が最新の知見を得て授業改善を図るためのシンポジウムを年2回開催するほか、日本人に相応しい英語教育のあり方を新聞、雑誌や講演において提唱。

大阪大学職員研修「図書館員のための資料修復の第一歩」を開催

附属図書館では、3月9日(金)に、一般書の保護・補修を学ぶ研修会を初心者向けに開催しました。研修会には近畿一円の大学図書館員や学生 65 名が集まりました。

研修では、国立国会図書館の講師による講義のあと、簡易補修（ページ破れ等の繕い）、簡易帙の作製といった実習指導が行われました。質疑応答では、会場から次々と質問が投げかけられ、参加者の資料保存に対する関心の深さをうかがい知ることができました。

(附属図書館)



実習に熱心に取り組む受講者

大阪大学職員研修「多様な利用者への多様な対応」を開催

附属図書館では、3月22日(木)に、「多様な利用者への多様な対応」と題し、図書館職員のリスクマネジメント能力向上をめざした研修を実施しました。参加者は近畿地区の国公立大学図書館職員 49 名で、今回のテーマは人的トラブルへの対応。ロールプレイによる実習を通じて、トラブルを未然に防ぎ、利用者満足度の向上につながるようなコミュニケーション・スキルを磨いていくためのコツを学ぶ大変よい機会となりました。

(附属図書館)



ロールプレイの様子

日本語日本文化教育センター 平成23年度留学生修了式挙行

日本語日本文化教育センターでは、3月15日(木)に本センター多目的ホールにおいて、平成23年度留学生修了式を挙行し、国費学部留学生 32 名が無事修了しました。

修了式では、地域ボランティアの方々が温かく見守る中、各人に修了証書が渡された後、高橋明理事・副学長から式辞が、文部科学省高等教育局学生・留学生課の樋口徹専門職から祝辞がそれぞれ述べられ、最後に、修了生代表 3 名から日本語によるスピーチが行われました。各留学生の表情からは今後 4 年間の学部教育への期待がひしひしと感じられました。

(日本語日本文化教育センター)



日本語日本文化教育センター 泰日国際シンポジウムを開催

日本語日本文化教育センターでは、3月16日(金)に本センター多目的ホールにおいて、教育関係共同利用拠点事業として泰日国際シンポジウム 2012 を開催しました。

同シンポジウムでは、タイ国チュラーロンコーン大学及びタマサート大学から各 2 名の教員並びに国際交流基金バンコク日本文化センター所長、ウィーン大学東アジア研究所長をお招きし、国内の日本語・日本文化教育関係者など総勢 100 名を超える参加者を迎え、「タイにおける日本研究」について活発なディスカッションが行われ、盛況のもとに終了しました。

(日本語日本文化教育センター)



平成23年度

工学研究科「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業・博士前期課程修了式挙行

経済産業省・文部科学省による平成23年度「アジア人財資金構想」の第3期生修了式が、3月22日(木)、理工学図書館3階ホールにおいて、馬場章夫理事・副学長(プロジェクトリーダー)、掛下知行工学研究科長をはじめ、近畿経済産業局地域経済部国吉浩部長、菅原慎一郎係長、コンソーシアム企業関係者列席のもと、挙行されました。

大学関係者の祝辞と国吉部長から今後の活躍への期待が述べられた後、修了証書及び学位授与式が執り行われました。在校生の蔡鶴さんによる送辞の後、修了生を代表して、リウ チシンさんより「感謝」と「アジア諸国と日本を支える人材」になれるように今後とも精進したいとの決意表明があり、修了式を閉会しました。



(工学研究科・工学部)

「ナノ高度学際教育研究訓練プログラム」社会人教育プログラム

平成23年度第8期生修了認定証授与式並びに平成24年度第9期生開講式及び特別講義を開催

ナノサイエンスデザイン教育研究センターは、社会人教育修了認定証授与式、開講式及び特別講義を、3月30日(金)に本学中之島センターを主会場に、中継で大阪大学東京オフィス及び四日市の遠隔教室において開催しました。

修了証授与式(8期生修了者70名)では、赤井久純センター長より、修了証等が授与され、開講式(9期生74名)では、太和田善久コンソーシアム理事らによる祝辞の後、荒木副センター長による履修指導、森勇介教授(工)による特別講義がありました。なお、四日市商工会議所が連携する遠隔教室の開設は日本商工会議所の平成23年度事業活動表彰を受け、これを機に産学連携相互人材育成の一層の発展が期待されます。

(ナノサイエンスデザイン教育研究センター)



平成23年度

退職時永年勤続者表彰式挙行

平成23年度退職時永年勤続者表彰式が、3月30日(金)からコンベンションセンターにおいて、被表彰者46名のうち40名の出席のもとに挙行されました。

式は、平野俊夫総長から出席者一人ひとりに表彰状が授与された後、祝辞があり、続いて、被表彰者を代表して監査室長の小林行雄氏が謝辞を述べ閉式しました。

今年度表彰された方は、次のとおりです。



西 和 彦 (本部)	内 園 英 子 (医病)	東 郁 夫 (歯病)	江 上 耕 二 (基)
吉 崎 幸 二 (本部)	向 井 昭 子 (医病)	藤 原 久美子 (薬)	高 木 正 和 (基)
松 本 正 孝 (本部)	平 良 正 照 (医病)	平 尾 桂 一 (工)	石 橋 武 (産)
檜 正次郎 (本部)	林 貞 夫 (医病)	北 田 義 一 (工)	谷 畑 公 昭 (産)
小 林 行 雄 (本部)	井 山 茂 (医病)	林 野 正 (工)	柏 倉 重 雄 (産)
石 井 道 悦 (図)	井 上 悟 (医病)	崎 原 雅 之 (工)	中 塚 裕 二 (CSCD)
宮 田 正 徳 (図)	藤 井 一 壽 (医病)	菅 龍 彦 (工)	田 村 仁 志 (核)
乾 美津子 (文)	山 見 勝 彦 (医病)	中 村 京 子 (工)	浦 城 道 男 (核)
神 原 専 治 (法)	北 川 章 (医病)	寺 嶋 文 男 (工)	神 田 成 児 (核)
田 中 隆 (経)	喜 多 宗 則 (医病)	上 原 真知子 (工)	大 梶 宏 (レ)
長 井 詳 昭 (医)	住 本 幸 雄 (医病)	坂 本 修 次 (工)	
田 中 敏 子 (医病)	江 藤 靖 弘 (歯)	福 田 和 夫 (基)	

(総務企画部人事課)

平成24年度

工学研究科高度アジア人材育成プログラム・博士前期課程入学式挙行

高度アジア人材育成プログラム5期生の入学式が、4月4日(水)理工学図書館3階ホールにおいて挙行されました。

馬場章夫理事・副学長、神戸宣明評議員、来賓として近畿経済産業局製造産業課内海美保課長及び産業人材政策課児玉桂子課長、コンソーシアム企業の方々のご列席と指導教員出席のもと、挙行されました。大学関係者の祝辞と内海課長より今後の活躍の期待が述べられ、入学者の紹介と進んだ後、4期生のノラカーンティアンシンさんより歓迎の辞がありました。新入生を代表して、丁琦さんより「入学の喜びと懸け橋となれるよう精進したい」との表明の後、閉会しました。閉式後、歓迎会があり、今後の抱負、期待などが語られ、終了しました。

(工学研究科・工学部)



平成24年度

新入生健康診断を実施

4月5日(木)・6日(金)の両日、共通教育講義棟C棟で、平成24年度新入生健康診断を実施しました。検査項目としては尿検査、内科診察、心電図、血圧、身長・体重、胸部レントゲンの諸検査と歯科検診が行われ、新入生3,426名が受検しました。何らかの異常が見つかった場合には保健センターで再度診察や検査を実施しています。心身ともに健康な状態で大学生活をスタートしましょう。



平成24年度

学生健康診断を実施

平成24年度学生健康診断が4月10日(火)から26日(木)にかけて、保健センター豊中本室ならびに吹田分室で行われました。今年度の受検者数は18,158人で受検率は76.6%でした。学生健康診断は、病気の早期発見のみならず、自己の健康状態を確認し、その後の生活習慣改善の意識を持つ良い機会です。また、結核などの感染症は自分だけでなく、周りの方にも影響する疾患ですので、必ず受検してください。学生健康診断は学校保健安全法に基づいて受検が義務付けられています。各部署の受検率を右表に示しますので参考にいただき、ぜひ来年度は受検率100%を目指してください。



*受検率は休学を除く

部 局	学生数(休学数)	受検者数	受検率*
文学研究科・文学部	1,320(106)	777	64.0%
人間科学研究科・人間科学部	1,106(78)	784	76.3%
法学研究科・法学部	1,305(17)	882	68.5%
経済学研究科・経済学部	1,403(75)	945	71.2%
理学研究科・理学部	2,101(55)	1,727	84.4%
医学研究科・医学部	1,539(36)	1,131	75.2%
医学部保健学科	957(16)	855	90.9%
歯学研究科・歯学部	593(13)	469	80.9%
・歯科技工士学校	40(0)	39	97.5%
薬学研究科・薬学部	657(4)	536	82.1%
工学研究科・工学部	6,110(95)	4,668	77.6%
基礎工学研究科・基礎工学部	2,737(34)	2,358	87.2%
外国語学部	3,062(320)	1,890	68.9%
言語文化研究科	390(46)	206	59.9%
国際公共政策研究科	210(27)	101	55.2%
情報科学研究科	434(16)	342	81.8%
生命機能研究科	247(12)	204	86.8%
高等司法研究科	269(13)	162	63.3%
連合小児発達学研究所(大阪校)	11(2)	8	88.9%
研究所他(研究生・科目等履修生等)	176	74	42.0%
総 合 計	24,667人(965人)	18,158人	76.6%

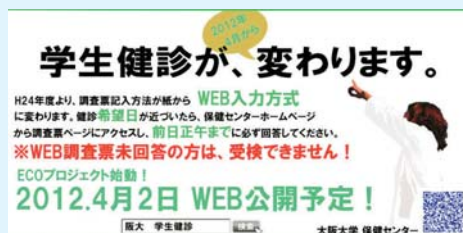
学生数：平成24年5月現在

学生健康診断でWEBシステムを導入

今年度の学生健康診断から保健センターではWEBシステムを導入しました。これまでは、あらかじめ記載された問診票を健診当日持参し、保健センターで看護師が1枚1枚チェックしていましたが、問診票を忘れるケースもあり、また受付のため長蛇の行列が毎年繰り返され、特に雨の日は問題となっていました。このような状況を改善するとともに、記載の手間を省き業務改善できないかどうか、システムの充実も含め1年近く検討を重ねてきました。

今回4月に行われた学生健康診断では、健診前日までにWEBで簡単な問診に答えていただくことにより、看護師による直接の問診を必要とする学生を受付段階で自動的に選別可能となり、待ち時間も大幅に減りました。初めての試みでしたが、大きなトラブルなく施行することが出来、スムーズな受検が可能となったことで概ね好評でした。今回の経験を生かし、今後は定期健診以外のさまざまな健康診断にも導入可能かどうか、さらに検討を重ねていきたいと思っておりますので、皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

(保健センター)



Vision Navigation Seminar2012を開催

「Vision Navigation Seminar2012」が、4月8日(日)に豊中総合学館において開催されました。これは、新入生が有意義な大学生活のスタートダッシュを切ることができるよう、学生団体「VINAS」が例年この時期に企画するもので、今年で3回目になります。

参加した新入生は、熱心に先輩学生の話聞き、多くの質問をして大学生活の不安を解消していました。最後には大学生活でやりたいことを実現するためのプランニングシートを作成し、発表し合いました。このセミナーが、多くの同級生や先輩と出会えたことも含め、今後の大学生活の充実につながることが期待されます。

(学生支援ステーション／学生部学生・キャリア支援課)



セミナー当日の様子

2012年度 高度副プログラム・副専攻プログラム合同ガイダンスを開催

学際融合教育研究センターでは、4月11日(水)に理工学図書館3階ホール(吹田会場)にて、4月13日(金)に総合図書館6階ホール(豊中会場)にて、高度副プログラム・副専攻プログラム合同ガイダンスを開催しました。

各会場とも、昨年度を大きく上回る数の学生が参加し、プログラムの質問をする人々の熱気で溢れていました。

なお、5月1日現在プログラム申請者数は837名で昨年度の1.14倍になります。

(学際融合教育研究センター)



マチカネワニ化石発掘記念モニュメント除幕式を開催

理学研究科本館西側において、4月17日(火)に「マチカネワニ化石発掘記念モニュメント除幕式」が開催されました。

マチカネワニ化石は、昭和39年5月に理学部の校舎建設現場から発掘されたもので(約40万年前の地層より)、日本で発見されたワニ化石の中で最も完全な骨格化石として、古脊椎動物学史上、最重要視される標本です(骨格標本は総合学術博物館に展示されています)。

理学研究科では、この貴重な化石が発掘された記念の場所を標するためにモニュメントを設置しました。これに合わせて、豊中市からは、マチカネワニをイメージした豊中市のマスコットである「マチカネくん」がデザインされたマンホールの蓋が寄贈され、モニュメント横に設置しています。

当日は、浅利敬一郎豊中市市長はじめ豊中市関係者、本学からは、江口太郎理事・副学長、恵比須繁之理事・副学長、橋爪節也総合学術博物館長、篠原厚理学研究科長、豊中地区部局長ら約20名が出席のもと、除幕されました。

(理学研究科・理学部)



大阪大学柴原口竣工記念式典・植樹式を開催

大阪大学柴原口竣工記念式典・植樹式が、4月17日(火)に基礎工学国際棟シグマホール及び現地柴原口にて行われました。

本式典は、「大阪大学柴原口」が正門や石橋口に次ぐ豊中キャンパスの重要な顔として、大阪大学と地域との連携により、平成24年3月末に整備が完了したことを受けて開催されたもので、学内のみならず、大阪府、豊中市、地域住民ら、合わせて70名以上の方々に参加いただきました。

本整備により、本学と地域との連携推進の一層の飛躍を図る足掛かりになることを期待しています。

(施設部管理計画課)



平成24年度 大阪大学新任教員（研究員）研修を実施

平成24年度大阪大学新任教員（研究員）研修が、4月10日（火）に大阪大学会館で行われました。

本研修は、昨年度と同研修以後、新たに採用された常勤教員（研究員）及び新たに教授に就任した者を対象に、教員（研究員）の資質のさらなる向上を図るために実施されたもので、受講者は195名でした。

平野俊夫総長による挨拶の後、東島清理事・副学長、馬場章夫理事・副学長、相本三郎理事・副学長、尾山眞之助理事・副学長、大和谷厚ハラスメント相談室長による講義が行われ、大変有意義な研修となりました。

（総務企画部人事課）



平成24年度 大阪大学新入職員研修を実施

4月24日（火）から26日（木）まで、新入職員60名に対して新入職員研修を実施しました。

初日は、各理事・副学長等から本学の教育・研究活動や服務規律等について講義があり、続いて先輩職員との意見交換が行われました。二日目には懐徳堂由来碑・適塾を見学した後、専門講師による講義・演習が最終日まで引き続き行われました。

この研修により大阪大学職員としての自覚を確立し、親睦を深めることができました。

（総務企画部人事課）



公開講義「日銀→ベンチャー経営→弁護士。～キャリアと社会貢献に関する一つの考え方～」を開催

法学研究科附属法政実務連携センター、大学院法学研究科・大学院高等司法研究科学生支援室では、4月13日（金）に鳥飼総合法律事務所中村隆夫弁護士をお迎えし、公開講義を開催しました。当日は、日本銀行、デジタルガレージ取締役、インフォシーク初代社長、弁護士という多彩な経歴に基づき、キャリアと社会貢献に関するご自身の考え方についてご講演いただきました。将来のキャリア形成に役立つ生の情報を得る貴重な機会となりました。

（法学研究科・法学部、高等司法研究科）



公開講義「社会保障と税の一体改革」を開催

4月20日（金）に、財務省より武内良樹参事官を講師としてお迎えし、公開講義「社会保障と税の一体改革」を開催しました。今なぜ消費税引き上げが必要か、社会保障制度と国の財政の関係等について分かり易くお話しいただいた後、学生諸君や一般参加者の多数の質問等に丁寧にお答えいただき、時間を大幅に延長して終了しました。政府の政策論拠を体系的に理解できて有意義だったとの聴講者の感想が多数寄せられました。

（法学研究科・法学部、高等司法研究科、知的財産センター）



平成24年度 安全衛生に関する説明会を開催

平成24年度安全衛生に関する説明会が、4月17日(火)にコンベンションセンター、18日(水)に総合図書館で、それぞれ開催され全日程で約430人が参加しました。

本説明会は、「本学における安全衛生管理システム」、「機械設備の届出ルール」、「機械設備の定期自主点検」について理解を深めていただくことを目的に毎年開催しているものです。

当日は、本学が積極的に推進している「定期巡視システム」、「事故情報収集システム」を中心にその理念・内容について、また、労働安全衛生法等に基づき届出が必要な機械設備の種類や定期自主点検の実施方法について具体的な説明を行いました。(安全衛生管理部)



「定期巡視におけるチェックシート」について説明する
安全衛生管理部・廣橋利夫特任研究員

平成24年度 大阪大学新入教職員安全衛生講習会の開催

平成24年度大阪大学新入教職員安全衛生講習会が、4月19日(木)にコンベンションセンター、20日(金)に図書館ホール、24日(火)に銀杏会館でそれぞれ開催され、全日程で約230名が受講しました。

本講習会は、新たに本学の教職員となった方を対象に安全衛生管理の基本的な事項について理解を深めていただくことを目的に毎年開催しているものです。

講習会では、安全衛生管理部から「労働安全衛生法と本学における安全衛生管理」と「災害に備えて」について、保健センターから「健康管理」について、それぞれ具体的な事例を踏まえた説明が行われました。(安全衛生管理部)



講習会場の様子

阪大病院フォーラム「防火・防災に関する講習会」を開催

4月25日(水)に医学部講義棟において、安全衛生管理部の梅田幸治特任教授を講師にお迎えし、阪大病院フォーラム「防火・防災に関する講習会～火災発見時の初期対応」を開催しました。医療従事者等140名を超える参加者が熱心に耳を傾けていました。

阪大病院フォーラムは、時々のトピックスや取り組み等についてテーマを設定し、情報提供や意見交換を行うことで意識改革やスタッフ力の向上を図るべく、月に1回程度開催しています。

(医学部附属病院)



会場の様子

大阪大学室内楽アンサンブル第14回演奏会を開催

大阪大学室内楽アンサンブル(OUCE)の第14回演奏会が4月29日(日)に、コンベンションセンターMOホールにて開催されました。

当楽団はいちよう祭、吹田祭関連行事として春と秋に演奏会を開いています。

今回は、アメリカよりSusan & William Goldenberg (Vn,Pf)をお迎えし、ヴァイオリソナタを演奏していただきました。アンコールには「ふるさと」の演奏があり、ヴァイオリンとピアノが奏でる優しく、美しい調べに観客・団員一同酔いしれました。

全体合奏にはアンダーソンの楽曲から3曲演奏しました。いろいろな楽器を使用し、特にタイプライターという楽曲では、実際のタイプライターも登場し、演奏者の細々した演技が好評でした。

(OUCE)



第7回 大阪大学ホームカミングデイを開催

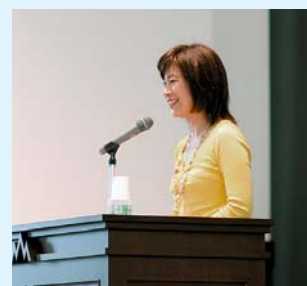
4月30日(月)に第7回ホームカミングデイを大阪大学会館において開催し、卒業生とご家族や教職員OBなど300名を超える方々に参加いただきました。

セレモニーは、応援団による演奏により開幕し、平野俊夫総長の主催者挨拶と大学の近況報告、大阪大学同窓会連合会 熊谷信昭 会長の挨拶に続き、本年は、人間科学部を卒業された関西テレビ放送のアナウンサー 関 純子 様により「阪大と私」と題した講演が行われ、学生時代の思い出話を中心にお話いただきました。

また、懇談会では思い出話にも大いに花が咲き、会場内では旧交が温められ、終始和やかな雰囲気の中で散会となりました。

なお、ホームカミングデイは大阪大学同窓会連合会から協賛をいただきました。同会未加入である本学卒業(修了)生、本学教職員、元教職員の方は、是非ご入会をお願いします。

同窓会連合会ホームページはこちら <https://alumni.jim.osaka-u.ac.jp/alumni/> (広報・社会学連携オフィス社会学連携課)



ユーモアを交えてご講演下さった関純子アナウンサー

人権問題に関する映画会を開催

人権問題に関する映画会が、憲法週間中の5月1日(火)に大学会館講堂で開催されました。

この映画会は、人権問題啓発行事の一環として毎年行っているもので、今年度は特にセクシュアル・ハラスメント問題について認識を深めてもらうため、「スタンドアップ」(2005年・米)を上映しました。

本映画会は大学会館講堂を利用した初めての映画会で、教職員・学生・一般等60名以上の参加者があり、参加者は最後まで熱心に映画を鑑賞しました。

人権問題に対する正しい理解と認識を深めるため、引き続き各種行事を予定していますので、みなさまの積極的な参加をお願いします。



(C) 2006 Warner Bros. Entertainment Inc. All rights reserved.
(人権問題委員会)

平成24年度 大阪大学春季安全衛生集中講習会を開催

5月7日(月)～11日(金)にかけて、平成24年度大阪大学春季安全衛生集中講習会を各キャンパスで開催し、全日程で約1,160名が受講しました。

本講習会は、安全衛生意識の向上を図るとともに、事故・災害の発生の防止及び健康の保持・増進を目的に毎年実施

しているものです。

講習会では、全部局に共通する安全衛生管理の基本や健康管理に関する講習の他、化学薬品、酸欠、核燃料物質、高圧ガス、電気、レーザーといった様々な専門分野に関する講習を開講しました。

平成24年度春季安全衛生集中講習会タイムスケジュール(平成24年5月7日～5月11日)

5月7日(月)		5月8日(火)		5月9日(水)		5月10日(木)		5月11日(金)	
生命科学図書館 4F AVホール	総合図書館 6F 図書部ホール	生命科学図書館 4F AVホール	総合図書館 6F 図書部ホール	生命科学図書館 4F AVホール	総合図書館 6F 図書部ホール	生命科学図書館 4F AVホール	総合図書館 6F 図書部ホール	生命科学図書館 4F AVホール	総合図書館 6F 図書部ホール
					核燃料物質 安全講習 斎藤 直 (60分) 9:20～10:20		健康管理講習 (メンタルヘルス編) 村田 義徳 (60分) 9:20～10:20	核燃料物質 安全講習 斎藤 直 (60分) 9:20～10:20	
非化学系のための 薬品取扱講習 山本 仁 (90分) 10:30～12:00	高圧ガス・液体薬剤に 関する安全講習 (低圧・中圧・中分室編) 竹内 徹也 (90分) 10:30～12:00	阪大の事故を考える 富田 賢吾 (60分) 10:30～11:30	非化学系のための 薬品取扱講習 山本 仁 (90分) 10:30～12:00	高圧ガス・液体薬剤に 関する安全講習 (低圧・中圧・中分室編) 百瀬 英毅 (90分) 10:30～12:00	火災発見時の初期対応 梅田 幸治 (90分) 10:30～12:00	火災発見時の初期対応 梅田 幸治 (90分) 10:30～12:00	阪大の事故を考える 富田 賢吾 (60分) 10:30～11:30	東日本大震災 梅田 幸治 (90分) 10:30～12:00	高圧ガス・液体薬剤に 関する安全講習 (低圧・中圧・中分室編) 竹内 徹也 (90分) 10:30～12:00
電気コンセントと 電気配線の安全講習 百瀬 英毅 (60分) 13:30～14:30	高圧ガス・液体薬剤に 関する安全講習 (低圧・中圧・中分室編) 竹内 徹也 (90分) 13:30～14:30	放射線・化学物質 安全取扱講習 富田 賢吾 (60分) 13:30～14:30	電気コンセントと 電気配線の安全講習 百瀬 英毅 (60分) 13:30～14:30	大阪大学高圧ガス 管理システム (OCCS)利用講習 百瀬 英毅 (60分) 13:30～14:30	自主管理をベースとし た安全衛生管理 山田 孝 (60分) 13:30～14:30	健康管理講習 (メンタルヘルス編) 三上 章良 (60分) 13:30～14:30	放射線・化学物質 安全取扱講習 富田 賢吾 (60分) 13:30～14:30	高圧ガス・液体薬剤に 関する安全講習 (低圧・中圧・中分室編) 竹内 徹也 (90分) 13:30～14:30	
レーザー取扱に 関する安全講習 百瀬 英毅 (60分) 14:40～15:40	酸欠事故防止 安全講習 富田 賢吾 (60分) 14:40～15:40	大阪大学薬品管理 システム (OCCS)利用講習 角井 伸次 (90分) 14:40～16:10	レーザー取扱に 関する安全講習 百瀬 英毅 (60分) 14:40～15:40	酸欠事故防止 安全講習 富田 賢吾 (60分) 14:40～15:40		自主管理をベースとし た安全衛生管理 廣橋 利夫 (60分) 14:40～15:40	大阪大学薬品管理 システム (OCCS)利用講習 角井 伸次 (90分) 14:40～16:10	大阪大学高圧ガス 管理システム (OCCS)利用講習 百瀬 英毅 (60分) 14:40～15:40	

(安全衛生管理部)

安全保障輸出管理に関する説明会を開催

5月10日(木)に基礎工学国際棟シグマホール、5月11日(金)に産業科学研究所講堂において、安全保障輸出管理に関する説明会を開催しました。相本三郎理事・副学長(安全保障輸出管理統括責任者)の挨拶に続き、橘善輝輸出管理マネージャー(研究推進課特任准教授)と、石田英之特任教授(研究推進課)による講演の後、研究推進課による学内手続についての説明を行いました。各部局の教員や安全保障輸出管理実務に携わる事務職員等、両日で100名を超える参加がありました。

本学における安全保障輸出管理は、平成22年4月より取り組みが始まり、手続き書類の見直し等、管理体制の適切な運用体制の整備を行っています。説明会では、具体的な事例が紹介され、参加者から多数質問もあり、有意義な時間となりました。研究推進課では、今後も積極的に説明会等を開催し、安全保障輸出管理に関する周知活動を進めていきます。

(研究推進部研究推進課)



基礎工学部・基礎工学研究科 初任教員研修会を実施

基礎工学研究科では、5月11日(金)に「平成24年度基礎工学部・基礎工学研究科初任教員研修会(初任者FD)」を同研究科A棟会議室において実施しました。

この研修会は、新たに赴任され基礎工学部・基礎工学研究科の教育研究を担当することになった教員を主な対象に、大阪大学、基礎工学部、基礎工学研究科の現状についての認識を深めるとともに、大学教育を担当する教員として、教育に関する力を高めることを目的として平成15年度から実施しているものであり、今年度の研修会には、基礎工学研究科及び極限量子科学研究センターから17名(准教授4名、講師2名、助教11名)の参加がありました。

当日は、岡村康行研究科長による「基礎工学部・基礎工学研究科の沿革と現在」の講演に始まり、埴田博一教授、田中正夫教授、飯國洋二教授、森嶋正則事務長よりそれぞれ講演が行われ、参加した17名の教員は、受講生という立場でメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



岡村研究科長による講演

マイボトル・キャンペーンを実施

大阪大学未来基金は、今年も新入生を対象として「マイボトル・キャンペーン」を実施しました。このキャンペーンは、新入生に大阪大学のロゴ入りのステンレスボトルを配布し、日々の生活に役立てもらいながら、身近な“エコ”について考えてもらう企画です。

3年目となる今年は、「大阪大学」×「日本茶業界」×「象印マホービン」の3者のコラボレーションとして実施しました。キャンペーン初日の5月28日(月)には、オリジナルボトルの配布とともに、学生さんへ冷たいお茶をその場で提供したほか、“シャカシャカ抹茶”の実演サービスや、静岡産新茶の入れ方の体験サービスを行い、多くの新入生が笑顔で参加していました。また、当日はテレビ局や新聞社も取材に訪れ、賑やかな雰囲気のもとイベントが行われました。

大阪大学未来基金は、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう、今後とも様々な取組で学生の皆さんを応援していきます。

(基金室)



ボトルに冷たいお茶を入れる新入生

総長等への表敬訪問

フィリピン共和国・フィリピン主要大学 4 大学一行表敬訪問

3月29日(木)、本学と大学間協定を締結しているデ・ラ・サル大学をはじめアテネオ・デ・マニラ大学を含む4大学一行が、高橋明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、DINO WILSON AGERICO TAN 工学研究科准教授が同席し、高橋理事・副学長からの本学紹介のほか国際化拠点整備事業についての意見交換が行われました。その後、近藤 佐知彦国際教育交流センター教授及び大西 好宜インターナショナルカレッジ教授から、同事業を通じて本学が提供する英語コースや奨学金についての紹介が行われました。



記念品の交換後、役員会議室にて

ドイツ連邦共和国・デュッセルドルフ大学学長表敬訪問

4月6日(金)、本学の複数の部局で部局間協定を締結しているデュッセルドルフ大学 Dr.med. Dr. phil. H. Michael Piper 学長一行が、平野俊夫総長を表敬訪問されました。本学からは、高橋明理事・副学長、米田悦啓医学系研究科長、高木淳一蛋白質研究所教授、W. シュヴェントカー人間科学研究科教授が同席し、両大学間の今後のさらなる学術交流に関する意見交換が行われました。



【前列左から】Dr. Michael Piper、平野総長

ドイツ連邦共和国・カールスルーエ大学学長表敬訪問

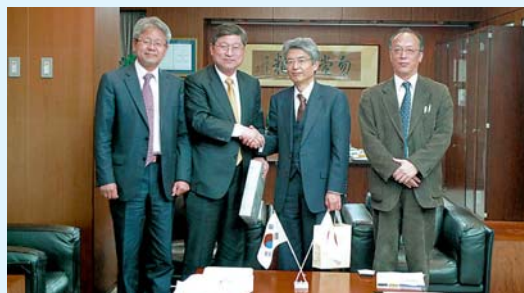
4月10日(火)、本学と部局間協定を締結しているカールスルーエ大学 Dr. Horst Hippler 学長一行が、平野俊夫総長を表敬訪問されました。本学からは、高橋明理事・副学長、住吉賢司国際交流課課長補佐が同席し、大学間協定に向けた意見交換が行われました。



【右から】平野総長、Dr. Horst Hippler

大韓民国・駐大阪韓国総領事館総領事表敬訪問

4月11日(水)、駐大阪韓国総領事館李賢主(イ・ヒョンジュ)総領事と金相敏(キム・サンミン)領事が、平野俊夫総長を表敬訪問されました。本学からは、高橋明理事・副学長、向井弘志国際交流課長が同席し、主に本学の留学プログラムについて懇談が行われました。



【中央左】李賢主総領事、【中央右】平野総長

ドイツ連邦共和国・駐大阪ドイツ総領事館総領事表敬訪問

4月16日(月)、駐大阪ドイツ総領事館 Dr. Alexander Olbrich 総領事が平野俊夫総長を表敬訪問されました。本学からは星野俊也総長補佐が同席し、本学とドイツの大学との研究協力について懇談が行われました。



【左から】Dr. Alexander Olbrich、平野総長

生体膜のイオン輸送蛋白質を研究して — 自然とヒトに学んだ未知なる世界の探索 —

大学院理学研究科教授 金 澤 浩

生物の基本的単位となる細胞は脂質と蛋白質からなる生体膜で囲まれている。生体膜にあって細胞の生存に必要なイオン環境は細胞膜内にあるイオン輸送蛋白質の働きにより制御されている。こうしたイオン輸送蛋白質の分子内構造や細胞の生理機構における役割についてこれまで40年近く研究を進めてきた。この過程は、大阪大学や前任の岡山大学、国立がんセンター研究所における多くの方々からのご指導、ご協力の上に成り立った。40年の研究と教育の過程を振り返り、分子生物学、生体エネルギー学分野で研究を進める上でどのようなモチベーションを持ち、イオン輸送蛋白質研究分野にどのように貢献できたかを述べた。研究をともに進めた元の同僚、現在の仲間、研究室を巣立った学生の方々に多数最終講義に出席を頂いたことに、心から感謝を申し上げたい。



かなざわ・ひろし

プロフィール

略歴：昭和46年東京大学薬学部卒業、昭和51年東京大学大学院薬学系博士課程修了、薬学博士、昭和51年コネチカット大学医学部博士研究員、昭和53年岡山大学助手薬学部、昭和60年国立がんセンター研究所室長、昭和63年岡山大学教授工学部、平成9年大阪大学教授大学院理学研究科。平成24年3月大阪大学を退職。大阪大学では理学研究科副研究科長、評議員、評価室員、大学院改革プログラム代表を歴任。

研究生活を振り返って

大学院理学研究科教授 藤 木 明

私の京都での学生時代に、フィールズ賞の小平教授が東大に帰国され、若手研究者、学生が周辺に集まって小平学派が形成された。私もその論文を読んで大変興味を持ち、また院生時代には小平学派の人々と知己を得る機会を与えられ、自然にコンパクト複素多様体の研究に導かれた。特に Enriques- 小平の複素曲面の分類論の高次元化に興味を持ったが、中でもコンパクトな Kähler (ケーラー) 多様体のクラスは、古典的な代数幾何学の研究対象である射影代数多様体と類似の構造を持ちながら、代数幾何学的手法が適用できない。この点に強く魅かれ、Kähler 性の本質は何かを考えることを一つの軸として、Kähler 多様体の構造を分類論的に、またモジュライ空間の観点からも研究した。その過程でクラス C の多様体の概念を導入し、また K3 曲面の高次元化にも導かれた。その後阪大に移る頃からは、複素多様体としてのツイスター空間に特に興味を持ち、Joyce ツイスター空間の構造の研究と Joyce 予想の解決、その発展としての井上曲面上の反自己双対双エルミート構造の構成などが、自分としては満足の出来る仕事であった。しかし、まだまだ興味ある問題が残されており今後も取り組んでいきたいと思っている。



ふじき・あきら

プロフィール

略歴：昭和45年京都大学理学部数学科卒業、昭和47年同大学大学院理学研究科修士課程修了、昭和47年同大学助手数理解析研究所、昭和50年学位（京都大学、理学博士）取得、昭和50年4月から一年間 Bonn 大学、Sonderforschungsbereich 研究員、昭和56年京都大学助教授教養部、昭和62年4月から一年間 Münster大学Humboldt研究員、平成5年大阪大学教授理学部、平成8年同大学教授大学院理学研究科、平成24年3月定年退職。専門は複素幾何学。

私が選んだ私の三大論文 — 研究生活を回想して —

大学院理学研究科教授 松 田 准 一

私は、希ガスの同位体比を用いて隕石中のダイヤモンドの起源、大気・海洋の起源などといった研究を中心に行って来ました。最終講義では、先輩研究者達の研究に対する格言をいくつか紹介するとともに、これまでの研究の中で、私自身が私の三大論文と思っているものを3つ紹介します。1つ目は、私が初めて書いた論文で、放射壊変した核種が試料の外に流出した場合でも、年代のみかけのアイソクロン（等時線）の式が成立するというものです。この流失係数が小さい場合には、近似式として正しい年代が出ることもわかりました。2つ目の論文は、引用文献が1つもない論文です。これは、娘核種の相対誤差よりも年代の相対誤差の方が小さくなるという、一見不思議に思われる現象を数学的に証明したものです。3つ目は、趣味を研究に生かした例です。古い陶磁器を破碎し当時の地球大気のヘリウム同位体比を探るというものでした。この研究から、産業革命で化石燃料を燃やしたことから、大気中のヘリウム同位体比が変化していることを実験的に検証することができました。また、中国と日本の陶磁器の製作方法の違いなども明らかになりました。



まつだ・じゅんいち

プロフィール

略歴：昭和47年3月東京大学理学部物理学科を卒業後、昭和47年4月東京大学大学院理学系研究科地球物理学専攻修士課程に進学、昭和51年7月に同博士課程を中退、同年8月から神戸大学助手理学部に採用され、昭和59年12月には同大学助教授に昇任した。この間、昭和53年1月に東京大学より理学博士号を取得するとともに、昭和53年9月より昭和55年9月までシカゴ大学エンリコフェルミ研究所研究員として米国に滞在。平成3年4月に大阪大学助教授理学部に転任後、平成6年9月同大学教授に昇任、平成17年4月より平成18年3月まで東京大学物性研究所の客員教授も兼任した。専門は同位体宇宙地球科学。日本地球化学賞、三宅賞等を受賞し、国際隕石学会フェロー。

病理学37年

大学院医学系研究科教授 青 笹 克 之

1973年東北大学医学部を卒業し、1975年より大阪大学医学部第二病理学（現病態病理学）教室で、病理診断の訓練を目的に関連病院の悪性リンパ腫症例を収集し、検討を重ねた。厚生省がん研究班に参加することとなり、全国的な規模での調査に発展していった。調査により一部のリンパ腫症例の発症の基盤に慢性炎症が存在することに気付いたため、「慢性炎症を基盤に発症する悪性リンパ腫」として整理した。この中で、主に結核の後遺症として発症する膿胸（pyothorax）患者の胸膜腔に悪性リンパ腫が発生することを明らかにし、膿胸関連リンパ腫（pyothorax-associated lymphoma: PAL）と命名した。PALはその後、独立した疾患として国際的に認知された。悪性リンパ腫の他に、軟部肉腫、前立腺癌などについても関連臨床教室と協力して研究を行った。

医学部教育は医師の養成において大変に重要なものである。6年間の医学部教務委員長、5年間の日本病理学会教育委員長として、医学部学生カリキュラムの調査、検討を行った。医学部入学後の全学共通教育から医学部卒業までのカリキュラムを医学科教育改革WGにおいて策定し、医学科教育センターを立ち上げた。

病理診断は癌医療の基盤をなすものであり、専門的知識を身につけた病理専門医によって担われている。このため、大阪大学において病理専門医の育成に努めた。現在34施設、59名を数えるが、未だ充足しているとは言い難く、さらなる努力が必要とされる。



あおざさ・かつゆき

プロフィール

略歴：昭和48年東北大学医学部卒業、昭和52年大阪大学助手医学部、昭和58年同大学講師、昭和61年同大学助教授、平成元年奈良県立医科大学第一病理学教授、平成5年大阪大学教授医学部病理学、平成24年同大学定年退職。平成13年日本病理学賞受賞、平成7-24年日本病理学会理事（平成22-24年理事長）

突然死の研究 — 青少年から乳幼児へ、病死から覚醒剤中毒へ —

大学院医学系研究科教授 的 場 梁 次

青年男子が夜間睡眠中に突然死し、原因がよく分からないので、心臓の病理所見を検索した結果、心筋の肥大、変性、走行の乱れ、線維化等を認め、当時注目を集めていた肥大型心筋症に類似していることを発表した。また、時折覚醒剤(MA)乱用者に突然死が見られ、これらの心臓にも類似した心病変が認められた。ラット培養心筋細胞へMAを投与したところ、心筋細胞の拍動数が増加し、細胞内 Ca^{2+} 濃度が上昇することを見いだした。これらの変化はアドレナリン受容体、筋小胞体における Ca^{2+} 制御機構を阻害しても抑制されなかったが、L型 Ca^{2+} チャネルを阻害した際に Ca^{2+} 濃度は上昇しないことを発見した。MAにより引き起こされる心筋細胞の拍動数の増加や Ca^{2+} オシレーションの変化は、MAがL型 Ca^{2+} チャネルを修飾することにより惹起されることを見いだした。一方、乳幼児が就眠中に突然死亡し、その死因が、病死か窒息死かの鑑別は解剖のみでは困難であった。そのため、乳幼児突然死30症例に対し、脂肪酸代謝異常症の観点からレトロスペクティブに検討を行った。肝臓脂肪染色、タンデムマスによるアシルカルニチン解析やDNA解析を行ったところ、30例中3例に脂肪染色が陽性で、これらのうち2例は長鎖脂肪酸代謝異常が疑われ、さらに、このうち1例がcarnitine palmitoyltransferase 2 (CPT2) 欠損症と診断できた。乳幼児の突然死例では代謝異常の関与するものがあり、検討が必要である。



まとは・りょうじ

プロフィール

略歴：昭和47年大阪大学医学部卒業、昭和51年大阪大学助手医学部法医学教室、昭和62年同助教授、平成元年佐賀医科大学法医学教室教授、平成3年シンシナティ大学医学部薬理学教室留学、平成5年名古屋市立大学医学部法医学教室教授、平成10年大阪大学教授大学院医学系研究科法医学教室。平成23年3月末日をもって大阪大学を定年退職。現在は大阪府監察医事務所所長。これまで司法解剖約二千例の鑑定、行政解剖二千例、その他多数の裁判鑑定、法医鑑定を行い、学部内委員（論文博士審査委員、教育課程等協議会委員、大学教育設置検討委員、教務委員、共通教育機構カリキュラム委員、人権問題委員、大阪大学セクシュアルハラスメントに関する部局委員並びに対策委員、鑑定問題検討委員、安全衛生委員）、学外委員（日本法医学会評議員、元日本法医学会理事）を歴任。法務大臣感謝状（平成18年）、警察庁長官賞（平成24年）を受賞。

麻酔と痛み

大学院医学系研究科教授 眞 下 節

私の主な研究テーマは麻酔作用機序の解明および慢性痛の病態解明と治療法の開発です。米国留学中に麻酔作用機序の研究を開始し、帰国後は膜たんぱく質の機能と分子構造に対する麻酔薬の作用解明に取り組みました。基礎工学部との共同研究の中から、膜内二次元結晶構造を形成するバクテリオロドプシンに対する麻酔薬の結合部位をX線回折法により初めて明らかにすることができました。しかし、平成に入った頃から麻酔機序の研究をめぐる世界の流れが変わり、GABA_A受容体などのニューロン膜たんぱく質に焦点が当てられるようになりました。その中で、化学的に不活性なガス麻酔薬のキセノンですら膜受容体たんぱく質に特異的に作用することなどを示し、その作用特異性を明らかにしてきました。



もうひとつの研究の柱であった神経障害性疼痛の病態解明と治療に関する研究では、脊髄後角における末梢神経損傷後の疼痛過敏発症機序や痛みの遷延による情動異常の発症機序の解明などを行ってきました。さらに、神経障害性疼痛患者では四肢の認知 - 運動協応の破たんや身体認知にゆがみが生じることを示し、認知 - 運動協応を回復させるカガミ療法や身体認知を矯正する視野偏位プリズム眼鏡療法の臨床的意義を明らかにしました。

ましも・たかし

プロフィール

略歴：昭和48年大阪大学医学部卒業、同附属病院や大阪府立病院で臨床研修を行った後、昭和51年大阪大学助手医学部（麻酔学講座）において臨床のかたわら研究を開始。昭和52年から3年間米国留学、帰国後1年あまり大阪通信病院赴任後、昭和56年大阪大学助手医学部、昭和58年同講師、平成4年同助教授、平成11年同教授（同年4月に大学院医学系研究科教授に配置換）。平成21年よりグローバルCOE「認知脳理解に基づく未来工学創成（拠点リーダー石黒浩教授）」の副統括（研究基盤統括）。附属病院においては、麻酔管理（麻酔科長）、集中治療（集中治療部長）およびペインクリニック（疼痛医療センター長）の臨床業務に携わる。学会活動としては、日本麻酔科学会監事、日本心臓血管麻酔学会理事、日本疼痛学会理事、日本ペインクリニック学会評議員、日本アロマテラピー学会監事などを歴任。

太平洋をまたいで思うこと

大学院歯学研究科教授 米 田 俊 之

昭和47年に歯学部を卒業してから平成24年に退職するまでの40年間のうち、ポスドクとして3年間の留学、そしてテキサス大学サンアントニオ校医学部内分泌代謝部門のFaculty Memberとして10年間、アメリカで教育・研究生活を送った。平成9年に阪大に戻ってからも、客員教授として大阪とサンアントニオを平均して年に10回以上往ったり来たりし、アメリカの友人からはTranspacific Professorという呼び名をもらった。おかげで色んな局面において日本とアメリカの大学の違いを実感する機会があったが、最も大きな違いは雇用システムにあるように思う。アメリカの場合は、サラリーは獲得した研究費から出すので、教職員でも主任教授レベル、ポスドクやテクニシャンであれば主任研究員レベルで雇用を決定することができる。したがって研究費さえ潤沢に獲得していれば思うように必要な人材の雇用、あるいは若手の優秀な研究者のプロモーションを進め、教育・研究を進展、拡大できる。一方日本の場合は、サラリーは文科省から供給され、そのため教職員の数が定められているので若手の優秀な研究者の雇用やプロモーションを思うように進められず、停滞してしまう。日本の大学にはこういった雇用制度の変革も必要ではないだろうか。



よねだ・としゆき

プロフィール

略歴：昭和47年大阪大学歯学部卒業、昭和51年大阪大学大学院歯学研究科修了。歯学博士。昭和62年口腔外科認定医。平成4～5年東京医科歯科大学教授難治疾患研究所。平成7～9年 テキサス大学サンアントニオ校医学部内分泌代謝学講座教授（Heyser Professor）。平成9年大阪大学教授歯学部生化学講座に就任し、テキサス大学サンアントニオ校医学部客員教授併任。平成12年大阪大学教授大学院歯学研究科口腔分子免疫学制御学講座生化学教室に配置転換。その後、大阪大学評議員（平成15～17年）、21世紀COE拠点リーダー（平成15～19年）、日本学術会議（平成17～22年）、大阪大学大学院歯学研究科長/歯学部長（平成19～23年）、日本骨代謝学会理事長（平成21年～）を歴任。平成24年3月退職。専門分野は骨代謝、がんの分子細胞生物学。

くすりは有機化合物である

大学院薬学研究科教授 田 中 徹 明

研究の何たるかを殆ど知らないまま有機化学系の「薬品製造学講座」を特別実習配属先講座として選んだ。ただ、人類に有用なものを作りたい、何かを自分で作りたい、との単純な思いからであった。表題は、創薬研究はもちろん生命科学研究における有機化学の重要性を説くために学生たちに長年言ってきた言葉である。即ち、薬の作用も様々な生命現象も有機化合物が深く関与する化学反応の結果であると。

生物活性を有する天然および非天然有機化合物の全合成、あるいはその類縁体の合成およびそれらの構造活性相関の検討を通じて新薬候補物質を探索することを主目的とした研究を推進してきた。一方、合成に有用な新規有機合成反応の開発あるいは複素環化合物の合成化学的活用研究など純有機化学的研究も並行して遂行してきた。しかし、構造活性相関研究は、一部の合成中間体の活性試験を外部に依頼するのが関の山だった。つまり全合成の達成、新反応の発見、それらの論文化が研究の終着点であり、それで問題ないように思えた。最近、天然物のみならず類縁体の入手を可能にする高効率かつ柔軟性に富む合成法の開発、あるいは生物活性天然物と他の活性物質とのハイブリッド化による新たな活性物質の創成を志向する研究を遂行してきた。その結果、非常に興味深いプロファイルを有する抗腫瘍活性物質を見出し、創薬に向けた更なる研究を展開しつつある。モノ（活性物質）を持つ（合成できる）ことと、化合物を分子レベルで考察できる有機化学者の強み生かした生命科学研究への貢献が、薬学における有機化学者の使命の一つではないかと思いつつ。



たなか・てつあき

プロフィール

略歴：昭和46年3月に大阪大学薬学部製薬化学科卒業。昭和48年3月大阪大学大学院薬学研究科薬品化学専攻修士課程修了、昭和53年1月同大学大学院薬学研究科薬品化学専攻博士課程単位取得退学。同年2月大阪大学文部技官薬学部、同年8月同大学助手薬学部。昭和54年5月薬学博士（大阪大学）。昭和59年9月から昭和61年3月まで米国テキサス大学博士研究員。平成2年3月大阪大学助教授薬学部、平成10年4月同大学助教授大学院薬学研究科を経て、平成11年3月同大学教授大学院薬学研究科。平成24年3月退職。専門は有機合成化学。

ノンパラメトリックス40年

大学院基礎工学研究科教授 白旗慎吾

昭和45年に大学院基礎工学研究科数理系専攻に入学し、丘本正教授の研究室でノンパラメトリック統計学と出会って以来、統計的データ解析のいろいろな分野でのノンパラメトリック法についての理論・方法論、特に漸近分布の導出、効率の計算、統計データのグラフ表現とそこから導かれる統計量の開発、を研究の中心にしてきた。古典的な統計学では、実験データ解析には正規分布、寿命解析には指数分布やワイブル分布などの特定の分布を仮定し（パラメトリック法）、美しく、かつ効率の高い方法が開発されてきたが、実際のデータでこれらの厳密な仮定が満たされることは少なく、順位や符号などの簡便で分布に仮定を置かずに適用できるノンパラメトリック法が提案されていた。ノンパラメトリック法は、当初は簡便であるが効率の低い方法である、と思われていたが、多くの研究により効率はパラメトリック法にさほど劣らず、場合によっては上回ることが示され、医学データ解析など多くの分野で適用されている。さらに近年では、例えば回帰分析において、回帰構造に特定の関数型を仮定せずに、データの平滑化により回帰構造を推測しよう、というように拡張されてきている。最終講義では、私のノンパラメトリック統計学研究の過程について話をした。



しらはた・しんご

プロフィール

略歴：昭和45年大阪大学理学部数学科卒業、昭和47年同大学院基礎工学研究科数理系専攻修士課程修了、昭和49年同博士課程中退、同年九州大学助手理学部、昭和51年理学博士を取得。昭和52年大阪大学講師教養部、昭和55年同大学助教授、昭和58年同大学助教授基礎工学部、平成元年同大学教授教養部、平成6年同大学教授基礎工学部、平成9年同大学教授大学院基礎工学研究科。その間、日本計算機統計学会理事、評議員、副会長、会長、応用統計学会理事、評議員、日本統計学会評議員、日本数学会評議員、Communications in Statistics, International Editorial Board Member, The International Association for Statistical Computing 第3回世界大会（横浜）の国内組織委員会委員長、大学入試センター各種委員を務める。研究テーマはノンパラメトリック法、統計グラフィックスの理論と応用。

満洲の中の二つのロシア

大学院言語文化研究科教授 生田 美智子

中国東北部(満洲)にはかつて巨大なロシア人コロニーが約60年間にわたり存在し、「日本から最も近いヨーロッパ」と言われた。その展開は三つに時代区分することができる。第一は、帝政ロシアの存在を背景として、中東鉄道建設のための移住とコロニーの建設・運営が展開した時期。第二は、帝政ロシア崩壊後、亡命ロシア人が中東鉄道沿線に流入した時期。この時期には亡命ロシア文化・経済の全盛時代が現出したが、1935年のソ連による中東鉄道売却により、ソ連コロニーが撤退すると、大量消費を失ったロシア人コロニーは全体として衰退した。第三は、ソ連軍の満洲侵攻から1960年代初頭におけるロシア人コミュニティ引き揚げまでの時期。

第二期の前半、すなわち、1924年中東鉄道が中ソ共同経営になると、ソ連から赴任した鉄道関係者は、ソヴィエトロシアと亡命ロシアが並存するという空間を満洲に現出させた。この共存は、従来の研究ではイデオロギー的対立に焦点があたり、二項対立的に捉えられがちであったが、その境界の流動性とネットワークにも照明をあてた。それにより、満洲における二つのロシアの共存は、両者の対立と排除の側面だけでなく、両者の境界の流動性と二つのロシアをまたぐネットワークの構築をもたらしたことをみた。日常生活の中の対立の構図(正書法、度量衡、行事、祝祭日、ビジュアルコード)、流行語(純粋ソ連人、半ソ連人、ラデッシュなど)や国籍の転籍状況(旧帝政ロシア臣民籍、無国籍、ソ連国籍)、経済や文化による境界越境の状況、ネットワークをみることで、その諸相を明らかにした。



いくた・みちこ

プロフィール

略歴：昭和44年3月大阪外国語大学卒業。昭和49年3月大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了。平成14年博士(言語文化学)(大阪大学)。大阪外国語大学、大阪大学、関西大学、立命館大学、京都大学で非常勤講師ならびに民間企業での通訳業務を経て、平成10年4月大阪外国語大学教授外国語学部、平成19年10月より大阪大学教授大学院言語文化研究科。学内の運営に関しては、大阪外国語大学においては自己点検・評価に関する委員会、学務委員会、人事委員会、総務委員会の委員を歴任。大阪大学では、言語文化研究科応用言語社会講座代表、言語社会専攻広報・社会貢献検討委員会、外国語学部総務委員会、学務委員会の委員を歴任。全学規模ではサントベテルブルグ大学と大阪大学との大学間協定のコンタクトパーソン、男女共同参画推進オフィス室員、多様な人材活用推進本部委員を務めた。学外では日本ロシア文学会理事、東北大学東北アジア研究センターの外部評価委員、日本学術振興会科学研究費補助金審査委員を歴任。主な研究領域は日露交流史、地域研究、満洲におけるロシア系ディアスポラ研究、ジェンダー研究。主な単著書に『大田屋光太夫の接吻』(平凡社、単)、『外交儀礼から見た幕末日露文化交流史』(ミネルヴァ書房)、『高田屋嘉兵衛』(ミネルヴァ書房)、編著書に『満洲の中のロシア』(成文社)。

バリェ＝イン克蘭とガリシア

大学院言語文化研究科教授 堀内 研二

20世紀のスペイン文学を代表する作家ラモン・デル・バリェ＝イン克蘭(1866-1936)の文学と生涯、およびその出身地であるガリシア地方の紹介。

バリェ＝イン克蘭の創作活動はふたつの時期に大別される。ひとつは初期のモデルニスモ期で、貴族趣味と唯美的傾向の色濃い芸術至上主義の作品が、洗練された美しい感覚的な文体で書かれる。四部作の小説『四季のソナタ』がその代表作である。この時期にはバリェの故郷ガリシアの大地にしっかりと足をつけた民衆の生き生きとした世界を描いた作品もみられる。短編集『仄暗き庭』、小説『聖なる花』がそれである。この傾向は『野蠻劇』、歴史小説『カルリスタ戦争』三部作に受け継がれていく。もうひとつが1920年以降のエスペルペント期で、それまでの洗練された美文から離れ、粗野でグロテスクな言葉を多用し、造物主のごとき一段高い所から見下ろす視点でもって、作品世界をうごめく登場人物たちを揶揄し戯画化する。この手法でもって、現実世界のさまざまな矛盾、偽善、不正義を激しく告発する。戯曲『ボヘミアンの光』、『神の言葉』、三部作『カーニバルの火曜日』、小説『暴君バンデラス』がこの時期の代表作である。



ほりうち・けんじ

プロフィール

略歴：昭和47年3月東京外国語大学外国語学部スペイン語科卒業。昭和50年3月同大学院外国語学研究科修士課程修了。同年7月大阪外国語大学助手外国語学部。昭和53年1月同大学専任講師。昭和58年10月同大学助教授。平成6年1月同大学教授。昭和54年9月から昭和55年9月までスペイン政府の奨学生としてマドリードのイベロアメリカ協力学院(ICI)に留学。昭和62年9月から昭和63年7月まで文部省在外研究員としてスペイン国マドリードの高等学術研究院(CSIC)でスペイン文学の研究に従事。平成19年10月統合により大阪大学教授大学院言語文化研究科に配置換え。研究領域はスペイン現代文学、ラモン・デル・バリェ＝イン克蘭研究。本学では言語文化研究科言語社会専攻設備・施設マネジメント委員、同大学院教務委員、同入試委員、外国語学部総務委員、学外では日本イスパニヤ学会理事、その機関誌「イスパニカ」の編集委員等を歴任。

新株発行のメカニズムと法規制

大学院高等司法研究科教授 吉本 健一

株式会社はその活動資金調達のために会社設立時だけでなく成立後にも株式を発行する。しかし、会社成立後の新株発行は、既存株主と新株を引き受ける新株主との利害が対立するので、既存株主の利益保護をいかに図るかが会社法の重要な課題となる。既存株主が株主として有する利益には、財産的利益と支配的利益があるが、現行会社法は、財産的利益の保護は確保するものの、会社の資金調達の便宜を優先して、支配的利益(持株比率の維持)の保護は後退させられている。

会社法による既存株主の利益保護は、新株発行前の措置と新株発行後の措置があり、前者には、非公開会社における株主総会決議、公開会社における新株発行の公示(有利発行でない場合)または株主総会決議(有利発行の場合)ならびに新株発行の差止めがある。事後的措置としては、通謀引受人の差額支払責任(同法212条1項1号)や現物出資に関する不足額填補責任(同法212条1項2号、213条1項)のほか、一般的には新株発行の無効訴訟(同法828条1項2号・3号)や取締役の責任追及(同法423条1項または429条1項)がある。しかし、裁判所によるこれらの法規制の運用は、必ずしもその論理が一貫せず、既存株主を十分に保護するものになっていない。

さらに、現行会社法では、新株予約権の発行が大幅に緩和されているが、この濫用による既存株主の利益侵害がかなり多くなっており、その保護が喫緊の課題となっている。このように、新株発行の法規制のあり方は、まだまだ残された課題も多く、引き続き重要な研究テーマとして、研究を続けていきたいと考えている。



よしもと・けんいち

プロフィール

略歴：専門は、商法および会社法。博士(法学)(大阪大学)。昭和49年3月大阪大学大学院法学研究科修士課程修了。同年4月和歌山大学助手経済学部、同講師、助教授を経て、昭和61年4月大阪大学助教授法学部。平成6年4月大阪大学教授法学部、平成9年8月大阪大学評議員(平成11年7月まで)、平成11年4月同教授大学院法学研究科、平成16年4月同大学院高等司法研究科長(平成18年3月まで)、平成17年4月大阪大学法務室長(平成19年3月まで)、平成24年3月大阪大学退職。平成4年2月から平成5年3月までUniversity of London, Institute of Advanced Legal Studies客員研究員。社会活動としては、日本海法学会理事(平成6年～平成10年)、日本私法学会理事(平成7年～平成9年)、大蔵省公認会計士第2次試験委員(平成8年～平成11年)、大阪弁護士会懲戒委員会委員(平成14年～平成18年)、大阪商工会議所企業法制委員会副委員長(平成14年～現在)、公益信託大隅健一郎基金運営委員会委員(平成18年～現在)などがある。

分子線エピタキシと新半導体・新デバイス創製研究35年 — 多くの人に支えられて —

産業科学研究所教授 朝 日 —

分子線エピタキシ (MBE) 法は超高真空装置中で行われる薄膜結晶成長法であり、加熱された基板結晶上に成長結晶の構成原子の分子線、原子線を供給して薄膜結晶を成長させる。熱平衡状態からずれた条件下での結晶成長法であるために、様々な結晶の成長が可能となっている。私は、昭和 52 年に光通信用半導体デバイスの創製を目的として MBE 法に係わり、本年で 35 年になる。この間、MBE 法を基盤として光・電子・情報産業に役立つ光・電子・スピン材料、デバイス創製の研究を行ってきた。新しいデバイスの実現には、新機能材料・新構造の創製が不可欠であり、新しい半導体の創製、高性能ナノ構造／量子構造の作製、各種材料との積層／融合などの結晶成長、プロセス、物性評価、デバイス応用の研究を行った。講演では、燐 (P) を含む III-V 族半導体の MBE 技術の開発、InGaAlP 新半導体と赤色半導体レーザの創製、InGaAlAs 新半導体と多重量子井戸光変調器の創製、TlInGaAs 新半導体と温度安定発振波長半導体レーザの創製、GaN 系希薄磁性新半導体の創製と半導体スピントロニクスデバイスなど 35 年に亘って行った研究の概要について、苦労話を含めて講演した。これらの研究は多くの方々の協力、支えがあって始めて成し遂げられたものであり、心よりの感謝を申し上げたい。



あさひ・はじめ

プロフィール

略歴：昭和46年東京大学工学部物理工学科卒業、昭和51年東京大学大学院工学系研究科物理工学専門課程博士課程修了（工学博士）、昭和51年日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所・研究員、昭和58年同厚木電気通信研究所・研究専門調査役、昭和60年日本電信電話株式会社厚木電気通信研究所・主幹研究員、昭和62年大阪大学助教授産業科学研究所を経て、平成13年同教授（工学研究科電気電子情報工学専攻、理学研究科物理学専攻兼任）、平成18年4月～平成22年3月同副所長を兼任。学外では、応用物理学会評議員、応用物理学会結晶工学分科会幹事長、応用物理学会応用電子物性分科会幹事長、日本表面科学会理事、日本表面科学会評議員・協議員、日本表面科学会関西支部長、財団法人産業科学研究協会理事等を歴任。

ペプチド化学とともに歩んだ40年

蛋白質研究所教授（現理事・副学長）相 本 三 郎

平成 24 年 3 月 2 日、蛋白質研究所講堂にて相本三郎先生の最終講義が行われました。本講義では、学生時代から蛋白質研究所に所属しておられた先生の 40 年余りに及ぶペプチド化学のご研究を、ご自身の思い出を交えて紹介されました。タンパク質化学合成法の研究において、大学院生だった当時、1 年程度で 100 残基を超える長鎖ペプチドを高純度で合成できる簡便な方法を開発し、『ペプチドチオエステルを合成ブロックとして用いる』というコンセプトを世界に先駆けて打ち出し、その有用性を実証されました。現在このアイデアは最もスタンダードなものとなっており、ペプチド化学の発展に大きく貢献しました。また、化学合成したタンパク質・ペプチドを用いて、生化学・構造生物学分野の研究者と広範な共同研究を実施し、生命科学の発展にも寄与されました。講義の最後は、蛋白質研究所初代所長の赤堀四郎先生が座右の銘とされていた『雪埋梅花 不能埋香（雪梅花を埋むるも、香りを埋むる能わず）』という漢詩を後進研究者への励ましの言葉として締めくくられました。

なお先生は平成 23 年 8 月から理事・副学長として、基盤研究・リスク管理を担当し、大阪大学全体ひいては日本の科学研究を強力に推進されております。



あimoto・さぶろう

プロフィール

略歴：昭和45年大阪大学理学部化学科卒業。昭和47年同大学院理学研究科修士課程修了。同博士課程進学、同年8月退学後同大学助手蛋白質研究所。昭和52年10月理学博士。昭和53年12月Roswell Park記念研究所博士研究員、昭和54年11月Yale大学生物物理・生化学科博士研究員、昭和55年11月帰国。昭和62年12月大阪大学助教授蛋白質研究所附属蛋白質工学基礎研究センター、平成6年1月同教授。平成13年同研究所蛋白質有機化学研究部門教授。平成20年4月から平成22年3月まで同研究所所長。平成23年8月退職後大阪大学理事・副学長。生化学会評議員、財団法人蛋白質研究奨励会理事、サントリー生命科学財団理事、プロテイン・モール関西幹事、日本ペプチド学会理事、会長など。

分子からマチカネワニへ旅して

総合学術博物館教授（現理事・副学長） 江口 太 郎

学生時代から通算すると46年に及ぶ阪大生活。最近の10年ほどは、分子とマチカネワニをどう関連づけるかで悪戦苦闘してきた。実験に没頭した30代は、固体中でナノメートルの大きさの分子がナノ秒程度の速さで運動（再配向）すると分子がお互い球に見えるようになり、柔粘性結晶と呼ばれる状態を実現することをNMR（核磁気共鳴）で攻めた。その柔粘性結晶を急冷すると分子の配向が乱れたガラス性結晶になる。このような非平衡状態では観測の時間スケールが重要であること学んだ。博物館に関わるようになり、マチカネワニと出会った。45万年前の豊中に生息していたワニは現在でも最先端の研究対象になっている。時間スケールが一挙に100年～1000年単位に広がった。門前の小僧になるが、古脊椎動物学では骨化石の1点1点を微に入り細に穿って観察する。「神は細部に宿る」という点では、ミクロな分子運動の研究も同じだと思っている。この間、多くの友人、同僚、先輩、後輩、学生さんに囲まれ楽しく過ごすことができた。ただただ感謝するばかりである。



えぐち・たろう

プロフィール

略歴：昭和22年大分県中津市に生まれる。昭和45年大阪大学理学部化学科卒業、昭和51年大阪大学大学院理学研究科無機及び物理化学専攻博士課程単位修得退学。昭和51年大阪大学助手教養部。昭和52年理学博士（大阪大学）、昭和54年6月～56年3月イリノイ大学博士研究員。平成元年大阪大学助教授教養部、平成6年同大学助教授理学部、平成14年3月同大学教授大学院理学研究科、同年4月大阪大学教授総合学術博物館。平成17年4月～平成23年8月同総合学術博物館長。平成23年8月理事・副学長。平成22年3月日本化学会化学教育賞（第34回）を受賞。専門は物理化学・博物科学。

表彰等

平成24年春の褒章・叙勲受章者

○褒章

大阪大学名誉教授（元生命機能研究科教授）	花岡 文雄	紫綬褒章
大阪大学大学院基礎工学研究科教授	北岡 良雄	紫綬褒章

○叙勲

大阪大学名誉教授（元基礎工学部教授）	有本 卓	瑞宝中綬章
大阪大学名誉教授（元社会経済研究所長）	森口 親司	瑞宝中綬章
大阪外国語大学名誉教授	小野 堅	瑞宝中綬章
元大阪大学医学部附属病院看護部看護助手	山本 美幸	瑞宝単光章

※なお、上記は本学より申請した者に限りますので、ご了承ください。

（総務企画部人事課）

「平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」受賞

平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞・若手科学者賞）の発表があり、表彰式が4月17日（火）に文部科学省にて行われました。本賞は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的に定められたものです。

理学研究科の高橋篤史准教授が、「特異点理論におけるミラー対称性の研究」の業績により若手科学者賞を受賞しました。

高橋准教授は、ホモロジー的ミラー対称性と呼ばれる代数学と幾何学の役割を入れ替える対称性により、正多面体・特異点・リー環の三者間にある不思議な関係を自然に説明し、それを一般化することに成功しました。これにより、数学におけるミラー対称性の重要性・有効性を特異点理論において示しました。

本研究成果は、真理の探究という知的好奇心に応え、知的財産の形成に貢献するものと期待されます。

（理学研究科・理学部）



工学研究科の笠井秀明教授が、「量子ダイナミクス理論の提唱と知的材料設計手法の開拓的研究」の業績により、科学技術賞（研究部門）を受賞しました。笠井教授は、固体表面水素反応量子ダイナミクス理論を提唱して表面水素反応科学の学術分野を切り拓き、さらに知的材料設計のための世界初の学術分野「計算機マテリアルデザイン学」の基礎概念を発展させたことが評価されました。本成果は、従来の材料開発の手法を大きく塗り替えるものであり、特に環境・エネルギー関連の技術開発と産業創生、さらに人材育成に寄与することが期待されています。

（工学研究科・工学部）



工学研究科の鳶巣守准教授が、「炭素を含む不活性結合の触媒的置換反応の研究」の業績により、若手科学者賞を受賞しました。持続可能社会確立に対する社会的要請から、有害なハロゲン化合物を用いない普遍的に存在する単純な化学結合を直截的に利用する次世代型の有機合成手法が切望されています。しかし、その種の結合は一般に不活性であり、学術的にも挑戦的な未踏領域でした。鳶巣准教授は、シリルイソシアニド脱離、イブソ位求核付加脱離などの新しい原理に基づいた結合活性化法により、不活性結合の触媒的変換反応を開発しました。本研究成果は、医薬品・有機エレクトロニクス材料などの高効率かつ低環境負荷型の合成手法になりうると期待されています。

（工学研究科・工学部）



表彰等

工学研究科の中山喜萬教授が、秋田成司氏（大阪府立大学教授）、大川隆氏（大研化学工業（株）執行役員）と共に科学技術賞（開発部門）を受賞しました。受賞テーマは「カーボンナノチューブ探針の開発」です。新素材のカーボンナノチューブを探針とすることにより、走査型プローブ顕微鏡の極限の性能を引き出せるものと期待されていましたが、その実現が大きな課題でした。中山教授らは、微細なカーボンナノチューブを一本一本自在に扱える技術を構築し、安定して新素材探針を製作できるようにしました。この成果は走査型プローブ顕微鏡の高性能・高分解能を達成し、ナノテクノロジー・ナノサイエンスの進展に寄与しています。

（工学研究科・工学部）



工学研究科の福井希一教授が、関西大学環境都市工学部冬木正彦教授と共に科学技術賞（理解増進部門）を受賞しました。受賞テーマは「国際競争力に資する専門英語教育システムの開発及び普及啓発」です。両教授は、最先端科学技術分野で英語によるコミュニケーションを学ぶ教材を多くの教員の協力の下に開発するとともに、授業と学習のサイクル形成を統合的に支援できるユーザビリティが高いeラーニングシステム「CEAS」を開発しました。それらを統合した専門英語eラーニング教育システムが、わが国の理工系学生・院生の国際競争力の涵養に寄与したことが評価されました。

（工学研究科・工学部）



工学研究科の水上進准教授が、「機能性分子設計に基づくバイオイメーシング基盤技術の研究」の業績により、若手科学者賞を受賞しました。水上准教授は、有機化学に基づいて機能性プローブ分子を設計・合成し、遺伝子工学技術や蛍光顕微鏡やMRIなどの最先端の測定技術と組み合わせることにより、酵素活性の可視化技術を始めとする複数の生体機能解析技術を開発しました。これらの技術は、未知の生命現象の解明や創薬につながる次世代のイメージング技術になると期待されています。

（工学研究科・工学部）



医学系研究科／生命機能研究科の月田早智子教授は、「上皮細胞シート形成による生体システム構築原理の研究」の業績により、科学技術賞（研究部門）を受賞しました。月田教授は、長年にわたり上皮細胞の細胞間接着や極性、細胞骨格の研究を続けてこられました。近年は特に、上皮細胞がシートシステムとして、生体内ホメオスタシスの維持と機能を担う仕組みや、その破綻にともなう炎症などの疾患発症との関連、細胞接着装置を起点としたシグナル伝達解析と組織形成の異常、アピカル構築異常と纖毛病、など基礎と臨床に広がる研究を続けています。

（生命機能研究科）

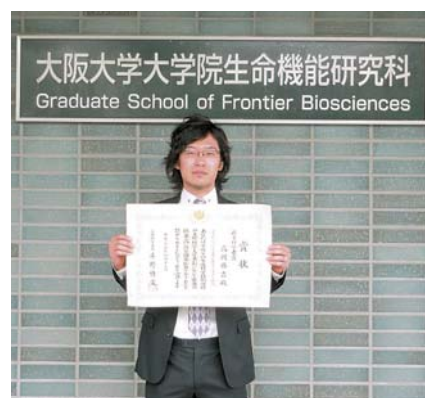


生命機能研究科の高岡勝吉助教が、「マウス胚における前後軸の起源とそのメカニズムの研究」の業績により、若手科学者賞を受賞しました。

高岡助教は、マウスの丸い受精卵が、前後軸方向を獲得するメカニズムを解明するために、細胞分化と挙動に着目し解析しました。その結果、従来の前後軸形成モデルを覆し、新たなモデルを提唱しました。

本研究成果は、体の非対称性の起源という発生生物学の命題に迫るとともに、将来の再生医療の基盤となるものと期待されています。

(生命機能研究科)



免疫学フロンティア研究センターの黒崎知博特任教授が、「アレルギー反応の制御因子同定の研究」の業績により、科学技術賞（研究部門）を受賞しました。

黒崎教授は、STIM1 という蛋白質が、「肥満細胞内部でカルシウム流入を調節し、アレルギー反応を引き起こす要因となる」という新しいアレルギー発症のメカニズムを示しました。こうした「カルシウム流入関与蛋白質」の同定は、新しいタイプの抗アレルギー治療薬の開発に寄与することが期待されます。

(免疫学フロンティア研究センター)



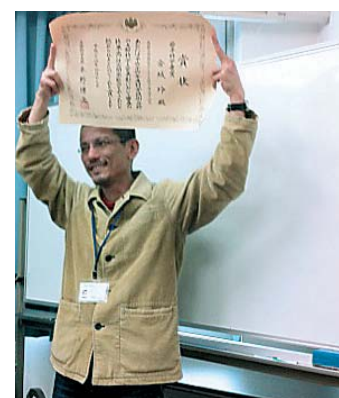
産業科学研究所の柳田剛准教授が「自己組織化ナノワイヤの構造制御と機能デバイスの研究」の業績により、若手科学者賞を受賞しました。柳田准教授は、自己組織化メカニズムに立脚した独自のプロセス開発により、自己組織化ナノワイヤの構造制御と従来の枠組みでは不可能であった多種多様な機能性酸化物材料群をナノワイヤ構造化する手法の開発に成功しました。また、一本のナノワイヤを基板上で電極との接合を介したデバイスへと結びつける手法を構築し、数ナノメートルサイズ領域における低消費電力型不揮発性メモリ効果を見出すに至っています。本研究成果は、ナノワイヤの構造制御とそれを機能デバイスへと展開することを実証したものであり、今後の自己組織化ナノワイヤ研究の進展に大きく寄与するものと期待されます。

(産業科学研究所)



蛋白質研究所の金城玲准教授が、「蛋白質立体構造のデータベース技術と博物学の研究」の業績により、若手科学者賞を受賞しました。金城准教授は、蛋白質の立体構造比較問題をデータベースの幾何学的索引付けという問題として定式化することで、世界で初めて全構造データの網羅的な比較・分類に成功しました。さらに、分類の結果得られた相互作用モチーフの組み合わせを考慮することで、原子レベルの構造パターンと高次の生物学的機能を結ぶ可能性が見えてきました。

(蛋白質研究所)



久保和樹さん「電子情報通信学会MR研究会委員長賞」受賞

基礎工学研究科システム創成専攻電子光科学領域白石研究室博士前期課程2年の久保和樹さんが、1月19日(木)にパナソニック松心会館において開催された電子情報通信学会MR研究会において、磁気記憶・情報ストレージ専門委員長賞を受賞しました。発表題目は、「スピンプンピングを用いたp型Siへの室温スピン注入とスピン輸送」です。この成果は、電流を使わずにスピン情報だけをシリコン中に伝播させることに成功した画期的成果であり、半導体スピントロニクス of 新たな発展に大いに資する成果です。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



亀野誠さん「応用物理学会講演奨励賞」受賞

基礎工学研究科システム創成専攻電子光科学領域白石研究室博士前期課程2年の亀野誠さんが、山形大学で開催された2011年秋季応用物理学会学術講演会において、講演奨励賞を受賞しました。授賞式は、2012年春季応用物理学関係連合講演会にて行われました。受賞対象となった講演題目は、「直流非局所測定法によるハイドロップSi中のスピン輸送特性の評価」であり、シリコン中のスピン輸送距離の変調効果を世界で初めて定量的に評価することに成功したもので、半導体スピントロニクス of 今後の発展に重要なマイルストーンとなっています。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



川村昌史さん「電子情報通信学会・2011年度学術奨励賞」受賞

基礎工学研究科システム創成専攻電子光科学領域博士前期課程2年の川村昌史さんが、3月21日(水)に、電子情報通信学会学術奨励賞を受賞しました。対象となった論文は「アンテナ集積型RTD発振器を用いた300GHz帯無線リンク」で、本賞は平成23年に、同学会総合大会およびソサイエティ大会で公表された全4,656件の論文の中から、33歳以下の極めて優秀な著者69名に授与されたものです。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



谷畑勇夫寄附研究部門教授「フンボルト賞」受賞

核物理研究センター宇宙核物理学研究部門の谷畑勇夫寄附研究部門教授が、フンボルト賞を受賞しました。

フンボルト賞は、毎年、人文、社会、自然科学の全分野において、基本的な発見もしくは新しい理論によって後世に残る重要な業績を挙げ、今後も学問の最先端で活躍すると期待される国際的に著名な研究者に対して授与されるものです。

高エネルギーの放射性核ビームを作る方法の開発、及びそれを用いた研究を進め、単寿命核の中に予想もされていなかった中性子ハロー現象を発見したことが認められ、今回の受賞となりました。この研究は次世代の加速器研究施設の発展をも方向付けすることになり、世界中でそのような施設が建設されており、今後の発展が期待されています。

(核物理研究センター)



原田明教授「日本化学会賞」受賞

理学研究科高分子科学専攻の原田明教授が、第64回（平成23年度）日本化学会賞を受賞し、授賞式が3月26日（月）日本化学会春季年会において行われました。受賞研究は「分子認識による機能性超分子ポリマーの創成」です。原田教授はシクロデキストリンやモノクローナル抗体が様々な高分子を選択的に取り込み、多様な超分子構造体を形成することを見だし、これまで実現が困難であった様々な動的機能を「高分子による超分子構造体の構築」により実現しました。高分子認識並びに超分子ポリマーの分野を開拓し、新たな機能を有する材料を実現させた独創的研究が高く評価されました。

（理学研究科・理学部）



原田明教授（右）日本化学会提供

森田靖准教授「大阪スマートエネルギー・ビジネスシーズコンペ最優秀賞」受賞

理学研究科森田靖准教授が、「大阪スマートエネルギー・ビジネスシーズコンペ最優秀賞」を受賞しました。

現在、ソーラーや蓄電池など新エネルギーだけでなく、LEDや熱利用などの省エネ技術や情報通信技術も活用する環境配慮型エネルギー技術（スマートエネルギー技術）の開発が強く望まれています。大阪府が主催した本コンペは、これらの技術シーズを発掘しビジネスを創出するための事業です。

森田准教授は、空気中でも安定に取り扱うことができる“電子スピンの分子骨格全体に広く非局在化した”有機中性ラジカルの基礎化学に長年取り組んできました。この研究成果を蓄電材料に展開した最近の研究（*Nature Materials* 2011, 10, 947）を基盤にした「レアメタルフリーの高性能分子スピン電池の開発」をコンペに提案したところ、それが高く評価されました。（理学研究科・理学部）



総合学術博物館『真島利行ウルシオール研究関連資料』が「認定化学遺産第011号」に登録

平成20年3月に発足した「日本化学会化学遺産委員会」では、平成21年度から事業の一環として、世界に誇る日本の化学関連の文化遺産を認定し、それらの情報を社会に向けて発信する『化学遺産認定事業』を開始しました。第3回目となる平成23年度には、総合学術博物館が所有する、真島研究室で単離・合成されたウルシオールやハイドロウルシオールなどの標本、ウルシオールの構造研究に用いられたオゾン発生器など、ウルシオール研究関連の資料が日本化学会「化学遺産」として認定・登録されました。

登録証の授与式は3月26日（火）に行われ、江口太郎理事・副学長（前館長）、豊田二郎准教授が出席しました。なお、認定証の盾は、理学研究科G棟1階の玄関ホールに展示しています。（総合学術博物館）



工学研究科生命先端工学専攻生物工学コース「OpenCourseWare Excellence (ACE)」受賞

工学研究科生命先端工学専攻生物工学コースが、4月17日（火）に英国ケンブリッジ大学で開催されていた国際オープンコースウェア協議会の年次総会において、教材（静止画像とテキスト）部門で優秀賞（Outstanding Course/Text and illustrations ACE）に選ばれました。今回の受賞の対象となったのは、同コースが作製し、大阪大学オープンコースウェアの1つとして公開している大学院生用教材、バイオテクノロジーの基礎「Biotechnology Fundamentals」です。国際オープンコースウェア協議会には世界の250の高等教育機関が参画しており、1万7千もの教材の中から米国、スペインの大学の教材と並んで5つの優良教材の1つに選ばれました。



国際オープンウェア協議会年次総会が開催されたケンブリッジ大学

（工学研究科・工学部）

栗津邦男教授、本多典広さん、吉岡雅也さんが「平成23年度環境システム計測制御学会論文賞」受賞

工学研究科環境・エネルギー工学専攻の栗津邦男教授、本多典広さん、吉岡雅也さんが、5月9日(水)に品川で開催された環境システム制御学会総会において、「近赤外分光分析による微生物生成代謝物の推定に関する基礎的検討」の業績により「平成23年度環境システム計測制御学会論文賞」を共同受賞しました。

本研究は、廃水処理プロセスの実時間モニタリングの手法として非接触・連続計測法として着目されている近赤外分光法の適応可能性に付き検討したもので、新規的な手法が評価されました。

(工学研究科・工学部)



西尾章治郎教授「第2回立石賞功績賞」受賞

情報科学研究科の西尾章治郎教授が、技術革新と人間重視の両面から快適な社会環境の実現に寄与した人に立石科学技術振興団が贈る第2回立石賞功績賞を受賞しました。表彰式は、5月24日(木)にグランドプリンスホテル京都市で行われました。

今回の受賞では、「データベース技術及びアンビエント情報環境の構築」に関する研究への多大なる貢献が高く評価されました。

なお、表彰式後の記念講演では、高度な内容を平易に紹介され、大変好評でした。

(情報科学研究科)



立石信雄理事長より立石賞功績賞を授与される西尾教授(右)

第2回大阪大学総長による表彰

5月23日(水)、総長室において標記表彰式が被表彰者42名のうち24名の出席のもとに行われました。

この表彰は、賞の受賞や資格の取得などにより本学の発展に寄与した教職員を表彰し、総長から直接ねぎらいの言葉をかけ、懇談する機会を設けることを目的としています。

今回表彰された方は、次のとおりです。

審 良 静 男 (免フロ)	笹 尾 愛 (理)	杉 本 久 司 (工)	濱 田 博 司 (生命)
荒 瀬 尚 (免フロ)	鈴 木 耕 拓 (理)	伊達道 淳 (工)	石 井 浩二郎 (生命)
馬 場 義 裕 (免フロ)	山 下 俊 英 (医)	大 城 理 (基)	宮 島 章 (微研)
伊 藤 雄 一 (CU)	田 中 達 哉 (医)	川 野 聡 恭 (基)	松 本 和 彦 (産研)
市 大 樹 (文)	金 子 真 (工)	永 妻 忠 夫 (基)	井 上 恒 一 (産研)
桑木野 幸 司 (文)	鎌 田 敏 郎 (工)	井 村 誠 孝 (基)	前 橋 兼 三 (産研)
輪 島 裕 介 (文)	東 森 充 (工)	黒 田 嘉 宏 (基)	向 川 康 博 (産研)
日 暮 泰 男 (人科)	藤 原 順 介 (工)	上 出 寛 子 (基)	大 野 恭 秀 (産研)
佐 藤 泰 裕 (経済)	吉 村 政 志 (工)	山 内 直 人 (国際公共)	奥 山 尚 子 (社研)
青 島 貞 人 (理)	多田隈 建二郎 (工)	藤 崎 泰 正 (情報)	
森 田 靖 (理)	松 本 良 (工)	橋 本 昌 宜 (情報)	



平野総長を囲む被表彰者(左から准教授、准教授、助教、事務職員・技術職員)

(総務企画部人事課)

体育会六賞及び課外活動総長賞

平成 23 年度体育会六賞及び第 13 回課外活動総長賞の表彰式が、5 月 1 日(火)のいちょう祭において、豊中キャンパスのメインステージで行われました。爽やかな晴天の下、受賞団体部員の他一般学生も多数集まって賑やかな雰囲気の中、表彰式は行われました。

「体育会六賞」は、大阪大学体育会所属運動部及び各運動部員の部活動に対する励みの目標とし、あわせて学生の健全な課外活動を助成する主旨のもとに設置されたもので、以下の基準に基づき、体育会において選考されました。

「赤堀賞」…年間最優秀クラブ 「釜洞賞」…年間で最も特色のある活動を行ったクラブ

「会長賞」…年間最優秀選手 「熊谷賞」…年間最優秀女子クラブもしくは選手

「山村賞」…全国七大学総合体育大会（以下「七大戦」）において顕著に活躍したクラブ、とりわけ前年度より著しく順位が上昇したクラブ

「宮原賞」…七大戦において優勝を収めた全てのクラブ

また、「課外活動総長賞」は、学生の課外活動の充実と更なる活発化を図ることを目的として、前年度において特に優れた活動を行った学生団体等を表彰するものです。

体育系、文化系の大学公認団体や学部公認団体から、非公認のサークル団体等まで、学内の全ての課外活動団体等を対象に公募をした結果、今回は 28 件の申請があり、これら申請のあった団体等の活動報告に基づき、学生生活委員会において選考されました。

今回、表彰を受けた団体及び個人は次のとおりです。

体育会六賞	受賞団体・個人	表彰の対象となった主な成績等
赤堀賞	漕艇部	全日本新人選手権大会 男子舵手つきフォア準優勝
会長賞	男子ラクロス部 池田貴裕	第 22 回関西学生ラクロスリーグ戦 1 部リーグ 得点王並びにアシスト王
熊谷賞	テコンドー部 木下まどか	全日本テコンドー選手権大会 準優勝
釜洞賞	該当なし	
山村賞	準硬式野球部	七大戦において 3 年前の最下位から着実に成績を上げ、ついに優勝した
宮原賞	アーチェリー部、空手道部女子、硬式庭球部女子、準硬式野球部、少林寺拳法部、スキー部、バドミントン部男子、陸上競技部男子	七大戦で優勝
課外活動総長賞	受賞団体・個人	表彰の対象となった主な成績等
最優秀賞	囲碁部	第 48 回全日本学生囲碁十傑戦 優勝（間雲 翼）、6 位入賞（堀井邦裕）
優秀賞	医学部女子バドミントン部	西日本医科学学生体育大会 女子団体戦 優勝（2 年連続）
	境 一樹（理学部・4）	FISM ASIA2011 カテゴリー別 2 位 FISM2012（世界大会）出場決定
特別賞	山本 洋史（基礎工学部・4）	FISM 北米大会カテゴリー別 2 位 FISM2012（世界大会）出場決定
	池田 貴裕（男子ラクロス部）	第 22 回関西学生ラクロスリーグ戦 1 部リーグ 得点王
	大阪大学災害ボランティアサークルすずらん ACTION-students' project for 3.11-	東日本大震災を契機に、継続的に岩手県北部の野田村を中心に支援活動を実施 東日本大震災を契機に、継続的に気仙沼大島等で支援活動を実施

なお、課外活動総長賞受賞者には、大阪大学未来基金のご協力のもと、副賞が贈呈されました。

表彰式後は、学生交流棟カフェ＆レストラン「宙」にて、平野俊夫総長、東島清理事・副学長、宮崎純一学生生活委員会委員長等の先生方と懇談会を行い、日常の活動や受賞に至った取組等の話に花を咲かせました。

（学生部学生・キャリア支援課）

Yusuf Nur Wijayantoさん「IEEE Photonics Society Japan Young Scientist Award」受賞 高武直弘さん「APMP Best Student Poster Award」受賞

4 月 25 ～ 27 日に京都市で開催された国際会議 APMP 2012 (The 7th Asia-Pacific Microwave Photonics Conference) において、基礎工学研究科システム創成専攻電子光学領域岡村研究室博士後期課程 2 年 Yusuf Nur Wijayanto さんが IEEE Photonics Society Japan Young Scientist Award を、同研究室博士前期課程 1 年高武直弘さんが APMP Best Student Poster Award を受賞しました。

Wijayanto さんの受賞対象論文は、平面型アンテナのみで無線－光信号変換を行う新デバイスの提案に関する報告です。これは、アンテナに設けた微小ギャップにおける変位電流を利用した電気光学変調により、あたかもアンテナだけで無線信号の光変換を行うもので、着想の新規性・今後の発展性が高く評価されました。

高武さんの受賞対象論文は、高効率無線－光信号変換デバイスに関する報告です。このデバイスは、ガラス基板上に作製したミリ波アンテナ対とニオブ酸リチウム基板上に作製した共振電極光変調器とを接続・結合したもので、従来型に比べて 10 倍以上高感度な信号変換を実証し、進歩性と今後の発展性が高く評価されました。

（基礎工学研究科・基礎工学部）



理事補佐紹介

川 端 亮 (かわばた あきら)

大学院人間科学研究科



【略歴】

- 昭59. 3 京都大学文学部哲学科社会学専攻卒業
- 61. 3 大阪大学大学院人間科学研究科社会学専攻博士前期課程修了
- 平元. 3 大阪大学大学院人間科学研究科社会学専攻博士後期課程単位修得退学
- 元. 4 大阪大学助手人間科学部
- 3. 4 光華女子大学文学部専任講師
- 8. 4 光華女子大学文学部助教授
- 10. 4 大阪大学助教授人間科学部
- 12. 4 大阪大学助教授大学院人間科学研究科
- 15. 9 博士（人間科学）（大阪大学）
- 16. 4 大阪大学教授大学院人間科学研究科
- 19. 4 大阪大学評価・広報室員（平20.3まで）
- 20. 4 大阪大学評価室員（平24.3まで）
- 24. 4 大阪大学評議員（平26.3まで）
- 大阪大学理事補佐（平25.3まで）

三 成 賢 次 (みつなり けんじ)

大学院法学研究科



【略歴】

- 昭55. 3 大阪大学法学部卒業
- 57. 3 大阪大学大学院法学研究科公法学専攻博士前期課程修了
- 60. 3 大阪大学大学院法学研究科公法学専攻博士後期課程単位取得退学
- 60. 4 大阪大学助手法学部
- 62. 4 大阪大学助教授法学部
- 平 9. 7 大阪大学教授法学部
- 11. 1 博士（法学）（大阪大学）
- 11. 4 大阪大学教授大学院法学研究科
- 14. 4 大阪大学評議員（平16.3まで）
- 16. 4 大阪大学大学院法学研究科長（平20.3まで）
- 19. 8 大阪大学総長補佐（平21.8まで）
- 20. 4 大阪大学総合計画室員（平24.3まで）
- 20. 5 大阪大学教授大学院法学研究科附属法政実務連携センター
- 23. 4 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター長（平25.3まで）
- 24. 4 大阪大学理事補佐（平25.3まで）

堂 目 卓 生 (どうめ たくお)

大学院経済学研究科



【略歴】

- 昭58. 3 慶應義塾大学経済学部経済学科卒業
- 60. 3 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 63. 3 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学
- 63. 4 日本学術振興会特別研究員
- 平元. 4 立命館大学経済学部助教授
- 3. 3 経済学博士（京都大学）
- 8. 4 大阪大学助教授経済学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院経済学研究科
- 13.12 大阪大学教授大学院経済学研究科
- 16. 4 大阪大学総合計画室員（平18.3まで）
- 23. 4 大阪大学研究・産学連携室員（平24.3まで）
- 24. 4 大阪大学理事補佐（平25.3まで）

理事補佐紹介

小 川 哲 生 (おがわ てつお)

大学院理学研究科



【略歴】

- 昭60. 3 東京大学工学部物理工学科卒業
- 62. 3 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻修士課程修了
- 63. 9 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻第1種博士課程退学
- 63.10 東京大学助手工学部
- 平 2. 4 日本電信電話株式会社基礎研究所材料物性研究部研究主任
- 2.12 工学博士 (東京大学)
- 5.10 大阪市立大学助教授工学部
- 8. 8 東北大学助教授大学院理学研究科
- 12. 5 大阪大学教授大学院理学研究科
- 21. 1 大阪大学光科学センター副センター長 (平30.3まで)
- 22. 4 大阪大学大学院理学研究科副研究科長 (平25.8まで)
- 大阪大学広報・社会学連携室員(平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

下 田 正 (しもだ ただし)

大学院理学研究科



【略歴】

- 昭50. 3 京都大学理学部物理学科卒業
- 52. 3 京都大学大学院理学研究科物理学第二専攻修士課程修了
- 55. 3 京都大学大学院理学研究科物理学第二専攻博士後期課程単位修得退学
- 55. 4 大阪大学理学部附属原子核実験施設教務員
- 55. 7 理学博士 (京都大学)
- 59. 7 大阪大学助手教養部
- 平 2. 3 大阪大学助教授教養部
- 6. 4 大阪大学助教授理学部
- 8. 4 大阪大学助教授大学院理学研究科
- 12.10 大阪大学教授大学院理学研究科
- 20. 4 大阪大学大学院理学研究科副研究科長 (平25.8まで)
- 24. 4 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

金 倉 譲 (かなくら ゆずる)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭54. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 58. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 58. 3 医学博士 (大阪大学)
- 58. 6 大阪府技術吏員
- 60. 1 大阪大学医学部附属病院医員
- 60. 7 大阪大学助手医学部附属癌研究施設
- 63. 6 米国ハーバード大学医学部ダナ・ファーバー癌研究所研究員
- 平 2. 6 大阪大学助手医学部第2内科
- 9. 1 大阪大学教授医学部血液・腫瘍内科
- 9. 5 大阪大学医学部附属病院輸血部長 (平16.6まで)
- 12. 4 大阪大学医学部附属病院臨床検査部長 (平18.9まで)
- 15. 4 大阪大学医学部附属病院未来医療センター長 (平18.3まで)
- 22. 4 大阪大学医学部附属病院副病院長 (平26.3まで)
- 大阪大学人事労務室員 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

理事補佐紹介

原 田 彰 宏 (はらだ あきひろ)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 平元. 3 東京大学医学部医学科卒業
- 元. 6 東京大学医学部附属病院医員（研修医）
- 2. 4 東京大学医学部（解剖学教室）において研究に従事
- 4.10 東京大学助手相当（寄附講座教員）薬学部
- 7. 4 東京大学助手医学部附属脳研究所
- 8. 5 博士（医学）（東京大学）
- 8. 7 東京大学講師医学部
- 9. 4 東京大学講師大学院医学系研究科
- 13. 7 群馬大学教授生体調節研究所
- 21. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 24. 4 大阪大学理事補佐（平25.3まで）

池 道 彦 (いけ みちひこ)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭60. 3 大阪大学工学部環境工学科卒業
- 62. 3 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了
- 62. 4 久保田鉄工株式会社水処理技術部研究員（平元.3まで）
- 平元. 4 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程入学
- 2. 3 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程退学
- 2. 4 大阪大学助手工学部
- 5. 5 博士（工学）（大阪大学）
- 9. 4 大阪大学講師工学部
- 10. 4 大阪大学講師大学院工学研究科
- 11. 8 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 18. 1 大阪大学教授大学院工学研究科
- 22. 4 大阪大学研究・産学連携室員（平24.3まで）
- 24. 4 大阪大学理事補佐（平25.3まで）

尾 崎 雅 則 (おざき まさのり)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学工学部電気工学科卒業
- 60. 3 大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻博士前期課程修了
- 63. 3 大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程修了
- 工学博士（大阪大学）
- 63. 4 大阪大学助手工学部
- 平 6. 7 大阪大学助教授工学部
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 17. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 22. 4 大阪大学財務室員（平24.3まで）
- 24. 4 大阪大学理事補佐（平25.3まで）

理事補佐紹介

南 埜 宜 俊 (みなみの よりとし)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭51. 3 大阪大学工学部冶金学科卒業
- 53. 3 大阪大学大学院工学研究科冶金学専攻博士前期課程修了
- 53. 4 大阪大学助手工学部
- 61. 2 工学博士 (大阪大学)
- 平 3. 8 大阪大学講師工学部
- 7.12 大阪大学助教授工学部
- 9. 3 大阪大学教授工学部
- 10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 20. 9 大阪大学人事労務室員 (平24.9まで)
- 24. 4 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

北 岡 良 雄 (きたおか よしお)

大学院基礎工学研究科



【略歴】

- 昭49. 3 大阪市立大学理学部物理学科卒業
- 51. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了
- 東京大学物性研究所教務職員
- 56. 1 理学博士 (東京大学)
- 57. 7 神戸大学助手理学部
- 60. 8 大阪大学助手基礎工学部
- 平 2. 4 大阪大学助教授基礎工学部
- 9. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 10. 4 大阪大学基礎工学部物性物理工学科長 (平11.3まで)
- 15. 5 大阪大学極限科学研究センター長 (平18.3まで)
- 18. 4 大阪大学極限量子科学研究センター長 (平20.3まで)
- 21.10 大阪大学研究・産学連携室員 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

尾 上 孝 雄 (おのえ たかお)

大学院情報科学研究科



【略歴】

- 平 3. 3 大阪大学工学部電子工学科卒業
- 5. 3 大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻博士前期課程修了
- 5. 4 大阪大学助手工学部
- 9.10 博士 (工学) (大阪大学)
- 10. 4 大阪大学講師大型計算機センター
- 11.10 京都大学助教授大学院情報学研究科
- 14. 4 大阪大学助教授大学院情報科学研究科
- 15.10 大阪大学教授大学院情報科学研究科
- 23. 8 大阪大学大学院情報科学研究科副研究科長 (平25.8まで)
- 24. 4 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

理事補佐紹介

棟 居 快 行 (むねすえ としゆき)

大学院高等司法研究科



【略歴】

- 昭53. 3 東京大学法学部第1類 (私法コース) 卒業
- 53. 4 東京大学助手法学部
- 56. 7 神戸大学助教授法学部
- 平 3. 4 神戸大学教授法学部
- 11. 4 成城大学法学部教授
- 16. 4 北海道大学教授大学院法学研究科
- 18.10 大阪大学教授大学院高等司法研究科
- 22. 4 大阪大学人事労務室員 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

中 谷 和 彦 (なかたに かずひこ)

産業科学研究所



【略歴】

- 昭57. 3 大阪市立大学理学部化学科卒業
- 60. 3 米国コロンビア大学化学科研究員 (昭63.3まで)
- 62. 3 大阪市立大学大学院理学研究科博士課程研究指導認定退学
- 63. 4 財団法人相模中央化学研究所博士研究員 (平3.3まで)
- 63. 6 理学博士 (大阪市立大学)
- 平 3. 4 大阪市立大学助手理学部 (平5.3まで)
- 5. 4 京都大学助手大学院工学研究科
- 5.12 新技術事業団さきがけ研究員 (平9.3まで)
- 9. 4 京都大学助教授大学院工学研究科
- 13.12 科学技術振興機構さきがけ研究員 (平17.3まで)
- 17. 4 大阪大学教授産業科学研究所
- 20. 4 大阪大学財務室員 (平24.3まで)
- 22. 4 大阪大学産業科学研究所副所長 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

中 村 春 木 (なかむら はるき)

蛋白質研究所



【略歴】

- 昭50. 3 東京大学理学部物理学科卒業
- 52. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修士課程修了
- 55. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了
- 55. 4 東京大学助手工学部
- 62. 8 株式会社蛋白工学研究所第2研究部主任部員
- 63. 6 株式会社蛋白工学研究所第2研究部長
- 平 7.10 株式会社生物分子工学研究所情報解析研究部門長
- 11. 4 大阪大学教授たんぱく質研究所附属生体分子解析研究センター
- 14. 4 大阪大学教授たんぱく質研究所附属プロテオミクス総合研究センター
- 16. 4 大阪大学教授蛋白質研究所附属プロテオミクス総合研究センター
- 18. 4 大阪大学蛋白質研究所附属プロテオミクス総合研究センター長 (H24.3まで)
- 22. 4 大阪大学総合計画室員 (H24.3まで)
- 24. 4 大阪大学教授蛋白質研究所附属蛋白質解析先端研究センター
- 大阪大学理事補佐 (平25.3まで)

理事補佐紹介

大 竹 文 雄 （おおたけ ふみお）

社会経済研究所



【略歴】

- 昭58. 3 京都大学経済学部経済学科卒業
- 60. 3 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
- 60. 6 大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程退学
- 60. 7 大阪大学助手経済学部
- 63. 4 大阪府立大学経済学部講師
- 平 2. 4 大阪大学助教授社会経済研究所
- 13. 5 大阪大学教授社会経済研究所
- 16. 4 大阪大学教授社会経済研究所附属行動経済学研究センター
大阪大学人事労務室員（平20.3まで）
- 17. 4 大阪大学社会経済研究所副所長（平19.3まで）
- 19. 4 大阪大学社会経済研究所長（平21.3まで）
- 21. 4 大阪大学社会経済研究所附属行動経済学研究センター
長（平26.3まで）
- 22. 4 大阪大学総長補佐（平23.8まで）
- 24. 4 大阪大学理事補佐（平25.3まで）

正 城 敏 博 （まさき としひろ）

産学連携本部



【略歴】

- 平 5. 3 大阪大学工学部情報システム工学科卒業
- 7. 3 大阪大学大学院工学研究科情報システム工学専攻博士
前期課程修了
- 9. 3 大阪大学大学院工学研究科情報システム工学専攻博士
後期課程修了
- 博士（工学）（大阪大学）
- 9. 4 大阪大学助手工学部
- 10. 4 大阪大学助手大学院工学研究科
- 12. 5 大阪大学講師大学院工学研究科
- 14. 5 大阪大学助教授先端科学技術共同研究センター
- 16. 4 大阪大学助教授先端科学イノベーションセンター
- 19. 4 大阪大学准教授先端科学イノベーションセンター
- 20. 1 大阪大学教授先端科学イノベーションセンター
- 20. 4 大阪大学研究・産学連携室員（平24.3まで）
- 23. 4 大阪大学教授産学連携本部
- 24. 4 大阪大学理事補佐（平25.3まで）

新部局長紹介

平 沢 安 政 （ひらさわ やすまさ）

大学院人間科学研究科長・人間科学部長



【略歴】

- 昭53. 3 大阪大学人間科学部人間科学科卒業
- 57. 6 ハーバード大学教育大学院修士課程修了
教育学修士（ハーバード大学）
- 59. 9 国際会議同時通訳者（平4.3まで）
- 平 1. 6 ハーバード大学教育大学院博士課程修了
教育学博士（ハーバード大学）
- 4. 4 大阪大学助教授人間科学部
- 8. 4 大阪大学教授人間科学部
- 12. 4 大阪大学教授大学院人間科学研究科
- 21. 4 大阪大学教育・情報室員（平24.3まで）
- 24. 5 大阪大学大学院人間科学研究科長・人間科学部長
（平26.4まで）

新施設長紹介

中 澤 康 浩 (なかざわ やすひろ)

大学院理学研究科附属構造熱科学研究センター長



【略歴】

- 昭61. 3 東京大学理学部物理学科卒業
- 63. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修士課程修了
- 平 2. 4 日本学術振興会特別研究員
- 3. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了
理学博士 (東京大学)
- 4. 4 岡崎国立共同研究機構助手分子科学研究所
- 12. 3 大阪大学助手大学院理学研究科附属分子熱力学研究
センター
- 14. 5 東京工業大学助教授大学院理工学研究科
- 17. 4 大阪大学教授大学院理学研究科
- 24. 4 大阪大学大学院理学研究科附属構造熱科学研究セン
ター長 (平26.3まで)

吉 田 陽 一 (よしだ よういち)

産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンター長・
産業科学研究所附属産業科学連携教育推進センター長



【略歴】

- 昭57. 3 東京大学工学部原子力工学科卒業
- 59. 3 東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻修士課程修了
- 62. 3 東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻博士課程修了
工学博士 (東京大学)
- 62. 4 アメリカミネソタ州立大学化学科助手
- 63. 5 東京大学助手工学部
- 平 5. 9 大阪大学助手産業科学研究所
- 7. 6 大阪大学助教授産業科学研究所
- 14.12 大阪大学教授産業科学研究所
- 21. 4 大阪大学産業科学研究所附属量子ビーム科学研究施設
長 (平23.3まで)
- 24. 4 大阪大学産業科学研究所副所長 (平26.3まで)
大阪大学産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジー
センター長 (平26.3まで)
大阪大学産業科学研究所附属産業科学連携教育推進セ
ンター長 (平26.3まで)

松 本 和 彦 (まつもと かずひこ)

産業科学研究所附属国際共同研究センター長



【略歴】

- 昭51. 3 名古屋工業大学工学部電子工学科卒業
- 53. 3 東京工業大学大学院理工学研究科電子物理学専攻
修士課程修了
- 56. 3 東京工業大学大学院理工学研究科電子物理学専攻
博士課程修了
工学博士 (東京工業大学)
- 56. 4 通商産業省 電子技術総合研究所
- 63.11 スタンフォード大学電気工学科 客員研究員 (平2.3まで)
- 平 5. 7 電子技術総合研究所 電子デバイス部 微構造エレクト
ロニクス研究室長
- 13. 4 産業技術総合研究所 (組織再編) ナノテクノロジー
研究部門総括研究員
- 15. 3 大阪大学教授産業科学研究所
- 24. 4 大阪大学産業科学研究所副所長 (平26.3まで)
大阪大学産業科学研究所附属国際共同研究センター長
(平26.3まで)

新施設長紹介

高 木 淳 一 (たかぎ じゅんいち)

蛋白質研究所附属蛋白質解析先端研究センター長



【略歴】

- 昭60. 3 東京工業大学理学部化学科卒業
- 62. 3 東京工業大学大学院理工学研究科化学専攻修士課程修了
- 平 2. 3 東京工業大学大学院理工学研究科化学専攻博士課程修了
理学博士 (東京工業大学)
- 2. 4 東京工業大学助手理学部
- 2. 6 東京工業大学助手生命理工学部 (平12.3まで)
- 10. 7 ハーバード大学医学部血液研究センター派遣研究員
- 12. 4 ハーバード大学医学部血液研究センター主任研究員
- 12. 7 ハーバード大学医学部病理学科講師
- 14. 7 ハーバード大学医学部小児科助教授
- 15. 4 大阪大学教授たんぱく質研究所附属プロテオミクス
総合研究センター
- 16. 4 大阪大学教授蛋白質研究所附属プロテオミクス総合
研究センター
- 23. 4 大阪大学研究・産学連携室員 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学教授蛋白質研究所附属蛋白質解析先端研究センター
大阪大学蛋白質研究所附属蛋白質解析先端研究センター
長 (平26.3まで)

新教授紹介

山 本 達 司 (やまもと たつし)

大学院経済学研究科



【略歴】

- 昭59. 3 大阪大学経済学部経営学科卒業
- 61. 3 大阪大学大学院経済学研究科経営学専攻博士課程前期
課程修了
- 61. 4 甲子園大学助手
- 平元. 4 追手門学院大学講師経済学部
- 6. 4 追手門学院大学助教授経済学部
- 7. 4 追手門学院大学助教授経営学部
- 12. 4 名古屋大学助教授大学院経済学研究科
- 14. 6 博士 (経済学) (大阪大学)
- 15. 8 名古屋大学教授大学院経済学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院経済学研究科

所 属：大学院経済学研究科経営学系専攻経営
情報講座
専門分野：会計学

上 田 昌 宏 (うえだ まさひろ)

大学院理学研究科



【略歴】

- 平元. 3 大阪大学理学部生物学科卒業
- 3. 3 大阪大学大学院理学研究科生理学専攻博士前期課程修了
- 5. 4 日本学術振興会特別研究員
- 7. 3 大阪大学大学院理学研究科生理学専攻博士後期課程修了
博士 (理学) (大阪大学)
- 7. 4 大阪大学理学部生物学科細胞機構学研究室研究生
- 8. 6 日本学術振興会海外特別研究員
- 10.10 大阪大学医学部情報生理学教室生理学第一研究生
- 11. 5 大阪大学大学院医学系研究科附属バイオメディカル教
育研究センター講師 (研究機関研究員)
- 12.10 科学技術振興事業団さきがけ研究者
- 15.10 大阪大学大学院生命機能研究科産学官連携研究員
- 16. 4 大阪大学大学院生命機能研究科特任研究員
- 18. 8 大阪大学特任教授大学院生命機能研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科生物科学専攻関連生
物学講座
専門分野：1 分子生物学・生物物理学

新教授紹介

小林 研介 (こばやし けんすけ)

大学院理学研究科



【略歴】

- 平 6. 3 東京大学理学部物理学科卒業
- 8. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修士課程修了
- 10. 4 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程退学
東京大学助手大学院理学系研究科
- 11. 8 東京大学助手物性研究所
- 11. 9 博士 (理学) (東京大学)
- 17. 4 京都大学助教授化学研究所
- 17. 7 京都大学助教授大学院理学研究科
- 19. 4 京都大学准教授大学院理学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科物理学専攻物性物理学講座

専門分野：半導体、量子物性、低温物理

寺 田 健太郎 (てらだ けんたろう)

大学院理学研究科



【略歴】

- 平元. 3 大阪大学理学部物理学科卒業
- 3. 3 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻前期課程修了
- 6. 6 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程物理学専攻修了
- 6. 6 博士 (理学) (大阪大学)
- 6. 7 広島大学助手理学部
- 12. 4 広島大学助手大学院理学研究科
- 18. 3 広島大学助教授大学院理学研究科
- 19. 4 広島大学准教授大学院理学研究科
- 22.11 広島大学教授大学院理学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科宇宙地球科学専攻宇宙惑星進化化学講座

専門分野：同位体宇宙地球科学、太陽系年代学

松 野 健 治 (まつの けんじ)

大学院理学研究科



【略歴】

- 昭60. 3 早稲田大学教育学部理学科生物学専修卒業
- 62. 3 早稲田大学大学院理工学研究科物理学及び応用物理学専攻修士課程修了
- 平 2. 3 早稲田大学大学院理工学研究科物理学及び応用物理学専攻博士後期課程修了
理学博士 (早稲田大学)
- 2. 4 日本学術振興会特別研究員
- 3. 8 エール大学細胞生物学部門リサーチ・フェロー
- 5. 9 エール大学細胞生物学部門リサーチ・アソシエート
- 9. 3 科学技術振興事業団研究員
- 11. 4 東京理科大学基礎工学部生物工学科助教授
- 18. 4 東京理科大学基礎工学部生物工学科教授
- 24. 4 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科生物科学専攻適応生物学講座

専門分野：細胞生物学、発生生物学

新教授紹介

森 井 英 一 (もりい えいいち)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭63. 3 京都大学薬学部薬学科卒業
- 平 4. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 5. 4 日本学術振興会特別研究員
- 8. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
博士（医学）（大阪大学）
- 8. 4 大阪大学助手医学部
- 18. 4 大阪大学助教授医学部附属病院
- 20. 4 大阪大学准教授大学院医学系研究科
- 24. 5 大阪大学教授大学院医学系研究科

所 属：大学院医学系研究科病理学講座（病態病理学）

専門分野：人体病理学、分子病理学、病理診断

野 田 健 司 (のだ たけし)

大学院歯学研究科



【略歴】

- 平 3. 3 東京大学教養学部基礎科学科第一卒業
- 5. 3 東京大学大学院理学系研究科相関理化学専攻修士課程修了
- 8. 3 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了
博士（理学）（東京大学）
- 8. 4 国立共同研究機構基礎生物学研究所助手
- 9. 4 総合研究大学院大学助手（兼）
- 15. 5 カリフォルニア大学サンディエゴ校（平17.11まで）
- 18. 2 大阪大学助教授微生物病研究所
- 22. 4 大阪大学准教授大学院生命機能研究科・大学院医学系研究科
- 24. 5 大阪大学教授大学院歯学研究科

所 属：大学院歯学研究科附属口腔科学フロンティアセンター

専門分野：細胞生物学、微生物学

馬 越 大 (うまこし ひろし)

大学院基礎工学研究科



【略歴】

- 平 4. 3 大阪大学基礎工学部化学工学科卒業
- 6. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科化学系専攻博士前期課程修了
- 9. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科化学系専攻博士後期課程修了
博士（工学）（大阪大学）
- 9.10 日本学術振興会特別研究員
- 10.10 大阪大学助手大学院基礎工学研究科
- 12.11 大阪大学講師大学院基礎工学研究科
- 15. 4 大阪大学助教授大学院基礎工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院基礎工学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科

所 属：大学院基礎工学研究科物質創成専攻化学工学領域生物プロセス工学講座

専門分野：Bio-Inspired化学工学、生物分離工学、生物機能材料

新教授紹介

下 平 英 寿 (しもだいら ひでとし)

大学院基礎工学研究科



所 属：大学院基礎工学研究科システム創成専攻数理科学領域統計数理講座
専門分野：統計科学、バイオインフォマティクス

【略歴】

- 昭63. 3 東京大学教養学部理科Ⅰ類修了
- 平 2. 3 東京大学工学部計数工学科卒業
- 4. 3 東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了
- 7. 3 東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻博士課程修了
- 7. 4 日本学術振興会特別研究員
- 8. 7 統計数理研究所助手予測制御研究系
- 13.11 総合研究大学院大学助手数物化学研究科 (平14.5まで)
- 14. 6 東京工業大学講師大学院情報理工学研究科
- 17. 5 東京工業大学助教授大学院情報理工学研究科
- 19. 4 東京工業大学准教授大学院情報理工学研究科
- 23. 4 東京工業大学教育推進室教育企画員 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科

古 川 貴 久 (ふるかわ たかひさ)

蛋白質研究所



所 属：蛋白質研究所蛋白質高次機能学研究部門
専門分野：医化学一般、神経解剖学・神経病理学

【略歴】

- 昭63. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 平 3. 4 日本学術振興会特別研究員 (DC)
- 4. 3 京都大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程修了
- 4. 4 日本学術振興会特別研究員 (PD)
- 5. 4 京都大学大学院医学研究科研修員
- 5.10 京都大学助手大学院医学研究科 (平10.1まで)
- 7. 1 米国ハーバード大学医学部遺伝学部門ポストドクトラルフェロー
- 11. 9 米国テキサス州立大学サウスウェスタンメディカルセンター発生生物学部門アシスタントプロフェッサー
- 13. 9 財団法人大阪バイオサイエンス研究所発生生物学部門研究部長
- 24. 4 大阪大学教授蛋白質研究所

山 口 和 也 (やまぐち かずや)

全学教育推進機構



所 属：全学教育推進機構企画開発部教育学習支援部門
専門分野：生物無機化学

【略歴】

- 昭62. 3 静岡大学理学部化学科卒業
- 平元. 3 京都大学大学院工学研究科分子工学専攻修士課程修了
- 4. 4 日本学術振興会特別研究員
- 4. 5 京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士後期課程修了
- 博士 (工学) (京都大学)
- 5. 2 大阪大学助手教養部
- 6. 4 大阪大学助手理学部
- 8. 4 大阪大学助手大学院理学研究科
- 13. 4 大阪大学講師大学院理学研究科
- 16. 3 大阪大学助教授大学院理学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院理学研究科
- 24. 4 大阪大学教授全学教育推進機構

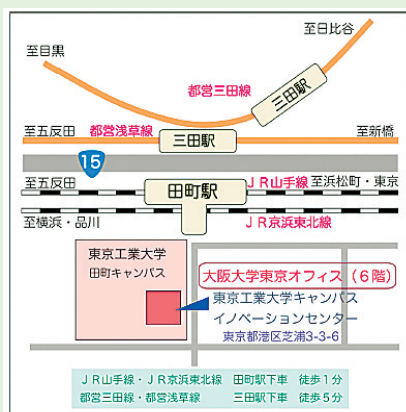
大阪大学東京オフィスがリニューアルされました

東京 JR 田町駅前の東京工業大学田町キャンパス内にあるキャンパスイノベーションセンター 6 階に大阪大学東京オフィス OS @ T があります。大阪大学の東京における情報発信拠点として本学関係者により一層ご活用いただきたく、このたび設備のリニューアルを行いました。詳しくは、大阪大学公式ホームページにて、学部・大学院・施設＞施設一覧＞「大阪大学東京オフィス」をクリック、または <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/facilities/OSAT> をご覧下さい。

〈利用ガイド〉

- ①アクセス至便：JR 山手・京浜東北線 田町駅芝浦口（東口）から徒歩 1 分。官庁街には、都営地下鉄三田線経由で 25 分。
- ②便利な入室受付：1 階にて受付。受付時間は 8：30 - 19：00、日曜・祝日も利用可。
- ③柔軟な利用スペース：教室スペース（TV 会議システムと大型ディスプレイ 2 台、44㎡、12～18 名収容可）と事務・応接スペース（湯茶セルフサービス、22㎡、8 名収容可）。両スペース併用で最大 40 名収容可。
- ④マイハンドイから簡単予約：教室スペースは予約制。事務・応接スペースは予約不要。使用料は無料。
- ⑤便利なオフィス設備：予約不要。PC（Windows, Mac、Office 付き）、レーザープリンター・スキャナー、FAX、高速有線・無線 LAN、PC 内蔵 TV 会議、Skype が使用可。使用料は無料。
- ⑥多様な広報スペース：4 箇所各種資料やパンフレット展示コーナーを設置。
- ⑦便利な共用スペース：無料の入居大学共用サロン（各階 40㎡、原則予約不要、コピー機あり）とリエゾンコーナー（135㎡、3 室、予約制）。有料の国際会議場・多目的室（1～2 階、予約制）。

講義、講演会、会議の開催に留まらず、プロジェクト研究・産学連携の打合せ、官庁折衝などの中継基地、社会責任を含む大学広報活動、休憩・待ち合わせなどの場としてご活用ください。利用に関するご質問やご要望は、東京オフィス利用促進 WG 主査のナノサイエンスデザイン教育研究センター伊藤正特任教授（内線：豊中 6995、E-mail: itoh@insd.osaka-u.ac.jp）宛にお寄せください。



東京工業大学キャンパス
イノベーションセンターの所在地



教室スペース ディスプレイの後ろと横に白板



40 人収容時の遠隔講義風景



JR 田町駅芝浦口右手すぐ



事務・応接スペース、奥に PC、プリンター



共用サロン(手前)とリエゾンコーナー(奥)

(大阪大学東京オフィス)

サイエンスカフェ@待兼山 Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。

コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気の中で、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して専門家と一般の方々とのコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

- 7月21日（土）『論語』を読む 湯浅 邦弘（文学研究科）
- 7月28日（土）「最新の航空機技術」宮本 洋（JAL-日本航空株式会社）、辻本 良信（基礎工学研究科）
- 8月4日（土）「古い時代の英語の文字について——古英語を中心に」加藤 正治（文学研究科）
- 8月11日（土）「はじめての漢方」島田 佳代子（薬学研究科）
- 8月18日（土）『音声』『音声信号処理』を身近に感じよう！川村 新（基礎工学研究科）、早坂 昇（基礎工学研究科）
- 8月25日（土）「日本中世ぼちたま物語」芳澤 元（文学研究科）
- 9月1日（土）「放射能とは一身の回りの放射能を調べてみようー」篠原 厚（理学研究科）
- 9月8日（土）「東日本大震災で起こった巨大津波の原因を探る」廣野 哲朗（理学研究科）
- 9月29日（土）「分子の右手と左手を作り分ける」真島 和志（基礎工学研究科）
- 10月6日（土）「平清盛とその時代」川合 康（文学研究科）
- 10月13日（土）「女性アーティストの作品から見える『ニッポン』」北原 恵（文学研究科）

開催場所：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

開催時間：各回 14：00～15：30

定 員：20～30名程度

参加費用：飲み物代（200円）が必要となります。

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市立中央公民館

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂・とよなかサイエンスネット実行委員会

申込方法：Web からの申込

申込み受付期間確認ページ内のリンクをクリック。http://www.museum.osaka-u.ac.jp

往復ハガキ

カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記。ご家族でお申込の場合、同伴者のお名前、年齢をご記入の上、下記宛てに送付。

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館

申込期間：各カフェ開催日の2ヶ月前～1ヶ月前

*各カフェごとにご確認ください。なお、期間外のお申込みは無効とさせていただきます。

*応募者多数の場合は、原則として抽選で決定させていただきます。抽選結果は、メールもしくはハガキでお知らせいたします。

～その他詳細は、当館ホームページでご確認ください。たくさんのご応募お待ちしております～

（総合学術博物館）



訂正とお詫び

阪大 NOW No.131（平成24年4月号）掲載内容に一部誤りがありましたので、下記の通り訂正するとともにお詫び申し上げます。

P.60「人事」の『新教授紹介』中、吉村崇教授（ラジオアイソトープ総合センター）の専門分野

専門分野（誤）金融経済学、マーケット・マイクロストラクチャー

（正）錯体化学、放射化学、無機化学

INTERVIEW

竹田 幸祐 次の目標は「自前の土俵」

微生物病研究所会計係



日本の国技である「相撲」。普段の生活ではあまりなじみがないかもしれませんが、大阪大学相撲部の監督をしているのは、なんと事務職員の竹田幸祐さん。普段は、会計業務に従事している竹田さんに、相撲部との出会いや学生とのエピソード、今後取り組みたいことについてお話を伺いました。

■ 監督に就任されたきっかけは何ですか

話すすと長くなるが、もともと個人的に知り合いだった名古屋大学相撲部師範の細谷辰之先生にお話をいただいたのが始まり。大阪大相撲部は、平成18年ごろまでずっと休部状態が続いていたが、当時細谷先生は、大阪大相撲部の再発足により、阪名戦を復活させ、七帝戦も盛り上げていきたい、という想いがあった。自分はプロレスと柔道をやっていたことがあり、国技である相撲にも興味があったので、先生の熱意に応えたくて監督をやってみようと思った。

■ 相撲部での印象的なエピソードについて教えてください

20 - 30 名の大所帯だった名古屋大学相撲部員が、大阪大相撲部の勧誘ビラを作成し、大阪までわざわざ配りにきてくれた。このような後ろ盾がなければ、相撲部の復活はなかった。

再発足当初はサークルからの始まりだった。それから七帝戦、全国国公立選手権、インカレなどあらゆる大会に出場して実績作りが認められ、平成23年度に念願の体育会に昇格。そのときはサークル時代からの苦労の積み重ねが実を結び、感無量だった。現在は6名の部員がいて、これは国立大学としては多い人数。



相撲部というと、どうしてもハードルが高く思われがち。大阪大相撲部では、できるだけ気軽に入部いただけるような雰囲気づくりをしている。例えば、サークルオリエンテーションで配るビラを工夫したり、これまで相撲に興味のなかった人にも参加してもらえるようなイベントを多く開催したりして、新規部員を開拓している。ちなみに、女性の方も入部可能。学内相撲大会も開催した。参加者全員に弁当を提供し、豪華景品

を用意することで、多くの学生が参加してくれた。ただ費用はすべて自前だったのが少々辛いところ。

あと、学生との接点があることは貴重。今の自分にとって学生との接点があるのは相撲部での活動だけなので。学生と一緒に旅行したり、同じテーブルを囲んで一緒に飲めるのは、事務担当者の立場とは違った接し方ができてよい経験になっている。

■ 今後取り組みたいことはありますか

体育会に昇格したことで、大阪大学未来基金からの補助により、ビニールの土俵マットを購入することができた。普段の練習で活用しているが、やはり本物の土俵がほしい。今は週1回程度、関西大学などに稽古に行ったりしている。自前の土俵が持てたら、子ども相撲や振る舞いちゃんこ、餅つきイベントなど、社会とも連携できそうなイベントをどんどん開いていきたい。

また、最近の大会では、留学生の増加が目立つ。日本文化を世界に押し出していくという意味では、唯一の国技である相撲はいいアピールになるし、大阪大相撲部でも、世界に目を向けて、特にアジアからの留学生を取り込むことで大学の国際化に貢献できればと思っている。

仕事の面でも、自分の所属する微生物病研究所では、タイに感染症共同研究センターがあり、海外と関わるが多い。自分も、現在英語とタイ語の学校に通っている。将来は、海外の大学を回ったりしてみたい。



様々な媒体による大阪大学のブランディングおよび
ユニバーシティアイデンティティの統一を目指す

クリエイティブユニット



日本を代表するデザイナー 田中一光氏によってデザインされた大阪大学のシンボルマークのイチョウの横に、丸みを帯びたテキストで描かれた「大阪大学」が並ぶロゴマークを見ることが非常に多いと思います。この「大阪大学」の文字、皆さんはどのようなイメージを抱かれるでしょうか？

大阪大学

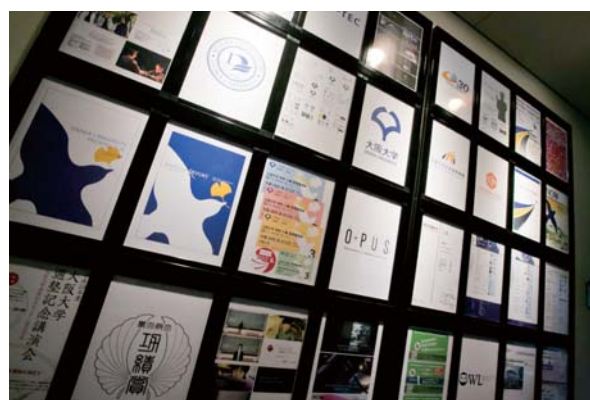
この文字は、フォーマルな形状の中に若さや先進性を感じられるよう、大阪大学クリエイティブユニット（旧ウェブデザインユニット）がデザインしたものです。また最近、様々な場所で「飛翔する鳥」を見ることはありませんか？これも、昨年「原点へ・未来へ」というキャッチコピーで80周年を迎えた大阪大学が、22世紀の未来へ向けて力強く飛翔するさまをイメージしてクリエイティブユニットがデザインしたものです。そしてこのようなデザインは、大阪大学のブランドイメージを牽引し、ユニバーシティアイデンティティ（UI）を形成するものとなります。

このようにクリエイティブユニットは、様々な媒体を通して学内のみならず学外に統一されたデザインを提供することで、大阪大学のブランディングを実施し、UIを確立すべく4年前に本部事務機構に設立されました。トータルディレクター、デザイナー、映像ディレクター、英文エディターなどの教職員で構成され、主な業務としては、大学公式ウェブページのデザインを始め、部局・部署のロゴデザイン、ポスターやパンフレットデザイン、ユーザエクスペリエンスデザイン、英文翻訳サポート、全学ディスプレイシステムO+PUSの運用など多岐に渡っており、一般的なデザイン会社の機能を全て持っていると言っても過言ではありません。また、本部事務機構棟4階で、広報課と同じ居室を共有し、密接な連携を取っており、広報物デザインの

統一化も図っています。

この、広報物のような外部に出ていく媒体のデザイン統一は、UIの確立の観点から非常に重要です。クリエイティブユニットでは大阪大学ウェブライブラリOWL  (<http://owl.osaka-u.ac.jp/>)にて、本学構成員であればライセンスフリーで使用できるパワーポイントテンプレートや写真・画像素材などを公開しています。今後も適宜素材は増やす予定ですが、ご要望などありましたらOWLのウェブフォームからお問い合わせください。

アウトリーチ活動といった、大学の国民に対する説明責任などの重要性が叫ばれているこの昨今、情報をどのように見せるかという命題はますます重要なものとなっており、クリエイティブユニットが果たす役割も大きくなっていくと考えています。国立大学の中で、このような業務を担う部署を持っている大学はほとんどありません。クリエイティブユニットが存在する大阪大学だからこそできる広報活動を目指して、ユニット一同尽力していく所存です。限られた人的リソースの都合上、皆さんからのご要望やご依頼にお応えすることが難しい場合もありますが、何かデザインのことなどでお悩みの際は広報課を通じてご相談ください。



居室前に掲示された制作物

（クリエイティブユニット 准教授 伊藤雄一）



クリエイティブユニット（旧ウェブデザインユニット）制作実績例



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

大阪大学ロゴ



大阪大学ウェブページデザイン



英語版デザイン・英語翻訳



「だれもが使える
ウェブコンクール」に入賞



大阪大学未来戦略機構
Institute for Academic Initiatives

大阪大学未来戦略機構ロゴ



Osaka university and Panasonic Universal Sight

O + P U S の運用



大阪大学ウェブライブラリ OWL



学内専用サイト マイハンダイ



歯学部ロゴ



大阪大学功績賞ロゴ



全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

全学教育推進機構ロゴ



ICOU ロゴ



職員像ロゴ



冊子・リーフレット



入構許可証



安全衛生ポスター



ハラスメント防止ポスター



エコ阪大ポスター



創立 80 周年記念バス



マイボトル

学生主導の国際交流促進に向けて ーサンフランシスコ教育研究センターの取り組みー

サンフランシスコ教育研究センター長 久保井 亮 一
国際交流オフィス国際交流課 南 さやか

現在、国際的な舞台に積極的に挑戦し活躍できるグローバル人材の育成が望まれています。その中で、サンフランシスコ教育研究センターは、大阪大学の「元気が一番」の学生たちのスプリングボード／インターフェース／ハブになりたいと考え、学生の国際交流を促すための様々な取り組みを行っています。今回の海外拠点だよりでは、当センターが学生の国際交流促進にどのように取り組んでいるのかを参加者の声も交えて紹介します。

■新咸臨丸プロジェクト2011について

本プロジェクト（本PJ）は、本学の創立80周年を祝い、米国サンフランシスコ（SF）・ベイエリアを舞台として、①「新咸臨丸スピリッツ」（適塾スピリッツ）を共有する若手グローバル・イノベーション人材を育成すること、②それを通して真に人類のための未来科学技術を開拓し、新たな文化を創造すること、③日本の新たな国際化と世界に貢献することを目指して平成22年にスタートしました。

これは、明治維新前の激動期に、日本中から集った有志が寮生活をしながら、学生同士で切磋琢磨して、自立した多くの若きリーダーを輩出し、危機にあった日本の国際化をリードした本学の原点「適塾」のスピリッツを復興する意義を込めています。

「独立自尊迎新世紀」を説き、咸臨丸でSFに渡航した福澤諭吉も適塾卒業生の一人でした。日米友好の歴史を開いた咸臨丸のSF渡航150周年の佳節である平成22年に、①SFでの分野横断型の日米若手・学生交流ワークショップの持続的開催、②自立して未来の人類・世界に貢献できるグローバル人材の育成を目指して、本新咸臨丸プロジェクトが発進した意義は大きいと思われます。

さらに、第2回新咸臨丸プロジェクトを計画中に発生した、平成23年3月11日の東日本大震災・福島第一原発事



新咸臨丸PJ：日米学生議論

故は、日本のみならず世界を震撼させた未曾有の大災害・大事故であり、これを受けて本PJも新たな意味を持つこととなりました。前代未聞の危機に際して、如何

に対応し、よりよい社会・文明を築くべきか、未来世代に対する責任の観点からも、科学技術および科学技術者や科学技術政策のあり方を問い、また、その歴史的



新咸臨丸PJ:UCバークレー校キャンパスツアー

な意味を理解して、新たな科学技術・政策を創造する人材を育成し、文明の危機の解決に挑戦するという意識変革の新たな意義が生まれました。

そこで「新咸臨丸プロジェクト2011」（10月26日－11月3日）は、“Build-Back-Better, Go Beyond the Crisis - Challenge to Work Together for Better World (Japan and California)”をテーマとして、①震災からの復興についての2日間にわたる日米の学生の議論、②カリフォルニア大学バークレー校日本学研究センター（CJS）と共催のシンポジウム（“Toward a Sustainable Energy Policy after Fukushima: Voices for Reform”）への参加、③カリフォルニア大学バークレー校の研究室及びスタンフォード大学、シリコンバレー企業等訪問を行い、各研究科・GCOEより19名の参加を得ました。2日間の日米学生議論には、カリフォルニア大学バークレー校・サンディエゴ校、スタンフォード大学等の米国大学院生等16名が参加し、4チームに分かれて議論し、各チームでとりまとめた案のうちどの案が一番かを競うプレゼンコンペを行いました。各チームは大阪大学の学生と米国大学の学生がまざり、本学の教授や米国側の教授等をメンターとし議論を行いました。各チームとも言語の壁、文化の壁を感じながらも互いに刺激あい、休憩時間や睡眠時間を削っての議論となりました。帰国後もユネスココンペへの応募、学生主導の報告会、次回企画に向けての情報交換会へとその活動は繋がっています。本学から参加した学生からは、「This experience gave me a chance to make me think flexible for my career.」、「This is the start point to reconsider my life plan.」、「This great experience gave me an opportunity to see the world, think about my career plan in the future」などの声があり、今後の生き方やキャリアパスを考える上でのよい経験となったと思われます。

なお、本PJ実施に際しては、シンポジウムの基調講演をいただいた本学レーザーエネルギー学研究センター高部英明教授、共催の産学連携本部 VBL・CLIC を始め、OSIPP、GLOCOL、北米同窓会、在 SF 日本総領事館、UC バークレー CJS、大阪市シカゴ事務所、Japan Society 他、多数の方にご協力いただきました。ご協力いただいた方々には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

■ 学生の国際化のための 3 種類の遠隔講義について

SF からの遠隔講義は大学教育実践センター（現、全学教育推進機構）と共同で国際教養科目として平成 17 年から開始し、各方面で活躍されている現地の方を講師として招き、① “What are you?” をテーマとする日本語での前期講義、② UC バークレー等の米国大学教員による英語での後期講義 “Critical Thinking in English” を配信してきました。平成 24 年 2 月 15 日から 2 月 18 日にかけて新たに③英語によるディスカッションを核とする 4 日間の短期集中講義を配信しました。これらの講義には、“What are you doing for others”（世のため人のために何をするのか？）をこれからの高等教育課程で問い続けてほしいという願いが込められています。

この新規講義は、後期遠隔講義を担当いただいているカリフォルニア大学サンフランシスコ校 John Ino 先生とカリフォルニア大学サンタクルーズ校福来寛先生を講師とし、後期遠隔講義で学んできた Critical Thinking の実践編となっています。講義では、文系・理系それぞれの分野の論争的課題を取り上げ、いろいろな立場を紹介したうえで小グループに分かれて議論し、最終的には全員がプレゼンテーションを行いました。参加学生は様々な学部 of 1 年生から 4 年生でしたが、小グループに分かれた 4 日間の集中講義で、学生たちは仲良くなったようです。参加学生からは、「4 日間ありがとうございました！英語の勉強の



集中遠隔講義（SF センター）



集中遠隔講義（豊中キャンパス）

つもりで登録したのですが、内容もとても面白かったです。Skype や iPad など が有効活用された今までで一番ハイテクな授業でした（^^）」とのコメントも届きました。

新規講義の成功には Ino 先生と福来先生をはじめ、大学教育実践センターの岩居弘樹先生と松河秀哉先生そして当センターの、できるだけ質の高い、学生主体

の演習型講義を行いたいとの熱い思いがあったからだと考えます。

また、平成 24 年度の前期遠隔講義も開始し、初回は在 SF 日本総領事館猪俣弘司総領事にご講義いただきました。受講生はほぼ 1 年生で、青年らしい活発な質問が相次ぎ、講義を担当された総領事からは「今日も、元気をもらいました。若者に大いに期待が持てて、嬉しく思います。」とのコメントをいただきました。

当センターから配信しているこれまでの遠隔講義の受講生の中からは、遠隔講義を受講したことにより、より海外に興味をいだき、北米の交流協定校への短期留学に進んだ学生や、遠隔講義を通じてサンフランシスコ・シリコンバレーに興味を持ち、単身シリコンバレーにやってきて北米同窓生に話をきいて自分のキャリアパスを考えるきっかけとした学生たちも増えてきています。

■ 夏季研修他の活動と北米同窓会による支援について

各部局（歯学研究科、理学部、工学研究科、基礎工学研究科、産学連携本部、GLOCOL 他）と協力して各種の学生のための国際交流プログラムの企画・運営・実施を支援しています。

例としては、理学部の夏季短期語学研修（St.Mary's College/SF 高校生との交流）や、工学研究科・基礎工学研究科大学院生対象の夏季研修（UC Davis 研修に伴うシリコンバレー研修 / UC Berkeley の学生との交流会）があります。

大切なことは、いずれの夏季研修でも、また前述の新成臨丸プロジェクトや遠隔講義でも、多くの北米同窓生の協力を得ていることです。

サンフランシスコ教育研究センターは、大阪大学北米同窓会（会員約 500 名・帰国留学生約 50 名・5 支部構成）の事務局も兼務しており、北米在住の同窓生・帰国留学生・旧大阪外国語大学同窓生の皆さんと一緒に、各支部での同窓生と留学中の在学学生を交えた歓送迎会や交流会等を開催支援したり、また学生等の色々な相談にのるなど、北米に留学する皆さんを応援しています。

これからも海外に飛び出す学生のよきシャペロン（応援団）として、学生の皆さんを支えていきたいと思っています。



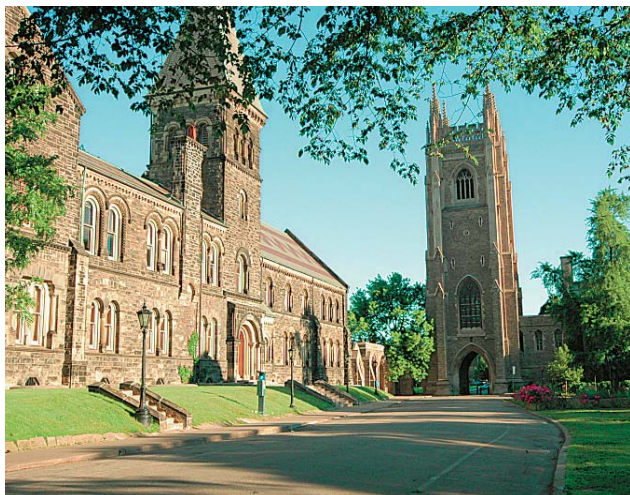
N.Y 地区同窓会 (NY 地域へ留学中の学生も含む)



同窓会懇親会 (ワイナリツアー)

トロント大学

University of Toronto



トロント大学 (University of Toronto、略称 U of T) は、カナダのオンタリオ州トロント市に本部を置く州立の総合大学です。同大学は、その前身であるキングス・カレッジが 1827 年に英国王室の認可を得て設立されたことに始まり (1850 年にトロント大学と名称を変更)、名実ともにカナダを代表する名門大学です。参考までに、大学ランキングのデータを記しますと、Times Higher Education World University Rankings (2011-2012 年) 19 位、QS World University Rankings (2011-2012 年) 23 位となっています。研究レベルも極めて高く、8 名のノーベル賞受賞学者 (生理学・医学賞 3 名、物理学賞 2 名、化学賞 2 名、経済学賞 1 名) を輩出しています。



トロント大学はカナダ最大の大学で、20 の部局と 2 つの分校、7 つ

のカレッジ (学寮)、65 の研究所、センターからなり、これらの組織に約 2,300 名の教員と約 9,800 名の職員が勤務しています。学生数は、学部生が約 55,400 名 (留学生約 5,200 名)、大学院生が約 13,700 名 (留学生約 1,600 名) で、大阪大学の 2 ~ 4 倍に達します。同大学にはセントジョージ、ミシサガ、スカボロの 3 つのキャンパスがあり、主要キャンパスのセントジョージ地区はオンタリオの州都でカナダ最大の都市であるトロントのダウンタウンに位置し、キャンパスの敷地内には美しい美術館、博物館、歴史的建造物、公園や遺跡があります。

トロント大学と大阪大学は 2012 年に大学間学術交流協定を結びました。紹介者の所属する基礎工学研究科では、同研究科と同様に学際的教育研究に取り組んでいるトロント大学応用理工学部エンジニアリング・サイエンス学科 (基礎工学科) との学術交流や学生の交換を計画しています。この協定締結を契機に、今後、様々な学術分野において活発な交流がなされることを期待しています。



トロント大学エンジニアリング・サイエンス学科長 (当時)
W. Cluette 教授 (右) と紹介者

大学 HP : <http://www.utoronto.ca/>

紹介者 : 河原源太 (コンタクトパーソン、基礎工学研究科教授、機械科学)

E-mail: kawahara@me.es.osaka-u.ac.jp

編集後記

今月号の表紙は、豊中キャンパスにある極限量子科学研究センターで撮影しました。まるで宝石のように輝くこの「石」、みなさんは何かわかりましたか？ 8 面体の形をしたこれらの「石」を右の写真のように組み合わせると、ダイヤモンドも精製可能な超高压装置の一部になります。古い装置で、操作ができる人は今では数えるほど。このような稀少な技術は、ぜひ将来につないでいきたいですね。今回ご案内いただいた、加賀山朋子先生、都賀谷素宏先生、研究室の皆様、このたびは貴重な機会をいただきまして、どうもありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。(加賀)



大阪大学夏まつり実行委員会

つなげ3つのC！
—campus community country—



みなさん、こんにちは！

大阪大学夏まつり実行委員会です。私たちは7月に箕面キャンパスで行われる夏まつりの企画・運営を行っています。私たちは「地域交流」「3キャンパス」「国際性」の3つの理念のもとに活動していて、旧大阪外国語大学の伝統が生み出した国際色の豊かさがこの祭りの特徴です。また、周辺地域の祭りへの協力もさせていただいており、地域と地域、人と地域の懸け橋となることを目指しています。世代や文化の壁を乗り越え、一緒になって心から楽しめる夏まつりを学生の手で創り出しています。



そんな夏まつりの見どころといえばまず国際色豊かな模擬店です。旧外大の特徴である25専攻語の学生たちが出店していて、世界各国の味が楽しめます。初めて聞くような料理やなかなか味わうことができない料理の数々が異国情緒を生み出しています。

また、国際色豊かなものとしてステージ企画の一つ、民族衣装コレクションがあります。各専攻語の学生が民族衣装を身にまとい、ダンスなどのパフォーマンスをします。当日はさまざまな国の民族衣装が鮮やかにステージを彩ります。

最後に夏まつりの一番の魅力の一つ、フィナーレを飾る盆踊りです。夏まつりにいらっしゃった全ての人が樽を囲んで踊り、盛り上がりは最高潮に達します。曲目は伝統的なものだけでなく、学生が振付を独自に創作した流行の曲もあります。

今では外国語学部の学生だけでなく、文理問わず様々な学部の学生が所属していて、夏まつりの時期以外にもイベントがたくさんあり、とても仲良く活動しています。

委員長 小家 涼佑 (外3回生)

〈コメント〉

残念ながら僕たちのサークルは新入生のみ、それも4月にしか入会できませんが、7月7日(土)にみなさんがお客様としていらっしゃることを、心よりお待ちしております！



夏まつり

第33回大阪大学

ステージ企画

盆踊り

模擬店

集まれ！夏まれ！

ふつ、別にセクに
合わせたりわじや
ないんだからねっ！

7月7日(土)

午前11時より @大阪大学箕面キャンパス

～アクセス～
大阪モノレール「彩都西」駅徒歩15分
全面車両入場禁止です。当日は公共交通機関をご利用ください。

詳しくはWEBで
公式ホームページ : <http://handai-natsuma.info/>
Twitterアカウント : @natsuma12

活動場所：主に箕面キャンパス BOX・サークル棟
活動時間・日時：週2,3回(不定期)：平日18時～20時
土曜日(月2回ほど)：10時～17時
局 員：3回生21名。2回生60名。1回生120名。
連 絡 先：夏まつりに関するご質問 info@handai-natsuma.info
HP：<http://handai-natsuma.info/>

外国学図書館にラーニング・コモンズ [愛称『LUX(るくす)』] オープン



外国学図書館では、1階自習室をラーニング・コモンズにリニューアルしたことを記念して、4月12日(木)にオープニングセレモニーを行いました。東島清附属図書館長の式辞、高階美行外国語学部長の挨拶に続き、杉村博文副館長を加えた3名によるテープカットの後、電子黒板システムなど、ラーニング・コモンズの設備が紹介されました。

『LUX(るくす)』とは、外国語学部の学部章にも刻まれている“EX ORIENTE LUX ET PAX(光と平和は東方より)”の“LUX(光)”に由来します。またそのロゴは、光の力、文化・知性の交流・交差を表し、

ひとつの力の集まりが、新しい力を生み出していくという考えを象徴しています。

『るくす』では、学生同士がコミュニケーションをとりあい、ディスカッションし、共に考え、共に学ぶ場を提供し、自主的な学習を支援します。この『るくす』には、組み合わせ自由な可動式机や椅子、マルチメディア端末、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボードなどを備えています。また、無線LANが整備済みですので、貸出用PCや個人PCを持ち込んでのWeb利用ができます。

多くの利用者のご来館をお待ちしております。



(附属図書館)

「大阪大学未来基金」へのご寄付のお願い



大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けております。大阪大学の未来を支えるため、企業、団体、個人のみならず皆様からのご支援をお願い申し上げます。
【個人の皆さまへ】

ご寄付の方法：ゆうちょ銀行・金融機関からのお振込、クレジットカードでのお引き落としをご利用いただけます。また、ゆうちょ銀行・金融機関からは毎年1回定額を自動引き落としでご利用いただくことができます。(詳しくは、未来基金のホームページ(www.miraikikin.osaka-u.ac.jp))をご覧ください。基金事務室(下記)までお問い合わせをお願いいたします。

税法上の優遇措置：所得税控除等を受けることができます。(詳しくは、同ホームページでご確認いただけます。)

お問い合わせ先：大阪大学 基金事務室

TEL: 06-6879-8327 FAX: 06-6879-4337 email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

阪大NOW No.132 2012 6月号

2012年6月20日発行

編集
発行

大阪大学広報・社会学連携オフィス
大阪大学広報・社会学連携オフィス広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1
TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7156
ホームページアドレス www.osaka-u.ac.jp

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせにつきましては、下記までお寄せ下さい。
E-mail: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp